

# 内堀遺跡群 XI

一大室公園整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査概報—

1999

前橋市埋蔵文化財発掘調査団







# 内堀遺跡群 XI

前橋市埋蔵文化財発掘調査団







## 序

遺跡地に立ち、北に目を向ければ赤城山が雄々しくそびえています。周辺を見渡すと大室公園が次第に全貌を現しあり、休祭日には遺跡周辺から家族連れの華やかな声が聞こえてきます。一部公開された公園の芝ではボール遊びや芝滑り、水時計周辺では水遊びの子供たちが歎声を上げ、親達はワイルドフラーの美しさに見とれています。

また、古墳群に目を転じれば整備中の後二子古墳をはじめとする大室4古墳の姿が大きくどっしりと浮かび上がっています。

ここ、内堀遺跡群に居住した古代の人々は毎朝、毎夕、自然の恵みや自然の驚異を与えてくれる赤城山の姿と自分たちの支配者やご先祖の雄大な墓を拝み、その姿に畏敬の念をもつことでしょう。

本年度の発掘調査は大室公園の東から五料沼北側、五料沼西側の4カ所です。

中でも特に注目されるのは、さくら草の湿原予定地から発見された一辺10mを越す住居址です。この時期の住居址としましては県内最大級を誇ります。また、古墳時代の竪穴住居址16軒と掘立柱建物跡2軒も発見されており、この巨大住居との位置づけや古墳の築造者との関連等、古代へのロマンが広がってきました。

この巨大住居址は、将来の活用を見据えて前橋市公園緑地課のご厚意と協力を受け、現位置に保存されることになりました。関係各位のご厚意に対し心より感謝申し上げる次第です。

本報告書を一読して内堀遺跡群解明のためにご指導、ご助言等をいただけるとともに、古代史の解明に少しでも役立てれば幸いです。

平成11年3月26日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

## 例　　言

- 1 本報告書は、前橋市が整備する大室公園に係る内堀遺跡群内堀遺跡、下縄引II遺跡、梅木遺跡の発掘調査報告書である。
- 下縄引II遺跡…A区（さくら草の湿原）、梅木遺跡…B区（管理事務所）、C区（付替道路）  
内堀遺跡…D区（お祭り広場）
- 2 遺跡は群馬県前橋市西大室町2517, 2530, 2545番地に所在する。
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 渡辺勝利が前橋市長 萩原弥悠治と委託契約を締結して実施した。調査担当および調査期間は以下のとおりである。
- 調査担当者 佐藤則和・安立聰（前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査係）  
発掘調査期間 平成10年4月23日～平成10年12月9日  
報告書作成期間 平成10年12月10日～平成11年3月26日
- 4 本書の原稿執筆・編集は佐藤・安立が行った。なお、VI成果と問題の「2 下縄引遺跡の集落について」は、井上唯雄（前橋市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係発掘調査指導員）が原稿執筆にあたった。整理作業をはじめ報告書の作成には、佐藤佳子・下境真由美・下境弥・高畠八栄子・内藤貴美子・峰岸あや子・吉田真理子の協力があった。
- 5 発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

## 凡　　例

- 1 掘図中に使用した北は座標北である。
- 2 掘図に、建設省国土地理院発行の1/20万地形図（長野・宇都宮）と1/5万地形図（前橋）を使用した。
- 3 本遺跡の略称は10E 11である。
- 4 各遺構・住居址の施設名の略称は次のとおりである。  
H…古墳時代の住居址、D…土坑、F…炉址、P…柱穴・貯蔵穴、B…掘立柱建物跡
- 5 遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。  
遺構 住居址・土坑…1/60、炉址・竈址…1/30、全体図1/300、1/500、1/5000  
遺物 土器…1/3、石器…2/3、1/2、1/4、玉類…1/1
- 6 スクリーントーンの使用は次のとおりである。  
遺構平面図 烧土…■、炭化物…■、粘土…■  
遺構断面図 烧土…■、炭化物…■、粘土…■、構築面…■  
遺物実測図 須恵器断面…黒塗、石器使用痕…
- 7 遺物分布図のシンボルの使用は次のとおりである。  
赤…●土器、▲須恵器  
青…●玉類、▲…砥石、■…紡錘車、○…鐵器、石器…△  
なお接合状態は実線で結んだ。
- 8 本文中の数値の（ ）は現存値を示し、〔 〕は復原値を表す。
- 9 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。  
As-B (Bテフラ：供給火山・浅間山、1108年)  
Hr-F A (F Aテフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)  
As-C (C軽石：供給火山・浅間山、4世紀中葉)

# 目 次

## 序

I 調査に至る経緯 ..... 1

## II 遺跡の位置と環境

- 1 遺跡の立地 ..... 5  
2 歴史的環境 ..... 5

## III 調査の経過

- 1 調査方針 ..... 8  
2 調査経過 ..... 8

IV 層序 ..... 10

## V 遺構と遺物

- 1 A区さくら草の湿原 ..... 11  
2 B区管理事務所 ..... 19  
3 C区付替道路 ..... 19  
4 D区お祭り広場 ..... 20

## VI 成果と問題点

- 1 H-12号住居址について ..... 23  
2 下締引II遺跡の集落について ..... 28

## 図 版

図版 1 A区さくら草の遺跡全景

- P.L. 1 A区H-1~5・9号住居址
- 2 A区H-6・8・9号住居址
- 3 A区H-8・10・11・14号住居址
- 4 A区H-12号住居址
- 5 A区H-12号住居址
- 6 A区H-12・13号住居址
- 7 A区H-13・15・16号住居址
- 8 A区B-1・2掘立柱建物跡、A区全景  
B区全景、C区トレント
- 9 D区全景、D区H-1号住居址
- 10 D区H-2~5号住居址
- 11 A区H-2~4・6・8号住居址出土の土器

図版 2 H-12号住居址出土遺物

- P.L. 12 A区H-8号住居址出土の土器
- 13 A区H-8・10・12号住居址出土の土器
- 14 A区H-12号住居址出土の土器
- 15 A区H-12号住居址出土の土器
- 16 A区H-12号住居址出土の土器
- 17 A区H-12・13号住居址出土の土器
- 18 A区H-13・14・16号住居址出土の土器
- 19 A区H-16号住居址、表様、出土の土器  
D区H-1・5号住居址出土の土器
- 20 D区H-5号住居址、グリッド出土の土器
- 21 A区H-6・12・16号住居址出土の石製品と鉄製品  
A区H-8・12号住居址出土の玉類
- 22 A区出土の石器

## 挿 図

頁

- |                  |       |
|------------------|-------|
| Fig. 1 内堀遺跡群の位置  | 1     |
| 2 内堀遺跡群調査全体図     | 3・4   |
| 3 内堀遺跡群と周辺遺跡     | 7     |
| 4 平成10年度調査経過図    | 9     |
| 5 内堀遺跡群単土層図      | 10    |
| 6 A区全体図          | 18    |
| 7 B区全体図          | 19    |
| 8 D区全体図          | 22    |
| 9 強り出しお住居址分類     | 25    |
| 10 H-12号住居址空間区割図 | 27    |
| 11 下縄引II遺跡集落分布図  | 31・32 |
| 12 A区H-1・2号住居址   | 49    |
| 13 A区H-3・4号住居址   | 50    |
| 14 A区H-5・7号住居址   | 51    |
| 15 A区H-6号住居址     | 52    |
| 16 A区H-6号住居址     | 53    |
| 17 A区H-8号住居址     | 54    |
| 18 A区H-8号住居址     | 55    |
| 19 A区H-10号住居址    | 56    |

頁

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| Fig. 20 A区H-9・10・11号住居址      | 57    |
| 21 A区H-14・15号住居址             | 58    |
| 22 A区H-12号住居址                | 59・60 |
| 23 A区H-12号住居址                | 61・62 |
| 24 A区H-12号住居址炭化物分布図          | 63・64 |
| 25 A区H-12号住居址遺物分布図           | 65・66 |
| 26 A区H-13号住居址                | 67    |
| 27 A区H-16号住居址                | 68    |
| 28 A区H-16号住居址                | 69    |
| 29 D区H-1・2・3号住居址             | 70    |
| 30 D区H-4・6号住居址               | 71    |
| 31 D区H-5号住居址                 | 72    |
| 32 D区H-5号住居址<br>A区B-1号掘立柱建物跡 | 73    |
| 33 A区B-2号掘立柱建物跡              | 74    |
| 34 A区H-2~4号住居址出土の土器          | 75    |
| 35 A区H-6・8号住居址出土の土器          | 76    |
| 36 A区H-8号住居址出土の土器            | 77    |
| 37 A区H-8号住居址出土の土器            | 78    |

	頁
Fig. 38 A区H-8・10・12号住居址出土の土器	79
39 A区H-12号住居址出土の上器	80
40 A区H-12号住居址出土の土器	81
41 A区H-12号住居址出土の土器	82
42 A区H-12号住居址出土の土器	83
43 A区H-12号住居址出土の土器	84
44 A区H-12号住居址出土の土器	85
45 A区H-12号住居址出土の土器	86
46 A区H-12・13号住居址出土の土器	87
47 A区H-13号住居址出土の土器	88
48 A区H-13・14号住居址出土の土器	89
Fig. 49 D区H-16号住居址出土の土器	90
50 A区表探	91
51 D区H-1・5号住居址出土の土器	92
52 D区H-3・5号住居址出土の土器	93
D区グリッド出土の土器	94
53 A区H-12号住居址出土の玉類	94
54 A区H-12号住居址出土の玉類	95
55 A区H-6・12・16号住居址出土の 石製品と鉄製品	96
56 A区H-1・8・12・13号住居址 D区グリッド出土の石器	97

## 表

	頁
Tab. 1 内堀遺跡群下掘引II遺跡の 住居址名对照表	V
2 発掘調査報告書抄録	VI
3 下掘引II遺跡住居址時期別表	28
4 下掘引II遺跡住居址時期別大型住居址	29
5 残り出しピットをもつ住居址一覧表	33
6 下掘引II遺跡住居址一覧表	35
7 A区柱穴觀察表	39
Tab. 8 A区獨立性建物柱穴物観察表	40
9 A区土坑觀察表	41
10 B区土坑觀察表	42
11 D区土坑觀察表	42
12 A区遺物觀察表	43
13 D区遺物觀察表	46
14 玉類觀察表	47
15 石・鉄製品觀察表	48

Tab. 1 内堀遺跡群下掘引II遺跡の住居址名对照表

『内堀遺跡群II』においては、便宜上H-1からH-16の名称を使用したが、

遺跡の住居址番号は、以下の通りとする。

本報告名称	遺番名	本報告名称	遺番名
H- 1	H-167	H- 9	H- 175
H- 2	H-168	H- 10	H- 176
H- 3	H-169	H- 11	H- 177
H- 4	H-170	H- 12	H- 178
H- 5	H-171	H- 13	H- 179
H- 6	H-172	H- 14	H- 180
H- 7	H-173	H- 15	H- 181
H- 8	H-174	H- 16	H- 182

Tab. 2 発掘調査報告書抄録

ふりがな	うちぼりいせきぐん じゅういち
書名	内掘遺跡群II
副書名	大室公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	第11巻
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	佐藤則和 安立 駿
編著機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編著機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	1999(平成11)年3月26日

ふりがな 所収遺跡群名	ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ード 市町村 遺跡番号	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
内掘遺跡群	内掘遺跡	前橋市西大塚町 2517番地	10201 2530番地	10E11 36°23'15"	139°12'00"	19980423～ 19981209	4920	公園造成
	下萬引II遺跡	2545番地						
	梅木遺跡							

所収遺跡群名 所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 槽	主 な 遺 物	特 記 事 項
内掘遺跡群	集落	古墳時代前期	住居址 1軒	土師器（横式・赤井戸式系含む）	
		古墳時代中期	住居址 1軒	土師器	
	時期不明	住居址 4軒		土師器、土製筋轍車	
内掘遺跡群 下萬引II遺跡	集落	古墳時代中期	住居址 4軒	土師器（石田川式） 石器	H-12号大型住居址を中心とする集落
		古墳時代後期	住居址 6軒	土師器、須恵器、白玉、管玉 ガラス玉、筋轍車、刀子	
	時期不明	住居址 6軒		土師器	
内掘遺跡群 梅木遺跡		時期不明	土坑 1基		

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市の「大室公園整備事業」に先立って行われたものである。この調査は昭和62年度に始まり今年度で12年目になるが、公園建設予定地の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料にすることが目的である。

昭和62年度は、公園予定地約369000m<sup>2</sup>のうち国指定史跡である前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳や山林、沼などを除く約200000m<sup>2</sup>について、東西に10m間隔でトレーンチを入れ

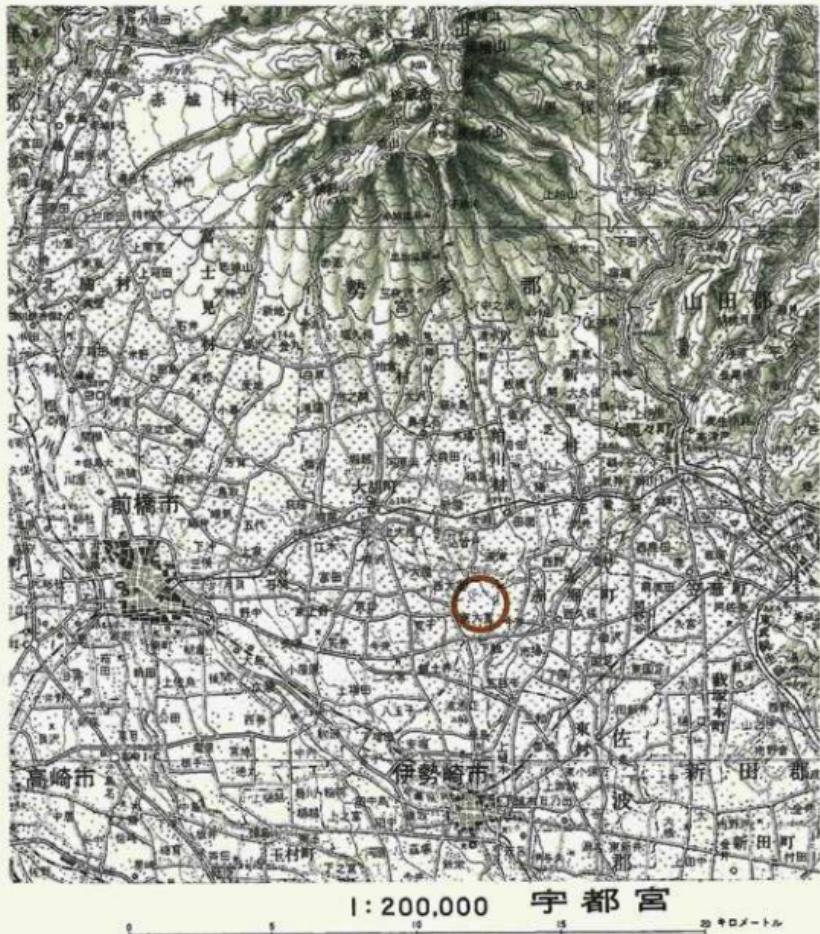


Fig. 1 内坂遺跡群の位置

れる方法で確認調査を行い、予定地全域についての埋蔵文化財の分布状況を知るとともに、その結果を踏まえ（内堀遺跡群Ⅰに収録）、昭和63年度には予定地の北西部約10000m<sup>2</sup>についての発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅱ）。また、平成元年度は、昭和63年度調査区の西側を中心に約12600m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅲ）。平成2年度は、昭和63年度と平成元年度の調査区を取り囲む範囲の発掘調査と確認調査を実施した。発掘調査の面積は約9000m<sup>2</sup>・確認調査の面積は約2500m<sup>2</sup>で合計11500m<sup>2</sup>である（内堀遺跡群Ⅳ）。

平成3年度は、平成元年度第5調査区の南および西側に隣接したL字形の区域約4000m<sup>2</sup>について、後二子古墳・小二子古墳範囲確認調査とともに発掘調査を実施した。平成4年度は公園予定地の北西部にある自然丘陵の東側と西側の部分約9400m<sup>2</sup>について、前二子古墳の範囲確認調査と並行して発掘調査を実施した。また、M-6号墳の範囲確認調査や一部試掘調査も行った（内堀遺跡群Ⅴ）。

平成5年度は、五料沼の北側の部分3130m<sup>2</sup>について、2カ年計画の2年次の中二子古墳範囲確認調査の前に発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅵ）。

平成6年度の調査は、平成5年度の調査区（A区）の水路をはさんだ東側の部分1200m<sup>2</sup>について、2カ年計画の2年次の中二子古墳範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅶ）。

平成7年度は、前橋市の指定文化財「関根家住宅（赤城型民家）」の移設予定地とその周囲道路部分の併せて3000m<sup>2</sup>について、小二子古墳の範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅷ）。

平成8年度は、後二子古墳北側の管理用道路、赤城型民家の南側、内堀4号墳のトレンチ調査等を小二子古墳の調査の前後に実施した。（内堀遺跡群Ⅸ）

平成9年度は、内堀4号墳の全面調査、管理用道路、平成6年度の南側で五料沼に流れ込む水路の東側の調査を実施した。調査面積は確認・発掘調査で約3881m<sup>2</sup>である。（内堀遺跡群Ⅹ）

本年度は、9年度に行われた水路東の対岸、約1580m<sup>2</sup>と、公園管理事務所約400m<sup>2</sup>、桂川に沿った付替道路約2500m<sup>2</sup>、五料沼西のお祭り広場約440m<sup>2</sup>の計4920m<sup>2</sup>の調査を実施した。

調査した部分は、公園整備が予定されている地域で、記録保存を目的とした調査である。なお、初年度以前の経緯については『内堀遺跡群Ⅰ』に詳しく述べられているので本書では省略する。

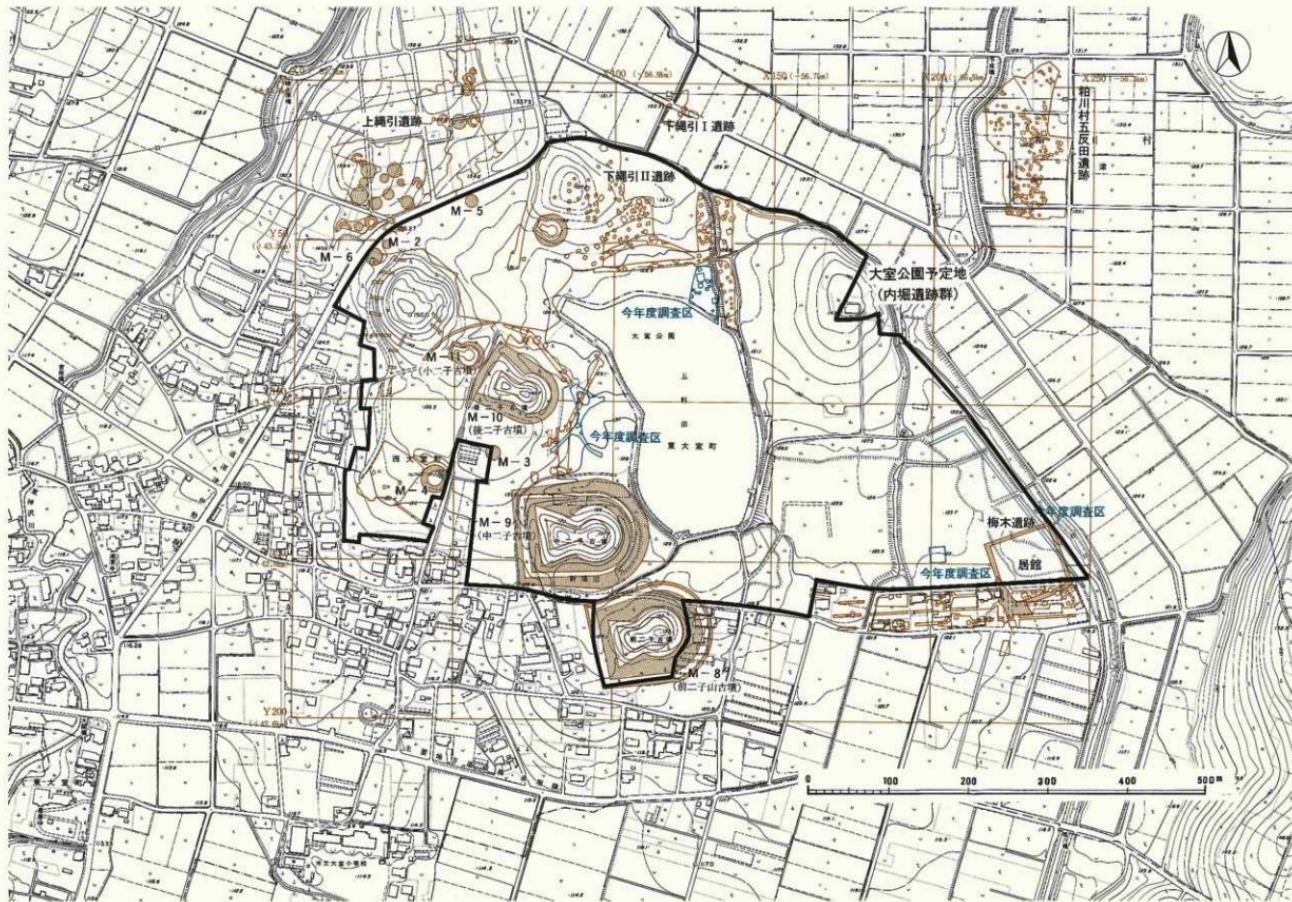


Fig. 2 内堀遺跡群調査全体図

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の立地

内堀遺跡群が所在する前橋市西大室町は、前橋市の中心市街地から東へ約15kmの所にある。遺跡は国道50号線東大室十字路より北へ2kmで、県道前橋・今井線と県道伊勢崎・深津線の交差点から北東1kmに位置している。またJR両毛線伊勢崎駅から遺跡は北約7kmにあり、上毛電鉄新屋駅から近い。東側は多田山と呼ばれる火山泥流による丘陵地形があり、赤堀町との境となっている。また、北に接する柏川村とは、七ツ石とよばれる信仰の対象となっている巨石のある丘陵とそれに連なる丘陵地形を行政上の境界としている。

平成10年度の調査区は、内堀遺跡群（公園予定地）の中において、A区（さくら草の湿原）は五料沼北側に、B区（管理事務所）は公園予定地の南東部に、C区（付替道路）は公園予定地東を流れる桂川の西岸に沿って、D区（お祭り広場）は後二子古墳の東側に位置している。

本遺跡群の東端には五料山とよばれる自然丘陵があり、また、後二子古墳の南側、さらには前二子古墳が造られた所も丘陵地形となっている。この地区の丘陵地形の基盤は、すべて粗粒安山岩よりなる火山泥流によって形成されており、それらが露出しているのが、七ツ石や石山觀音、産泰神社裏の巨石などである。また、平成3年度調査区内から小さな谷地が入り、かつては湧水による小河川があったものと推定される。現在五料山の西側には小河川が流れているが、近世頃にこの谷地の南側に堤を造り、堰止めてできたものが五料沼である。本遺跡のある丘陵の北側には現在水田地帯が広がっているが、下縄引I遺跡や柏川村五反田遺跡の存在からこの地域を当時の生産基盤と考えることが難しいため、上記の谷地を含めた南側に生産基盤を求めたい。平成10年度の調査区の標高は、122m～131mである。

### 2 歴史的環境

内堀遺跡群のある荒砥地区は自然に恵まれた風光明媚な所であるとともに、大室4二子古墳を始めとした周知の遺跡が存在する考古学上にも重要な地域である。そこで、本遺跡群を理解するために周辺の歴史的環境をみてみたい。

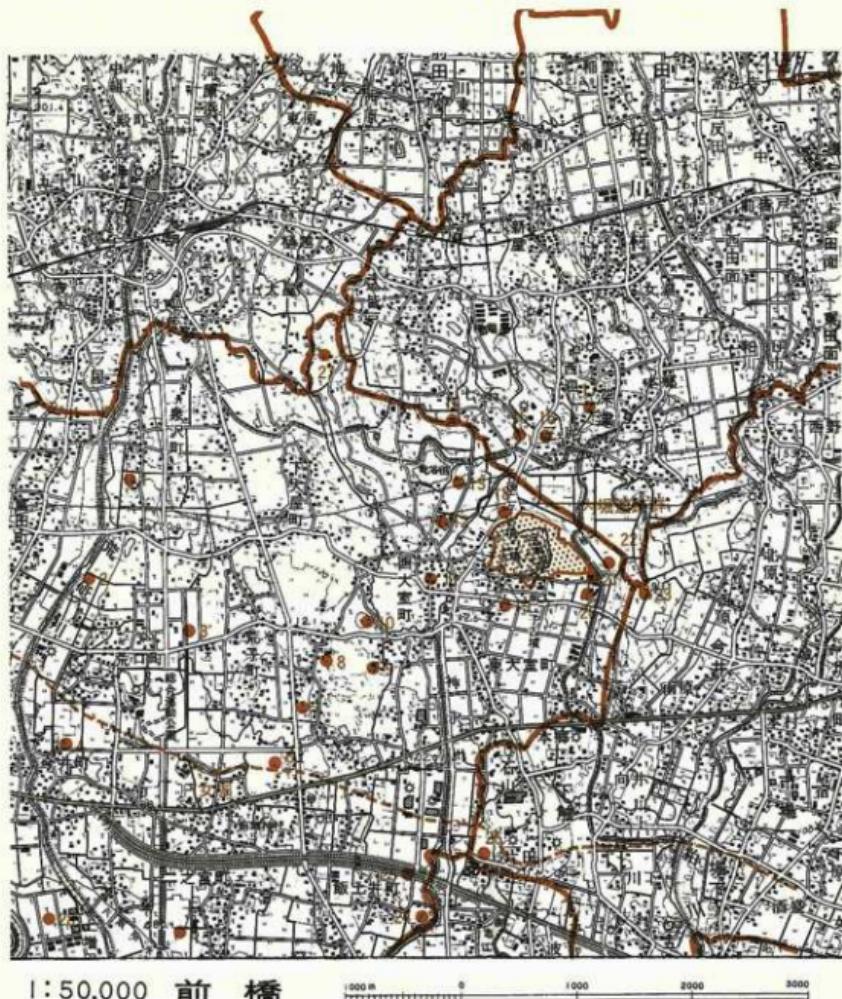
まず、旧石器時代の遺跡として、荒砥川流域の洪積台地先端部を中心に尖頭器がまとまって出土した荒砥北三木堂遺跡④、A T下の国内最大の「環状ブロック群」が検出された下触牛伏遺跡⑤、また、宮川の沖積地に臨む柳久保遺跡群⑥においてナイフ形石器、細石刃等の旧石器文化の遺物が出土している。

続く縄文時代には、草創期の遺跡として爪形文土器が検出された下触牛伏遺跡⑦がある。二本

松遺跡⑤や柳久保遺跡群からは、田戸下層期の土器が出土している。前期の遺跡は、荒砥二之塚遺跡②、荒砥上ノ坊遺跡⑥、荒砥上諏訪遺跡⑨など検出例が多い。中期後半の遺跡も多く確認されているが、いずれも5~10軒の中・小規模の集落にとどまっており、赤城村三原田遺跡、赤堀町曲沢遺跡のような大規模遺跡の存在は知られていない。

弥生時代の遺跡は水田耕作に適した沖積地を臨む台地や微高地に立地しており、中期後半から後期の小規模集落が荒砥島原遺跡⑤、荒砥上川久保遺跡⑩、西原遺跡⑪、西迎遺跡⑫などで見られる。古墳時代前期の遺跡としては、本遺跡の北西に隣接する上縄引遺跡⑬をはじめ、北山遺跡⑯、七ツ石遺跡⑭、久保皆戸遺跡⑮、梅木遺跡⑯などがある。この時期の遺跡は、住居出土の土器を見る限り複雑な様相を呈しており、弥生時代後期の博式・赤井戸式土器はこの時期まで残存し、土師器と共に存する。そのうち、浅間C軽石降下後およびF A降下前の各遺跡の住居は、内堀遺跡群下縄引II遺跡の集落に対応するものであると考えられる。また、下縄引II遺跡の集落の墓域として上縄引遺跡の周溝墓群を考えている。5世紀後半から6世紀代に入ると、赤堀茶臼山古墳⑯をはじめ強大な支配者の存在を暗示する大室4二子古墳が築造され、この地区が当時の中心的様相を呈するようになる。梅木遺跡で検出された首長層の居宅は大室4二子古墳と何らかの関係があると推定される。このほかに居館址として、荒砥荒子遺跡⑦、丸山遺跡⑧などがある。また、荒砥荒子遺跡の豪族居宅遺構と関連し、舞台遺跡1号古墳⑨および西大室丸山遺跡⑩があり、豪族の勢力格差により居宅・古墳の規模、祭祀行為に相違があったことが窺える。6世紀後半から7世紀代に入ると小円墳の群集化が進み、1~3基程度の散在する小円墳も出現するようになり、支配階層の多層化と系列化が進んだことを意味している。柏川村深津の三ヶ尻西遺跡⑪では、7世紀後半の製鉄遺構3基と住居址が確認された。古墳群が密集した地域であることから、有力な豪族が招いた技術者の集落址で製鉄品造りの拠点になっていたと推定される。また、西大室では赤城南麓の古墳時代終末期を代表する載石切組積石室をもつ富士山古墳⑫が築造され、高度な石材加工技術を習得していたことが窺える。

奈良・平安時代には居住域が台地全体に広がり、水田開発が進み、荒砥諏訪西遺跡⑬では微高地まで水田化している。また、12世紀の中頃、開削されたとされる女堀の遺構も残存している。また、奈良~平安時代の炭窯址が横俵遺跡群⑭や柏川村の西原古墳群、大胡町の上大屋・越地区遺跡群等の近隣市町村から検出されており、当時赤城南麓の近隣で盛んに木炭生産が行われていたことがうかがえる。中世以降の城郭としては、大室城⑯、元大室城⑰、今井城、赤石城などがあり、荒砥北三木堂遺跡などでは多数の墓坑が調査されている。また、井戸や溝など近世の遺構も多くの遺跡で確認されている。



- ①丸山遺跡 ②荒砥御訪西遺跡 ③柳久保遺跡群 ④荒砥北三木草遺跡 ⑤荒砥鳥原遺跡 ⑥荒砥上ノ坊遺跡
- ⑦虎砥丸子遺跡 ⑧舞台遺跡1号古墳 ⑨西大室丸山遺跡 ⑩富士山古墳 ⑪大室城 ⑫元大室城 ⑬北山遺跡
- ⑭七ツ石遺跡 ⑮三ヶ尻西遺跡 ⑯西原遺跡 ⑰西造遺跡 ⑱上綱引遺跡 ⑲荒砥上源訪遺跡 ⑳荒砥上川久保遺跡
- ㉑柳木遺跡 ㉒久保皆戸遺跡 ㉓赤堀糸白山古墳 ㉔荒砥二之森遺跡 ㉕一本松遺跡 ㉖下船牛伏遺跡
- ㉗横依遺跡群 ㉘中原遺跡群

Fig. 3 内堀遺跡群と周辺遺跡

### III 調査の経過

#### 1 調査方針

調査の実施にあたっては、国家座標に基づいた原点を据えて、内堀遺跡群全体グリッド（4mグリッドを基本とし、西から東へX 0～X250・北から南へY 0～Y200グリッドの設定枠）を用いた。ちなみにX125-Y50グリッドは第IX系の+43200.000m・-56800.000mで、北緯36°23'15".8002・東経139°12'00".4300に当たる。

調査区域が大きく4箇所に分かれているため、A区（さくら草の湿原）・B区（管理事務所）・C区（付替道路）・D区（お祭り広場）と呼称した。総調査面積は約4920m<sup>2</sup>である。なお、C区については、桂川の氾濫によって遺構面が削り取られている可能性があるため、トレントによる確認調査を行い、遺構面確認後、本調査に入るという形をとった。

調査には期間的制約があるため掘削用重機を用いて表土の除去を行うことにした。並行してグリッド設定、ベンチマーク（水準点）の設置を行った。その後、平板測量で遺構の配置図を作成し、各遺構の調査工程を検討した。具体的には

- 1 遺構の掘り下げは、セクションベルトを設けて土層観察を行ながら進める。
- 2 遺物について、10cm四方以上のものは縮尺1/20にて図化し、それ以下についてはドットで表記した平面図を作成する。取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。
- 3 炉と竈の図化については、原則として縮尺1/10にて、遺構平面図については、原則として縮尺1/20にて実施する。

以上の方針の下に調査を進めた。

#### 2 調査経過

発掘調査は、平成10年4月より現地調査、発掘事務手続き、公園緑地課との事前協議などを十分行ってから、現場事務所の設置や発掘調査用具の搬入など本格的な準備を行った。調査区が分かれているため、今年度の調査区は、A区（さくら草の湿原）・B区（公園管理事務所）・C区（付替道路）・D区（お祭り広場）と設定し、調査工程を考慮してA区→B区→C区→D区の順で調査を進めることにした。

4月23日にバックフォー（0.4m<sup>3</sup>）でA区の表土掘削を開始。27日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。5月6日に表土掘削は終了した。五料沼と接する調査区南西側より沼からの浸水が始まり、日ごとに水位が上昇してきた。今後、梅雨時期の降雨による水没が予想されるので、水没の危険性の高い調査区南側を早急に終了させる方針をとった。調査区南側からは住居址7軒

が検出されたが、いずれも湧き水がひどく、1日にして水没してしまうため、短期間で仕上げなければならない歎しい調査となった。

6月に入り、調査区南半分は水没し、北半分の調査に入る。7月8日にハイライダーによる空中写真撮影を実施、14日に測量、遺物洗浄を終え、A区の現地調査は終了した。その後、文化財保護課内でA区の出土遺物の整理を行ながら、B区の調査の準備を行う。

8月18日よりバックフォー ( $0.4\text{m}^3$ ) でB区の表土掘削を開始、24日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。遺構と思われるプランは確認されたが、塩ビ管やビニールが混入しており、また、遺構面でも現代の陶器などが見られた。そのため、現在の表土が遺構確認面まで達し廻されているという結論により、8月26日にB区の現地調査は終了した。

B区の調査と並行しながら8月25日にC区の調査を行った。C区は桂川沿いに位置するため、桂川の氾濫により遺構確認面が流されている可能性が高かった。そのため、南北に長い調査区に間隔を置いてトレンチを入れ遺構面の確認することから始めた。南側よりトレンチを入れるが、約2m下に桂川の氾濫の際の川砂層が厚く堆積しており、遺構面は確認できなかった。その後、トレンチを徐々に北に移すが状況は変わらなかった。C区は桂川の氾濫により遺構確認面が流されているという結論により、8月27日にC区の現地調査は終了した。

9月1日よりバックフォー ( $0.4\text{m}^3$ ) でD区の表土掘削を開始、8日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。表土掘削を東へ進めるにつれて表土が厚くなり、五料沼から浸水してきた。最も厚いところで3mを越え調査進行に危険な状態になったため、東から南にかけては確認調査のみ行った。10月19日をもってD区の図面作成を終え、12月9日に全調査区の埋め戻しを終了し、現地調査を完了した。

遺物整理作業と報告書作成は10月20日より3月26日まで行った。

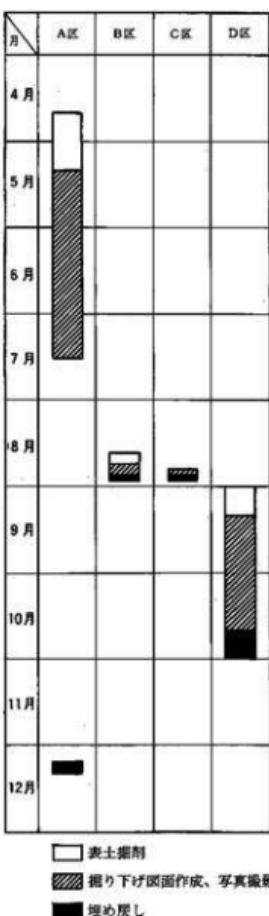


Fig. 4 平成10年度調査経過図

## IV 層序

X98-Y23グリッドの土層を基にして本遺跡の標準土層図を作成した。本遺跡は、内堀遺跡群の北東部に存在し、約20~30万年前に赤城山の山体崩壊によって、引き起こされた梨木泥流によって形成された「流れ山」を中心とした標高129~137mの丘陵性台地である。「流れ山」の頂上には梨木泥流によって運ばれた大形の礫が一部露出し、土層の堆積も薄く、ちなみに層のAT(始良丹沢バミス)が表面から50~60cm程度で検出できる。

- I a層 黒褐色粗砂層。耕作土層。As-B (浅間Bテフラ: 1108年降下) を50%以上含む。粘性なく、締まりあり。
- I b層 黒褐色土層。As-B、As-C (浅間C軽石: 4世紀中葉降下) 、Hr-F P (榛名ニツ岳軽石: 6世紀中葉降下) を含む粗砂層。粘性はないが、締まりはある。
- II a層 As-B 純層。天仁元(1108)年に浅間山より降下した軽石層。わずかに間層をはさんで上部にAs-Kk (浅間船川テフラ) が存在する場合もある。
- II b層 黒色細砂層。As-C、Hr-F P (径20mm) を15%含む細砂層。粘性を有し、締まりあり。
- II c層 暗灰黄色細砂層。粘性は少しあるが、締まりが弱い。
- III 層 黄褐色細砂層。淡色黒ボク土。粘性は少しあるが、締まりが弱い。繩文時代遺物包含層。
- IV a層 明黄褐色硬質ローム層。As-Y P (浅間板鼻黄色軽石: 約1.3~1.4万年前) を10%、As-S r (浅間白糸軽石: 約1.8万年前) やAs-OP1 (浅間大窪沢第1軽石) を5%含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。
- IV b層 明黄褐色土層。ハードローム層。As-Y Pを5%、As-S r またはAs-OP1を10%程度含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。
- V 層 明黄褐色硬質ローム層。As-B P (浅間板鼻褐色軽石群: 1.8~2.1万年前) をブロックで20~30%程度含む層。粘性があり、硬く締まる。
- VI 層 明黄褐色硬質ローム層。As-B P ブロックを15%程度含む。粘性があり、締まりが弱い。

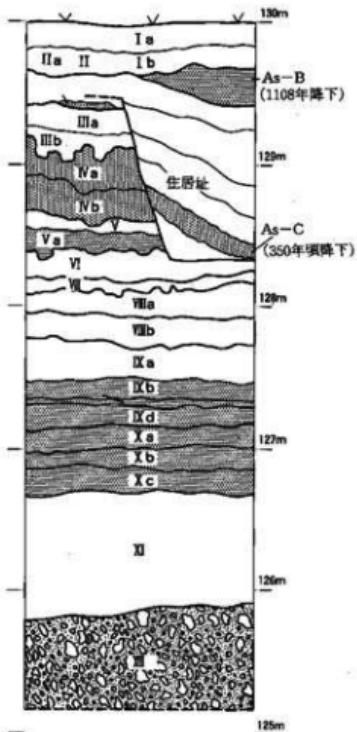


Fig. 5 内堀遺跡群標準土層図

- VII 層 明黄褐色微砂層。風化土壤。粘性を有し締まりは弱い。上部に A T (始良丹沢バミス: 約2.2~2.5万前) の含有が極大値を示す。
- VIII 層 明黄褐色粘土層。暗色帶。粘性が強く、締まりの弱い粘土層。色調で a・b の 2 亜層に分類できる。
- IX 層 明黄褐色粘土層。粘性が強く、締まりのある粘土層。a~d の 4 亜層に分類できる。
- X 層 明黄褐色軽石層。Hr-H P (株名八崎軽石: 4.1~4.4万年前)。3 亜層に分類でき、X a 層は比較的大粒な軽石層、X b 層は火山灰層、X c 層は軽石層である。
- XI 層 褐色粘土層。水性堆積で非常に粘性が強い。
- XII 層 青灰色砂礫層。巨礫によって構成される。梨木泥流(約20~30万年前)によって形成されたと考えられる「流れ山」。

## V 遺構と遺物

### 1 A区 さくら草の湿原 (Fig. 6, PL. 8)

#### (1)住居址

##### H-1号住居址 (Fig. 12, PL. 1)

(位置) X131~132-Y73~74G (形状) 方形と推定される。(方位) N-24°-W

(規模) 東西(3.5) × 南北(2.0) m。確認面からの壁高16.2cm。(面積) (5.4) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-F P、ローム土の混入率の違いにより 3 層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦であり、やや堅い。中央部に50cm径×深さ 7 cm のくぼみあり。

柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

(備考) 時期は不明。南側は調査区域外のため調査できず。

##### H-2号住居址 (Fig. 12, PL. 1)

(位置) X130~131-Y70~71G (形状) 正方形(方位) N-42°-E

(規模) 長軸2.9 × 短軸2.8m。確認面からの壁高58.9cm。(面積) 7.5m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-F P、ローム土の混入率の違いにより 9 層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で全体的に堅敏面が広がる。中央に粘土範囲あり。柱穴は検出されなかった。

(竈址) 東壁中央やや南に位置し、主軸方向は N-41°-E、全長90cm、幅91cmを測る。

ロームを掘り残して形成され、袖先端部に土器の置かれていた形跡がある。

(貯蔵穴) 竈址南隣から 1 個検出。P: 68cm × 50cm × 10cm の方形。

(遺物) 土師器158点、塗彩 1 点、樽式 2 点、石田川式 1 点、須恵器 1 点の総数163点が出土。こ

のうち、1個体図示した。

(備考) 6世紀初頭。

#### H-3号住居址 (Fig. 13, P.L. 1)

(位置) X124~125-Y66~67G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-12° -W

(規模) 東西 (3.5) ×南北4.4m。確認面からの壁高26.4cm。 (面積) (14.3) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土の混入率の違いにより4層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦であまり堅くない。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(遺物) 土師器323点、塗彩2点、石田川式70点の総数395点が出土。うち、3個体を図示した。

(備考) 5世紀初頭。西側は調査区域外のため調査できず。

#### H-4号住居址 (Fig. 13, P.L. 1)

(位置) X125~126-Y65~66G (形状) 長方形 (方位) N-11° -W

(規模) 長軸3.4×短軸2.9m。確認面からの壁高9.6cm。 (面積) 9.3m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土の混入率の違いにより3層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦でかなり堅い。鉄分凝結、炭化物あり。西壁中央近くに45cm径×10cmのくぼみあり。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

(炉址) 中央より100cm×50cm×7.5cmの地床炉を1カ所検出。

(遺物) 土師器121点、塗彩2点、樽式1点、赤井戸式1点、石器1点の総数126点が出土。このうち、4個体を図示した。

(備考) 5世紀末。

#### H-5号住居址 (Fig. 14, P.L. 1)

(位置) X126~127-Y65~66G (形状) 長方形 (方位) N-70° -E

(規模) 長軸3.8×短軸3.2m。確認面からの壁高11.6cm。 (面積) 12.0m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土の混入率の違いにより3層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦であまり堅くない。鉄分凝結あり。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

(炉址) 中央部より62cm×46cm×6.0cmの地床炉を1カ所検出。

(遺物) 土師器100点、樽式2点、須恵器1点、石器2点の総数105点が出土。

(備考) 時期は不明。

#### H-6号住居址 (Fig. 15・16, P.L. 2)

(位置) X130~132-Y65~69G (形状) 正方形 (方位) N-73° -E

(規模) 長軸8.1×短軸8.0m。確認面からの壁高42.8cm。 (面積) (63.1) m<sup>2</sup>

- (覆土) Hr-F P、ローム土の混入率の違いにより5層に大別できる。
- (床面) ほぼ平坦で中央に堅緻面が広がる。壁周辺はあまり堅くない。中央部に47cm×35cmの地床炉と思われる焼土範囲を検出。南壁中央に1.4×1.2mの規模で中央に貯蔵穴をもつ張り出し部がある。
- (周溝) 幅12cm、深さ7cmで竈址、張り出し部を除きほぼ全周。
- (竈址) 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はN-83°-W、全長113cm、幅117cmを測る。構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。
- (貯蔵穴) 張り出し部から1個検出。P<sub>5</sub>…105cm×64cm×33cmの方形。
- (柱穴) 4個を検出。P<sub>1</sub>…72cm×48cm×45.5cm P<sub>2</sub>…100cm×55cm×30.0cm  
P<sub>3</sub>…71cm×53cm×40.0cm P<sub>4</sub>…50cm×37cm×33.0cm  
各柱穴間 P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>…3.6m P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>…4.3m P<sub>3</sub>-P<sub>4</sub>…4.2m P<sub>1</sub>-P<sub>4</sub>…4.7m
- (遺物) 土師器991点、塗彩14点、樽式3点、石田川式3点、須恵器4点の総数1015点が出土。  
このうち、6個体を図示した。
- (備考) 6世紀初頭。東側の一部(竈から南)は調査区域外のため調査できず。

#### H-7号住居址 (Fig. 14)

- (位置) X124~125-Y64~65G (形状) 方形と推定される。(方位) N-13°-E  
(規模) 東西(2.3)×南北3.7m。確認面からの壁高8.7cm。(面積) (7.4)m<sup>2</sup>  
(覆土) Hr-F P、A s-Cの混入率の違いにより3層に大別できる。
- (床面) ほぼ平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。
- (遺物) 土師器7点が出土。
- (備考) 時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。

#### H-8号住居址 (Fig. 17・18, PL. 2・3)

- (位置) X126~127-Y62~64G (形状) 正方形(方位) N-84°-E  
(規模) 長軸6.2×短軸5.9m。確認面からの壁高69.5cm。(面積) 35.7m<sup>2</sup>  
(覆土) A s-C、ローム土、炭化物、焼土、鉄分の混入率の違いにより17層に細分できる。
- (床面) 中央部から竈周辺にかけて堅緻面が広がり、壁周辺はあまり堅くない。構築材と思われる炭化物が多数点在。中央南に入り口と思われる粘土帯あり。
- (竈址) 東壁中央に位置。主軸方向はN-85°-E、全長121cm、幅112cmを測る。  
構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。
- (貯蔵穴) 南壁際中央やや東から1個検出。P<sub>5</sub>…90cm×76cm×38cmの方形。
- (柱穴) 5個を検出。P<sub>1</sub>…31cm×26cm×31.0cm P<sub>2</sub>…31cm×26cm×36.0cm  
P<sub>3</sub>…21cm×17cm×47.0cm P<sub>4</sub>…27cm×27cm×39.0cm

各柱穴間  $P_1 - P_2 \cdots 2.5m$   $P_2 - P_3 \cdots 2.9m$   $P_3 - P_4 \cdots 2.7m$   $P_1 - P_4 \cdots 2.7m$

(遺物) 土師器1423点、塗彩18点、櫛式10点、赤井戸式9点、石田川式20点、須恵器2点の総数  
1482点が出土。このうち、23個体を図示した。

(備考) 6世紀初頭。H-9号住居址と重複。

#### H-9号住居址 (Fig. 20, PL. 3)

(位置) X126~127-Y64G (形状) 方形と推定される。(方位) N-37° -E

(規模) 東西3.4×南北(2.2)m。確認面からの壁高21.6cm。(面積) (3.3) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、As-C、ローム土の混入率の違いにより3層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で、やや堅い。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

(炉址) 南壁際中央部より38cm×30cm×4.0cmの地床炉を1カ所検出。

(遺物) 土師器26点、櫛式2点、石田川式1点、石器14点の総数44点の遺物が出土。

(備考) 時期は不明。H-8号住居址と重複。

#### H-10号住居址 (Fig. 20, PL. 3)

(位置) X128~129-Y63~65G (形状) 正方形 (方位) N-78° -E

(規模) 長軸4.4×短軸4.3m。確認面からの壁高57.0cm。(面積) 19.6m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土、焼土、鉄分、炭化物の混入率の違いにより10層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。中央やや西に構築材と思われる炭化物が点在。南壁中央に粘土帯あり。

(周溝) 幅15cm、深さ6cmで南東コーナーを除きほぼ全周。

(窓址) 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はN-77° -Wで、全長82cm、幅88cmを測る。構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。

(貯蔵穴) 東南隅から1個検出。 $P_4 \cdots 81cm \times 68cm \times 47cm$ の方形。

(柱穴) 4個を検出。 $P_1 \cdots 20cm \times 16cm \times 18.0cm$   $P_2 \cdots 16cm \times 13cm \times 18.5cm$

$P_3 \cdots 21cm \times 21cm \times 52.5cm$   $P_4 \cdots 28cm \times 19cm \times 44.0cm$

柱穴間  $P_1 - P_2 \cdots 1.9m$   $P_2 - P_3 \cdots 2.1m$   $P_3 - P_4 \cdots 2.1m$   $P_1 - P_4 \cdots 2.1m$

(遺物) 土師器834点、塗彩3点、赤井戸式8点、石田川式2点の総数847点が出土。うち、3個体を図示した。

(備考) 6世紀前半。H-11号住居址と重複。

#### H-11号住居址 (Fig. 18, PL. 3)

(位置) X129~130-Y63G (形状) 方形 (方位) N-76° -E

(規模) 長軸3.5×短軸2.8m。確認面からの壁高35.0cm。(面積) (9.3) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土の混入率の違いにより5層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

(遺物) 土師器79点、赤井戸式2点、石田川式1点、須恵器1点の総数83点の遺物が出土。

(備考) 時期は不明。H-10号住居址、D-18と重複。

#### H-12号住居址 (Fig. 22~25, P.L. 4~6)

(位置) X125~128-Y59~62G (形状) 正方形 (方位) N-81° -E

(規模) 長軸10.2×短軸10.1m。確認面からの壁高59.0cm。(面積) 108.4m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、ローム土、焼土、鉄分、炭化物の混入率の違いにより12層に細分できる。

(床面) ほぼ平坦で、中央は特に堅くで壁周辺があまり堅くない。中央より110cm×60cmの地床炉と思われる焼土範囲を検出。南壁中央に長径1.9×短径1.1m、中央に貯蔵穴をもつ張り出し部がある。この張り出し部を囲む2.5×1.8mの粘土帯がある。構築材と思われる炭化物・焼土が多数点在。間仕切り溝あり。

(周溝) 幅17cm、深さ5cmで竈を除きほぼ全周。

(竈址) 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はN-90° -E、全長200cm、幅132cmを測る。構築材にさし入り粘土を用いる。支柱に土器を2つ使用。

(貯蔵穴) 張り出し部から1個検出。P<sub>o</sub>…110cm×100cm×62.5cmの方形。

(柱穴) 主柱穴4個、補助柱穴8個を検出。

P<sub>1</sub>…54cm×44cm×97.5cm P<sub>2</sub>…25cm×19cm×57.5cm P<sub>3</sub>…51cm×49cm×95.0cm

P<sub>4</sub>…60cm×45cm×76.5cm P<sub>5</sub>…31cm×24cm×44.5cm P<sub>6</sub>…26cm×22cm×79.0cm

P<sub>7</sub>…47cm×29cm×21.0cm P<sub>8</sub>…34cm×31cm×19.0cm P<sub>9</sub>…21cm×11cm×26.5cm

P<sub>10</sub>…18cm×24cm×22.0cm P<sub>11</sub>…31cm×11cm×24.0cm P<sub>12</sub>…21cm×19cm×11.0cm

柱穴間 P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>…2.8m P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>…2.4m P<sub>3</sub>-P<sub>4</sub>…5.6m P<sub>4</sub>-P<sub>5</sub>…2.4m

P<sub>5</sub>-P<sub>6</sub>…2.7m P<sub>6</sub>-P<sub>7</sub>…2.2m P<sub>7</sub>-P<sub>8</sub>…3.4m

(遺物) 土師器2849点、塗彩10点、博式25点、赤井戸式16点、須恵器4点、繩文5点、石器92点、

白玉158点、管玉1点、ガラス玉7点、筋錘車5点、総数3001点の遺物が出土。このうち、62個体図示した。

(備考) 6世紀初頭。

#### H-13号住居址 (Fig. 26, P.L. 6+7)

(位置) X128~130-Y61~62G (形状) 正方形 (方位) N-79° -E

(規模) 長軸4.7×短軸4.0m。確認面からの壁高61.3cm。(面積) 19.1m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-FP、Hr-HP、ローム土の混入率の違いにより8層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。北東、西壁付近に焼土範囲あり。

(周溝) 幅14cm、深さ5cmで東壁を除きほぼ全周。

(竈址) 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はN-72°-Eで、全長133cm、幅89cmを測る。袖部に石を用い、粘土で補強。煙出し部に甕（No.105）を使用。土製支柱を使用。

(貯蔵穴) 竈南隣から1個検出。P<sub>1</sub>…64cm×57cm×42cmの方形。

(柱穴) 南壁、北壁にそれぞれ1個、計2個を検出。

P<sub>1</sub>…42cm×1cm×43.5cm P<sub>2</sub>…38cm×34cm×64.0cm

各柱穴間 P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>…4.6m

(遺物) 土師器307点、樽式3点、赤井戸式2点、須恵器12点の総数324点の遺物が出土。このうち、17個体図示した。

(備考) 6世紀後半。

#### H-14号住居址 (Fig. 21, PL. 3)

(位置) X130-Y61~62G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-65°-E

(規模) 東西(3.9)×南北3.5m。確認面からの壁高13.7cm。 (面積) (11.9) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-F P、As-Cの混入率の違いにより2層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦でやや堅い。炭化物・焼土が多数点在。柱穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(貯蔵穴) 南西から1個検出。P…63cm×58cm×15cmの方形。

(遺物) 土師器141点、須恵器1点、鉄器1点の総数144点の遺物が出土。うち、8個体図示した。

(備考) 5世紀末。東側は調査区域外のため調査できず。

#### H-15号住居址 (Fig. 21, PL. 7)

(位置) X125-Y60G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-88°-E

(規模) 東西(1.7)×南北3.4m。確認面からの壁高17.8cm。 (面積) (4.5) m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-F P、As-C、ローム土の混入率の違いにより5層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦でやや堅い。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(遺物) 土師器22点が出土。

(備考) 時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。

#### H-16号住居址 (Fig. 27・28, PL. 7)

(位置) X126~127-Y57~59G (形状) 正方形 (方位) N-25°-W

(規模) 長軸5.1×短軸5.0m。確認面からの壁高39.5cm。 (面積) 24.8m<sup>2</sup>

(覆土) Hr-F P、As-C、ローム土の混入率の違いにより10層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。竈址前に120cm×130cm×7.5cmのくぼみあり。

(周溝) 幅15cm、深さ5cmで甕を除きほぼ全局。

(竈址) 北壁中央やや東に位置し、主軸方向はN-23°-W、全長131cm、幅93cmを測る。構築

材に粘土を用いる。支柱に石を用いて、その上に土器を重ねる。

(貯蔵穴) 3個検出。 P<sub>5</sub>…38cm×36cm×19.5cm P<sub>6</sub>…97cm×63cm×48.5cm

P<sub>7</sub>…81cm×71cm×51.5cm

(柱穴) 4個を検出。 P<sub>1</sub>…20cm×16cm×18.0cm P<sub>2</sub>…16cm×13cm×18.5cm

P<sub>3</sub>…21cm×21cm×52.5cm P<sub>4</sub>…28cm×19cm×44.0cm

各柱穴間 P<sub>1</sub>—P<sub>2</sub>…1.9m P<sub>2</sub>—P<sub>3</sub>…2.1m P<sub>3</sub>—P<sub>4</sub>…2.1m P<sub>1</sub>—P<sub>4</sub>…2.1m

(遺物) 土師器984点、樽式17点、赤井戸式3点、石田川式3点の総数1007点が出土。うち、17個体図示した。

(備考) 5世紀末。

#### (2)据立柱建物

##### B-1号据立柱建物 (Fig. 32, P L. 8)

(位置) X126～128・Y66・67G (形状) 長方形 (方位) N-68° -W (面積) 12.9m<sup>2</sup>

(規模) 長軸4.3×短軸3.0m (遺物) P<sub>18</sub>から土師器1点が出土。 (備考) 時代不明。

##### B-2号据立柱建物 (Fig. 33, P L. 8)

(位置) X129・130-Y64～66G (形状) 長方形 (規模) 長軸6.8×短軸2.5m (方位) N-20° -W (面積) 17m<sup>2</sup> (遺物) なし。 (備考) 時代不明。

#### (3)柱穴 Tab. 7 参照。54基を確認する。

#### (4)土坑 Tab. 8 参照。31基を確認する。

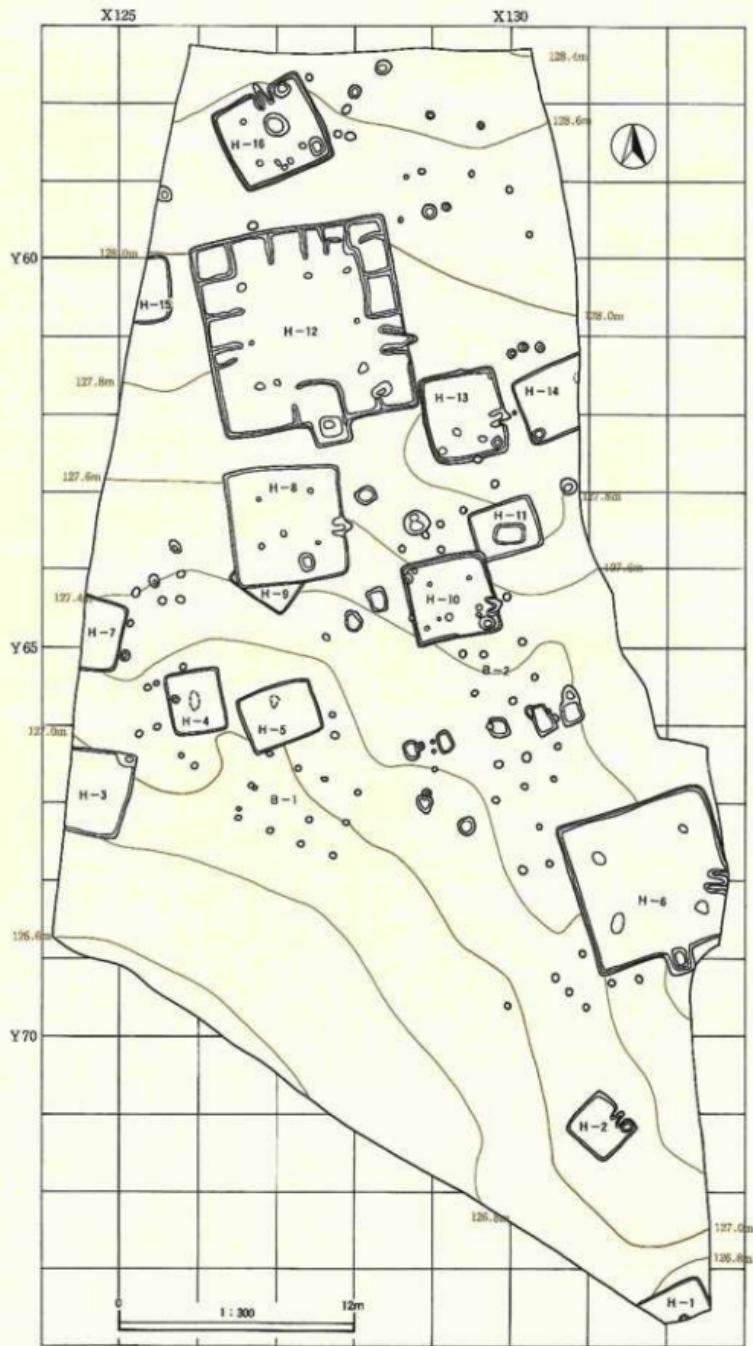


Fig. 6 A区全体図

## 2 B区 管理事務所 (Fig. 7, PL. 8)

現地表面より、1mほど廃材、残土が堆積し、さらにその下40cmほど盛土が堆積。その下にソフトローム層が検出された。遺構存在面と思われる盛土直下のソフトローム面にはいくつかの土坑、溝跡がプラン確認されたが、数個の土坑、溝跡からプラスチック、ビニールが出てきた。また、ほかの土坑も同質の土で埋まっており、これらの土坑、溝跡は後世のかく乱と判断した。その結果、B区は土坑1基の検出となった。(Tab. 9参照。)

## 3 C区 付替道路 (PL. 8)

C区は桂川に沿って南北に位置している。この地域は桂川の氾濫の影響を受けた地域で、現地表面から1~2mの盛土の下に50cmの厚さで川砂、その下に河原石という層序で、遺構が存在すると思われるソフトローム面は壊されていた。この状況はC調査区全域に広がっており、C区での遺構の確認、遺物の検出はなかった。

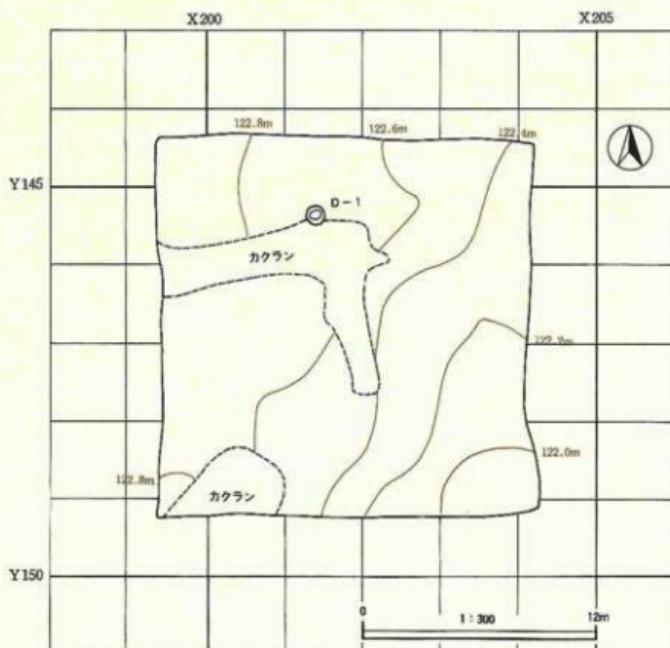


Fig. 7 B区全体図

#### 4 D区 お祭り広場 (Fig. 8, PL. 9)

##### (1)住居址

H-1号住居址 (Fig. 29, PL. 9)

(位置) X92~93-Y97~98G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-68° -E

(規模) 東西5.0×南北(4.8m)。確認面からの壁高58.8cm。 (面積) (28.0) m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより8層に大別できる。

(床面) 堅く、凹凸がある。炭化物が点在。貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(柱穴) 3個を検出。P<sub>1</sub>…16cm×13cm×45.5cm P<sub>2</sub>…20cm×14cm×39.5cm

P<sub>3</sub>…15cm×13cm×56.5cm

各柱穴間 P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>…2.8m P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>…2.7m

(遺物) 土師器119点、搏式11点、赤井戸式1点の総数131点が出土。うち、4個体図示した。

(備考) 4世紀後半。北側は調査区域外のため調査できず。

H-2号住居址 (Fig. 30, PL. 10)

(位置) X87~88-Y99~100G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-14° -E

(規模) 東西(1.9)×南北(3.2)m。確認面からの壁高24.0cm。 (面積) (7.6) m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより2層に大別できる。

(床面) 平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(備考) 時期は不明。H-3号住居址と重複。

H-3号住居址 (Fig. 30, PL. 10)

(位置) X88-Y99~100G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-12° -W

(規模) 長軸3.8×短軸(2.2)m。確認面からの壁高33.0cm。 (面積) (14.7) m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより6層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。特に中央部が堅敏。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(遺物) 土師器19点、搏式3点、紡錘車1点の総数23点が出土。

(備考) 時期は不明。H-2号住居址と重複。「内堀遺跡群VII」のH-6と同一住居址。

H-4号住居址 (Fig. 30, PL. 10)

(位置) X88~89-Y102~103G (形状) 方形と推定される。 (方位) N-79° -E

(規模) 東西(1.8)×南北3.7m。確認面からの壁高46.0cm。 (面積) (16.9) m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより4層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。特に中央部が堅敏。貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

(柱穴) 1 個を検出。P<sub>1</sub>…25cm×20cm×74.0cm

(遺物) 土師器 6 点が出土。

(備考) 時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。平成 7 年度「内堀遺跡群Ⅶ」で一部検出の H-1 と同一住居址。

#### H-5号住居址 (Fig. 31・32、PL. 10)

(位置) X87~89-Y106~108G (形状) 正方形 (方位) N-77° -E

(規模) 長軸 5.6 × 短軸 5.4m。確認面からの壁高 68.3cm。 (面積) 68.8m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより 7 層に大別できる。

(床面) ほぼ平坦で堅い。南壁中央付近に特に堅緻な場所あり。

(周溝) 幅 15cm、深さ 6 cm で南壁中央付近を除きほぼ全周。

(窓) 東壁中央よりやや南に位置し、主軸方向は N-81° -E、全長 141cm、幅 120cm を測る。

構築材に石を鳥居状に組み、粘土で補強。支柱には土器を用いている。

(貯蔵穴) 電南隣から 1 個検出。P<sub>5</sub>…74cm×61cm×93cm の方形。底に粘土塊あり。

(柱穴) 4 個を検出。P<sub>1</sub>…72cm×68cm×83.5cm P<sub>2</sub>…55cm×54cm×85.0cm

P<sub>3</sub>…44cm×38cm×84.5cm P<sub>4</sub>…34cm×31cm×74.0cm

各柱穴間 P<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>…2.5m P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>…2.9m P<sub>3</sub>-P<sub>4</sub>…2.5m P<sub>1</sub>-P<sub>4</sub>…2.9m

(遺物) 土師器 313 点、赤井戸式 3 点、繩文 1 点の総数 317 点が出土。うち、7 個体図示した。

(備考) 5 世紀後半。

#### H-6号住居址 (Fig. 29)

(位置) X88~89-Y109G (形状) 方形と推定される。(方位) N-71° -E

(規模) 長軸 (2.4) × 短軸 2.3m。確認面からの壁高 12.3cm。 (面積) (11.1) m<sup>2</sup>

(覆土) A s-C、ローム土の混入率の違いにより 3 層に大別できる。

(床面) 平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、窓址は検出されなかった。

(炉址) 中央部より 60cm×52cm×5.0cm の地床炉を 1 カ所検出。

(備考) 時期は不明。東側は西側は調査区域外のため調査できず。

#### (2) 土坑 Tab. 10 参照。31 基を確認する。

(注) 炉址、貯蔵穴、柱穴、くぼみの数値は長径 × 短径 × 深さで表記。

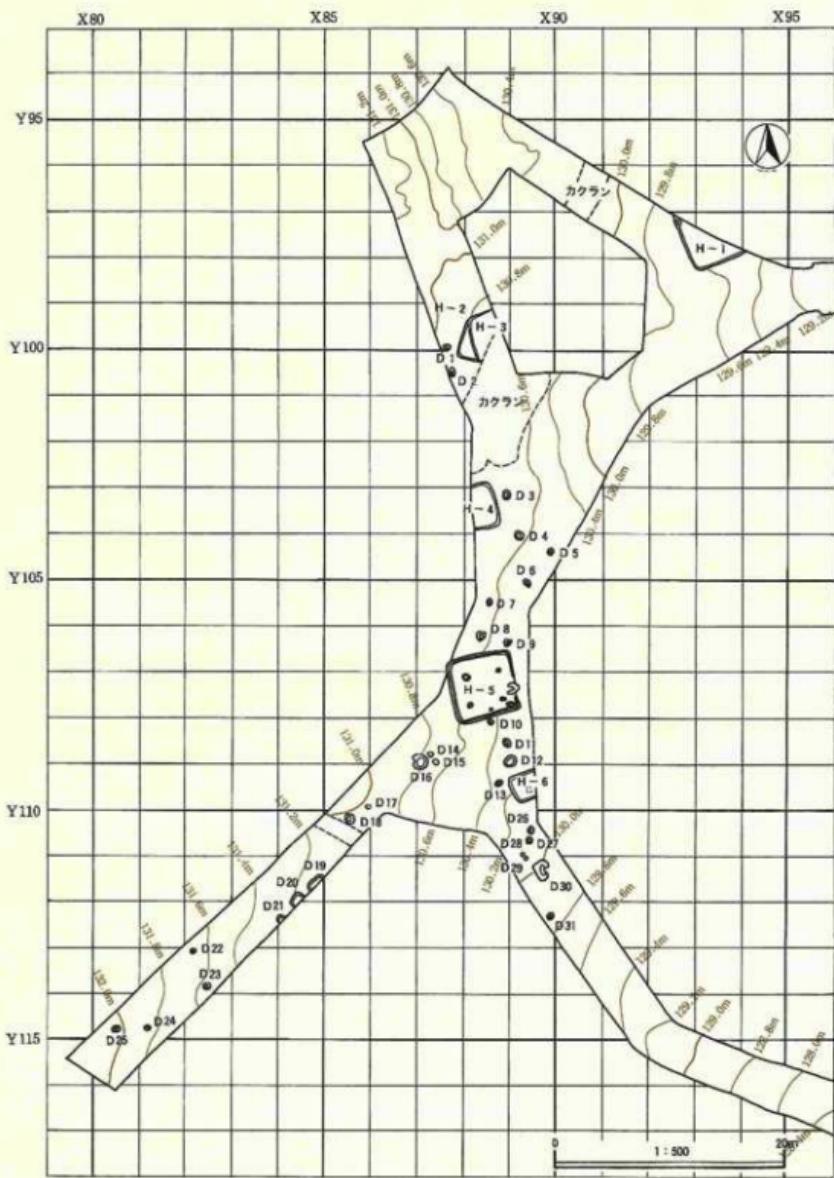


Fig. 8 D区全体図

## IV 成果と問題点

今年度の調査はA～D区の調査を行い、おもな遺構が検出されたのは、A・D区だけだった。A区・さくら草の湿原からは、16軒、D区・お祭り広場からは6軒の住居址が検出された。その結果、A区の位置する下繩引II遺跡全体の住居址は、古墳時代前期87軒、中期30軒、後期28軒、他35軒（平安時代2軒、時期不明17軒、確認調査のみ16軒）の計180軒となった。

（今回、下繩引II遺跡全体の住居址を整理し、内堀遺跡群Xまでの時代別住居数を変更した。）

中でもH-12号住居址は県内においても数少ない10m級の超大型住居址で、施設面においても張り出しピット、間仕切り溝を備えており、関心が寄せられた。そこで、成果と問題点ではH-12号住居址から得た資料をもとに、張り出しピットと住居の空間利用についてと、H-12号住居址の位置する下繩引6遺跡の集落について考察したいと思う。

### 2 H-12号住居址について

#### (1)張り出しピット

H-6・H-12号住居址において方形の張り出し部に貯蔵穴を伴う、いわゆる『張り出しピット』が検出された。内堀遺跡群内では初めての検出例といふこともあり、群馬県内を中心に集成を行った。また比較的報告例の多い南関東の事例についても参考にした。

その分布としては、群馬県内では検出例は少いものの、赤城南麓地域を中心にして、富岡周辺にも若干分布する。県外に目を向けると、東京都八王子市周辺、千葉県の東京湾側などに集中している。

張り出しピットのほとんどは一辺6mを越える大型の住居址南壁の中央に設置される点で共通するが、張り出し部の形状については異なる様相が見られたため、それについて分類を行った。

I類…わずかに張り出すもの。（寺内5号住、熊野堂(2)145号住など）

II類…方形の張り出しをもつもの。

a.馬蹄形状施設と入口ピットをもつもの。（内堀H-12、上ノ台2D-37など）

b.馬蹄形状施設をもつもの。（内匠2号住、東流通団地1-11-8など）

c.入口ピットをもつもの。（中田16号住、石川天野K-1、上ノ台2G-50、2K-57）

d.貯蔵穴のみのもの。（内堀H-6など）

III類…張り出し部の角が取れ、貯蔵穴が丸く小さくなるもの。

a.隅丸方形・橢円形の張り出しをもつもの。（千原台118号住、櫻作093号住など）

b.弧状の張り出しをもつもの。（堤上H-124、舟橋1号住など）

これらのI～III類には北関東と南関東で地域差があるものの、時期的な変遷を追うことができ、

それぞれⅠ期～Ⅲ期に置き換えることができる。Ⅰ期は5世紀末から6世紀初頭、Ⅱ期は6世紀前半を中心に、Ⅲ期は6世紀後半から7世紀以降まで残る。すなわち張り出しピットの出現は竈の出現とはほぼ時期を同じにしている。竈の出現期の住居内における貯蔵穴の位置はまだ竈の脇に固定されておらず、貯蔵穴が竈の対面などの壁の中央付近に設置される例も多い（荒砥北三木堂2区53号住など）。壁中央に設置される例は古墳時代中期以前からの系譜でとらえられよう。

張り出しピットの機能については、型式的に最も発達しているⅡ類について、貯蔵スペースとしての空間のほかに出入り口と考えられる施設が付随される例が多い。その典型的な例として本遺跡のH-12号住居址が挙げられる。南壁の中央に方形の張り出し部が造られ、そこに貯蔵穴が設けられる。その前面には馬蹄形に粘土を張り、中央付近に梢円形の小ピットが斜めに穿たれる。また補助柱穴の位置も張り出し部の前面を避けるように位置する。これらのことから梢円形の小ピットに一本梯子を掛けた出入口が想定される。また、貯蔵穴の堆積や炭化物の出土状態から、住居埋没時まで貯蔵穴として存在し、その上はカヤで覆われていたと思われる。また張り出し部が形式化してしまっているⅢ類では、貯蔵穴を持たないものや小ピットのみの例も多く、出入口の機能のみが残っていったと思われる。

すべての張り出し部を出入口と想定することはできないが、竈が北に設置されても東に設置されても、張り出し部はほぼ南側にあることからその多くは出入口の可能性が考えられよう。また、梯子の下に貯蔵穴があることから、竈脇に設置される貯蔵穴とは別の目的で機能していたと想像できる。また張り出しが集落の拠点的な大型の住居にのみ設けられることが多いこともそれを示唆しているように思われる。単に床面積を拡張し貯蔵スペースを確保するために張り出し部を設けるのならば、むしろ小型の住居に張り出しが多く用いられるはずであるが、逆にスペースを広く使える大型の住居に設けられることがほとんどである。上屋の構造的な問題から大型の住居でしか造ることができなかつた可能性が考えられよう。さらに言うと大型住居の出入口を装飾的・威厳的な意味で張り出させ、その空間を有効利用するために貯蔵穴を造ったものとも考えられる。

張り出しピットは竈出現期に出現した、大型住居に伴うことの多い施設であるが、類例がまだ多くなく、地域的な特徴としてとらえられるものなのか不明である。その機能についても出入口の施設である例が見られるものの、推定の域を出ないものが多い。類例の増加を待って、上屋の構造の問題を含めて検討する必要があろう。

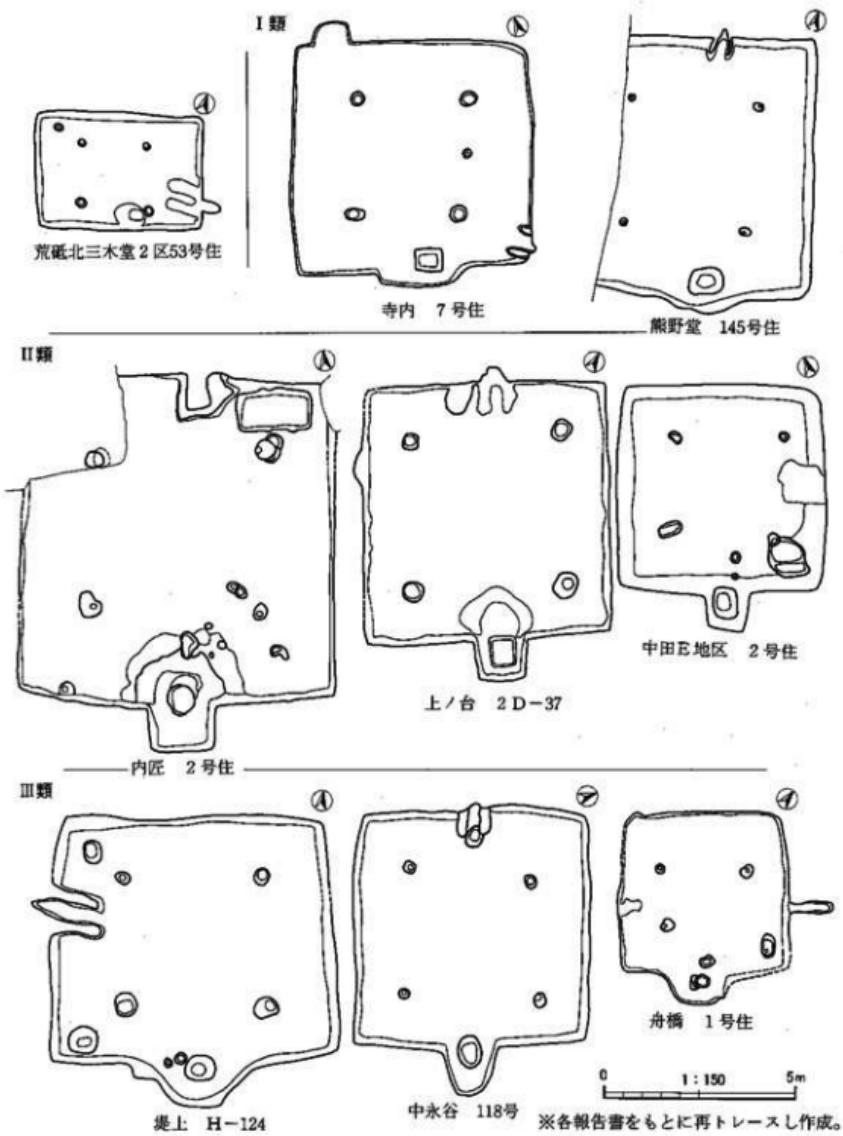


Fig. 9 張り出し住居址分類

## (2)住居の空間利用

主柱の外側に東壁竈北から北壁、西壁中央までコの字状の範囲で壁から垂直方向に17本、壁と平行方向に3本の間仕切り溝が検出された。間仕切り溝は

- ①壁を構築し台座となる丸木材を埋める。
- ②丸太材を埋め、その上に床板を張る。
- ③寝床などの範囲を区画するために丸太材を埋める。

3つの利用方法が考えられ、一般的には③の方法が最も無理がないと思われている。しかし、H-12の場合、溝の間隔が短いところがあり、①、③の方法では面積が非常に狭い区画ができるてしまう。したがって、②の方法で溝が使われていたと考えられる。そして、この間仕切り溝によって、住居内空間は機能的に分割されている。

南東コーナーは、入り口と竈に囲まれた空間で竈を中心とした厨房空間と考えられる。この空間の境である出入口東側、竈北側には柱穴が並んでいる。この柱穴は壁状の仕切りがあった可能性が強く、この仕切りによって厨房空間を独立した空間として形成できる。竈に直結した貯蔵穴は確認されなかったが、竈を中心に甕が多数出土している。

前述の間仕切り溝によって床板が張られたと考えられる空間は寝床等に利用していた居住空間と考えられる。この空間は基本的にはオープンスペースとなっているが、溝の延長線上に柱が存在するところでは壁状の仕切りで空間をさらに分割していた可能性もある。溝は、主柱の外側を竈北側から、北壁、西壁中央や南まで、南を向いてコの字状に存在する。南西の主柱までが床板範囲と考えられたが、①南西の主柱部分に溝がないこと、②西壁中央の溝が対面の東壁の竈北側の溝と一直線上になることから、西壁中央の溝までを範囲と考えた。その考え方をもとにすると住居の中心から北半分を居住空間と位置付けることができる。出土遺物の多くは杯類だが、中には石製紡錘車や須恵器がある。石製紡錘車は6点住居内に点在しており、本住居内で機織関連の作業が行われていたと想定できる。北西コーナー部からは須恵器杯身1点が出土している。このコーナー部の主柱内側のピットを柱穴と仮定すると、北西コーナー部の目隠しになる間仕切りの存在も考えられ、須恵器を所有する有力者の空間が存在していたことも想像できる。しかしH-12全体の須恵器の出土は前述の杯身1個体と小破片1点のみと多くなく、下繩引の同時期の住居址における須恵器の出土数と変わりがないことに注意する必要があろう。

主柱の内側は間仕切り溝の有無だけでなく、床面の硬度からも違いが分かる。床面は同土質であるが、床板が張られていたと思われる主柱外側は軟らかく、主柱内側は踏み固められた微堅な面となっており、この面は竈周辺、張り出し部周辺へ広がっている。このような状況はH-6、8号住居址でもみられ、H-12号住居址と同様な居住空間がつくられていた可能性がある。この空間からは地床炉も検出されている。照明、暖房機能をもっていたと考えられるが、居住空間と考えられる北側でなく、竈と出入口の前に位置する。機能的に考えれば、居住空間の中央に位置するのが効果的だが、あえて、南側につくり居住空間内に広いスペースを作っていることはこの

空間を共有の場として、前述したような機織関連の集団と想定した場合に作業等をするスペースとして利用していたことも考えられる。この空間からの出土遺物は少ないが、地床炉周辺から白玉、管玉、ガラス小玉が出土しており、祭祀に関わる有力者の存在を想定させる。

最後に南西コーナー部の空間であるが、大きな特徴は見られない。古墳時代に入ると貯蔵物資の増大から貯蔵穴の複数化やコーナーでの貯蔵空間の成立が考えられ、この考えをもとにすれば、南西コーナー部を貯蔵空間と考えてもいいのではないか。

出入口と考えられる張り出し部については(1)で述べているのでここでは割愛する。

空間の分割は貯蔵物資の増大により貯蔵空間が成立し、炉から竈への機能分離により厨房空間の成立、そして、間仕切り溝の出現によりさらに明確になったと考えられている。そのような視点から本住居址を考察すると、間仕切り溝によって厨房空間が居住空間から分離され、北半分を居住空間、南半分を厨房・出入口・貯蔵空間として利用していたと考えられる。しかし、このように空間利用が顕著に表れている類例が少ないので、本住居址の空間利用も一住居址の想定例に過ぎず、この時代における空間利用の確立を述べるには至っていない。今後、このような住居内の空間利用の視点からより多くの類例を比較、検討する必要があるだろう。

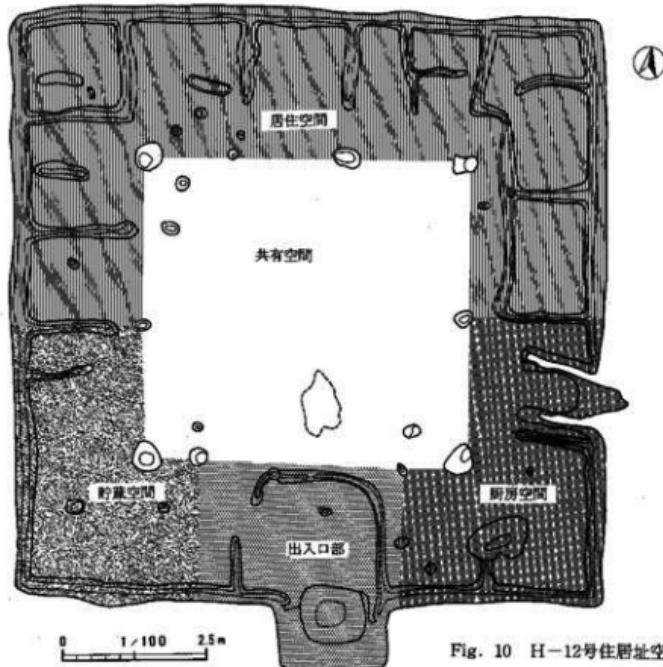


Fig. 10 H-12号住居址空間区割図

## 2 下縄引II遺跡の集落について

### (1) 分布

下縄引遺跡II内における平成10年度内までに調査された住居址は180軒に及んでいる。これらは残丘南東斜面に発見されており、それら住居の営まれた時期を出土遺物、火山噴出物との関係から整理すると、標高との関連が強くうかがわれた。すなわち、集落の区切りを中心に最も高い137mから五料沼のほとりの127m前後までの間を下表のとおり3つに分け、それを時期別に分けてみた。(時期不明のものは除いた)

Tab. 3 下縄引II遺跡住居址時期別表

世紀	時期	137~134m		134~130m		130m以下		合計	
4	中葉	11軒	57.8%	20軒	29.4%	1軒	1.8%	32軒	22.1%
	後葉	6軒	31.6%	32軒	47.0%	17軒	29.2%	55軒	37.9%
5	前半	2軒	10.6%	10軒	14.7%	6軒	10.3%	18軒	12.4%
	後半			1軒	1.5%	11軒	19.0%	12軒	8.3%
6	前半			4軒	5.9%	16軒	27.6%	20軒	13.8%
	後半			1軒	1.5%	7軒	12.1%	8軒	5.5%
合計		19軒	21.2%	68軒	43.6%	58軒	35.2%	145軒	

これで端的に指摘できる点は次の通りである。

ア. 遺跡自体は4世紀の住居址を主体とした集落であるが、6世紀まで継続する。

イ. 標高が下がるにしたがって時期の下る住居址が増加する。

ウ. 各時期毎に大型住居址を伴い、特殊な施設、遺物が検出されている。

こうした傾向の背景には気象状況や地形変化が推定される。集落の拡大は南東方向に向かって低い方へ伸びる。これは、現在、大室公園の「風のわたる丘」の最も高い部分からしだいに南東方向の低標高のところに拡大する。この周辺は北西季節風が卓越しているからそれを避けての占地であろう。

もう一つの低地への移動は、現在、五料沼となっている部分が、小さい河流が流れ込む湿地であり、それが長い間の侵食によって湿地が流されて湿地周縁部がしだいに高燥化したものとみられる。そのため、古くは湿地だったところも、住居址が営める状況に変化したのではないだろうか。これを裏付けるように、五料沼西岸には中期以降の住居址が発見される。

こうした動きは、当時の生産活動と無縁ではなく、4世紀段階の弥生文化の系統を引くような不完全な稲作農耕から、完全な農業社会への発展が背景にあったことは想像に難しくない。

## (2)集落構成

各時期毎の住居址数については表示したが、その内容を検討するとかなり特徴的な集落であるといえる。

ア、比較的早い時期から大型住居を伴い成熟した社会構成を見せる。

イ、大型住居は各時期ともバランスよく配置されている。

ウ、大型住居を中心に出土遺物の中に祭祀関連遺物や特殊遺物を含んでいる。

古墳時代前期の集落は石田川式土器を基底に弥生文化の系譜をひく樽式系、赤井戸系、一部外来系土器を含む複雑な様相を見せている。特に出土遺物の中の樽式系、赤井戸系土器に着目してみると、前者は規模、内容ともまとまりをみせているが、赤井戸系の住居址はばらつきが目立ち、遺物も複雑、多岐にわたる傾向が認められる。特に大型住居はこの両者が融合するやや後出の時期に出現し、住居施設、規模、出土遺物などから一層、社会分化進展の様相をみてとれる。

古墳時代後期の住居址は全体に少ないが、社会分化は一層進み、超大型住居址の出現、掘立柱建物の存在、集落内における区画の様相など集落の整備が認められる。調査が集落全体をカバーするまでに至っていないから全貌を把握するまでには至っていないが、大型住居、掘立柱建物を中心として集落が構成されていた様相をみてとることができる。

そこで、各時期における大型住居を摘出してみよう。

Tab. 4 下調引II遺跡 時期別大型住居址

時期	住居番号	規 模	出 土 遺 物	特 殘 遺 物	特 殘 施 設
4 C 後半	107	7.94×8.44 (67.0m <sup>2</sup> )	壺3、高杯3、錫1	手鏡2、筋縫車状1、磁石1	
4末～ 5初	49	8.27×9.50 (78.6m <sup>2</sup> )	壺3、小甕2、台付甕4、壺2、瓶1 高杯7、器台4、錫1、錫3、磁石1	特殊器台、土製品、土玉 手鏡2 算盤玉	馬蹄状施設 階段状施設
5 C 後半	140	8.30×8.38 (69.6m <sup>2</sup> )	壺3、錫1、磁石3	青銅製品	
6 C 初	178	10.2×10.1 (103m <sup>2</sup> )	大甕2、壺9、小甕7、瓶1、杯33 高杯4、器台2、錫1、大型杯2、須恵器1	ガラス小玉7、管玉1、白玉159 筋縫車5、刀子片1	張出ピット 間仕切り溝

各時期の最大規模の住居を挙げたが、祭祀権と深くかかわった有力階層の存在を想定させる内容である。集落全体を統率するような階層の人物の存在が彷彿としてくる内容である。

大室古墳群に関しては、三つの大前方後円墳は別としても、M-1号墳のようなセカンダリークラスの墳墓が存在する。ところで、M-1号墳の副葬品中に鉄製鎌に関係する「鉄鉗」（カナハシ）がある。これは、おそらくこの古墳の被葬者が製鉄に関連した人物であり、強いていえば

製鉄集団の長であった可能性を秘めている。これに従えば、178号住居の住人もこうした職業集団の長クラスの人物を想定させる。紡錘車に結びつけて考えれば機織技術集団の長であったかも知れない。ならば、この住居は「梅木遺跡の居館」に次ぐランクの有力者の居宅の可能性もある。

4世紀から6世紀にかけての大型住居の継続的な存在は、この周辺のみを対象にした見方ではなく、多田山周辺まで含めた遺構を統合的に検討する中で考える必要があるかもしれない。4世紀の墓域は上縄引遺跡にあるし、5世紀代の赤堀茶臼山古墳とその周辺の遺跡、6世紀代の大室3古墳との関連等、多くの問題を内包した遺跡として、この集落のもつ意味をより強固なものとしている。

#### 参考文献

- 桑原 昭・園部守央 1988 『内堀遺跡群』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
園部守央・加部二生 1989 『内堀遺跡群II』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
園部守央・鈴木雅浩 1990 『内堀遺跡群III』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前原 豊・伊藤 良 1991 『内堀遺跡群IV』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
伊藤 良・前原 豊・戸所慎策 1993 『内堀遺跡群V』 前橋市教育委員会  
関口 孝・前原 豊・戸所慎策 1994 『内堀遺跡群VI』 前橋市教育委員会  
前原 豊・戸所慎策 1995 『内堀遺跡群VII』 前橋市教育委員会  
前原 豊・新井真典 1996 『内堀遺跡群VIII』 前橋市教育委員会  
前原 豊・宮内 繁 1997 『内堀遺跡群IX』 前橋市教育委員会  
戸所慎策・安立 啓 1998 『内堀遺跡群X』 前橋市教育委員会
- 柿沼幹夫 1879 「住居跡について」 『下田・諏訪』埼玉県遺跡発掘調査報告書第21集  
埼玉県教育委員会
- 黒沢はるみ 1992 「弧状の張り出しを持つ住居について」 『上野国分僧寺・尼寺中間地城(?)』  
(財)群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 笛森健一 1991 「堅穴住居の使い方」 『古墳時代の研究』2 雄山閣
- 高橋一夫 1983 「集落分析の一視点—入り口と集落の道—」 『埼玉考古』第21集  
埼玉考古学会
- 渡辺修一 1985 「古墳時代堅穴住居の構造的変遷と居住空間」 『研究連絡誌』第11集  
千葉県文化財センター

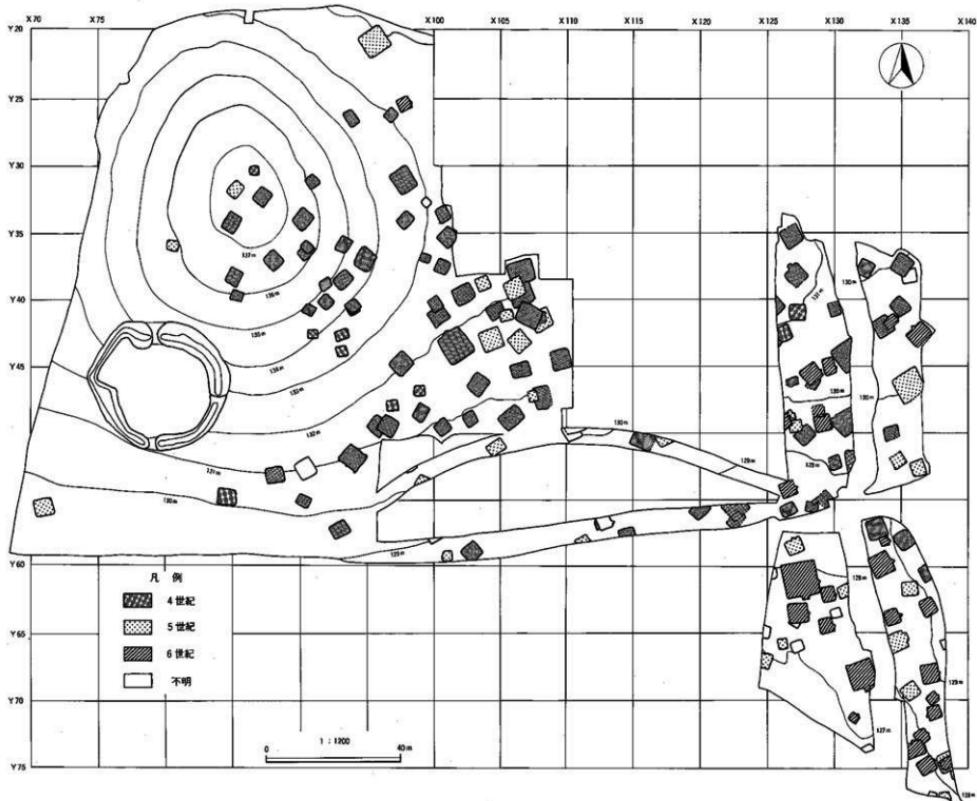


Fig.11 下高引II遺跡集落分布図

Tab. 5 梱り出し部をもつ住居址一覧表

道 路 名	住居址番号	規 模 (m)	梱り出しへ				備 考
			毫 位 置	形 状	規 模 (cm)	ビット	
伊勢崎・東	1-8-6	3.2×3.1	北 南	半円		なし	入口ビット
伊勢崎・東	1-8-52	5.5×5.7	北 南	方形		隋円	
伊勢崎・東	1-11-5	6.5×6.6	北 南	方形		方形	
伊勢崎・東	1-11-8	5.0×5.4	東 南	方形		不定形	
伊勢崎・東	1-20-1	5.2×4.8	北 南	方形		方形	
伊勢崎・東	1-20-3	6.8×7.4	東 南	方形	150×150	方形	
伊勢崎・東	2-4-2	5.3×5.2	東 北	方形		なし	
伊勢崎・東	2-7-6	5.8×5.8	北 南	方形		なし	
伊勢崎・東	2-12-46	5.8×5.7	東 南	方形	90×110	方形	
伊勢崎・東	2-14-2	6.1×5.9	北 南	方形		方形	
伊勢崎・東	2-23-5	7.2×7.3	北 南	方形		方形	
伊勢崎・東	2-23-67	4.9×3.1	北 東	方形		なし	
新田町・西田	H-2	4.9×4.9	北 南	台形	200×50	円	
新田町・西田	H-9	3.0×3.9	東 南	方形	230×100	円	
赤城村・寺内	H-7	6.8×6.4	東 南	弧状	270×48	方形	
赤城村・寺内	H-10	4.8×—	東 南	方形	100×80	方形	
前橋・荒砥三木堂	2区H-16	9.3×8.4	東 南	弧状		なし	馬蹄形状施設
群馬町・井出村東	H-39	5.4×5.3	東 北	方形		なし	
渋川・有馬条里II	H-43	6.9×7.2	東 南	方形	240×120	なし	
群馬町・綾上	H-124	6.4×7.6	西 南	弧状		円	
群馬町・三ツ寺田	H-87	4.4×5.0	東 南	弧状	200×80	なし	
群馬町・保渡田	H-1	6.0×7.0	東 南	台形	230×100	なし	
高崎・熊野堂2	H-145	5.6×6.9	北 南	弧状		方形	
高崎・舟橋	4区H-1	4.3×4.2	西 南	台形		なし	
富岡・内匠	H-2	8.3×8.7	北 南	方形	180×120	円	馬蹄形状施設
富岡・本宿・郷土	MTH-92	5.6×5.7	東 南	方形	90×80	隋円	
八王子・中田	E区H-2	5.3×5.3	東 南	方形	112×100	方形	入口ビット
八王子・中田	E区H-4	8.5×8.5	北 南	方形	140×150	方形	
八王子・中田	E区H-8	9.2×9.1	北 南	方形	190×105	方形	
八王子・中田	E区H-11	11.5×11.7	西 東	方形	178×80	方形	入口ビット
八王子・中田	E区H-16	8.7×8.4	北 南	方形		方形	
八王子・中田	E区H-19	9.4×9.4	北 南	方形	125×80	方形	
八王子・中田	E区H-20	9.2×9.1	北 南	方形	165×125	方形	入口ビット
八王子・石川天野	K-1	6.6×6.6	北 南	方形		方形	
八王子・石川天野3	3T-78	5.0×5.0	北 南	方形	100×60	方形	
八王子・石川天野3	3X-62	6.5×6.5	北 南	方形	150×136	隋円	
八王子・石川天野3	3Z-73	6.0×6.0	北 南	不定形		不定形	
八王子・石川天野3	4C-64	5.3×5.5	北 南	方形	106×70	方形	
八王子・石川天野3	4C-73	6.7×6.2	北 南	方形	60×110	不定形	
東京・三吉野	S102	6.7×6.3	北 南	方形	180×130	隋円	
東京・三吉野	S109	6.5×6.7	北 南	台形	220×100	隋円	
東京・三吉野	S110	8.4×8.5	北 南	隋円	140×170	隋円	
東京・三吉野	S130	8.0×8.0	北 南	方形	170×130	方形	
千葉・桜作	005F	8.1×8.1	北 南	方形	120×100	方形	入口ビット
千葉・桜作	037H	6.9×6.7	北 南	方形	150×100	方形	入口ビット
千葉・桜作	044A	8.6×8.4	北 南	方形	210×120	なし	入口ビット
千葉・桜作	093	9.4×9.1	北 南	方形	180×120	方形	入口ビット

遺跡名	住居址番号	規模(m)	竪	張り出し部				備考
				位置	形状	規模(cm)	ビット	
千葉・複作	120	6.9×6.6	北 南	方形	100×40	方形		
千葉・複作	128	6.5×6.4	北 南	方形	90×60	方形		
千葉・複作	131	6.7×6.5	北 南	方形			方形	
千葉・中永谷	H-21	7.2×7.2	北 南	方形	150×70	円	入りビット	
千葉・中永谷	H-48	6.3×6.5	北 南	不定形			方形	馬蹄形状施設・入りビット
千葉・中永谷	H-57	6.4×6.6	北 南	方形	160×130	円		
千葉・中永谷	H-61	6.9×6.3	北 南	半円	160×110	隋円		
千葉・中永谷	H-83	5.8×5.7	東 南	隋円	120×80	円		
千葉・中永谷	H-88	7.7×8.0	北 南	方形	180×70	円		
千葉・中永谷	H-89	7.5×7.5	北 南	方形	120×90	方形		
千葉・中永谷	H-109	6.6×6.8	北 南	方形	120×70	円		
千葉・中永谷	H-118	6.1×6.2	北 南	隋円	150×110	円		
千葉・上ノ台	2D-37	6.4×6.2	北 南	方形	123×124	方形	馬蹄形状施設・入りビット	
千葉・上ノ台	2D-52	5.8×5.8	北 南	方形	125×123	隋円	馬蹄形状施設	
千葉・上ノ台	2G-50	5.8×5.9	北 南	方形	150×140	方形	入りビット	
千葉・上ノ台	2H-62	6.1×6.3	北 東	隋円	130×120	方形	馬蹄形状施設・入りビット	
千葉・上ノ台	2K-57	9.7×9.8	北 南	方形	117×90	方形		
千葉・上ノ台	2M-65a	4.8×4.9	北 南	弧状	75×83	円		
橋木・西山	S1-1	9.2×9.2	北 南	方形	160×200	方形		

#### 参考文献

- 1982 「伊勢崎・東流通印地遺跡」 群馬県企業局
- 1988 「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡発掘調査報告書」 東京電力株式会社
- 1975 「寺内遺跡」 赤城村教育委員会
- 1991 「荒紙北三木堂遺跡5」 群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 1883 「井出村東遺跡」 群馬町井出村東遺跡調査会
- 1994 「有馬条里遺跡II」 群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 1994 「幾上遺跡」 群馬町教育委員会
- 1985 「三ッ寺遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳」 群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 1990 「熊野堂遺跡II」 群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 1989 「弁舎遺跡」 群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団
- 1982 「内匠遺跡」 富岡市教育委員会
- 1981 「本宿・郷土遺跡発掘調査報告書」 富岡市教育委員会
- 1997 「石川天野遺跡」 八王子市石川天野遺跡発掘調査団
- 1981 「東京・石川天野遺跡3次調査」 慶應大学考古学研究室
- 1996 「三吉野遺跡-1-」 東京都埋蔵文化財センター
- 1992 「千葉市埋作遺跡-千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書V」 千葉県文化財センター
- 1991 「千原台ニュータウンIV 中永谷遺跡」 千葉市埋蔵文化財センター
- 1982 「千葉・上ノ台遺跡」 千葉市教育委員会
- 1996 「西山遺跡」 橋木県埋蔵文化財調査事業団

Tab. 6 下継引II遺跡住居址一覧表

番号	純柄 [m×m] (m <sup>2</sup> )	主軸方向 [度]	電、炉 [底面・高さ(cm)・素材]	出土遺物	施設	時期	備考		
							底面	高さ	
1.	3.65×3.60	65	N-74°-W 伊址 64×52×7	甕(赤井戸), 池3, 他1, 台付甕(赤井戸), 烟口, 高杯3, 壁台1, 打跡1		4 C 中	II 1		
2.	4.53×4.50	12	N-85°-W 不明	小砾片		4 C 後	II 2		
3.	5.60×4.84	70	N-78°-E 伊址 98×52×10	甕(赤井戸), 池2, 十王台2, 小窓2, 窓1, 壁台1, 斜2, 手鉢1		4 C 後	II 3		
4.	4.00×2.80	28	N-56°-E 伊址 54×52×15	甕(赤井戸), 池1, 壁台1		4 C 後	II 4		
5.	3.40×3.06	60	N-80°-E なし	甕(赤井戸), 台付甕2, 高杯2, 打跡1		4 C 後	II 5		
6.	4.10×3.20	30	N-65°-E 伊址 64×55×9	甕1, 高杯1		4 C 後	II 6		
7.	4.00×4.00	30	N-69°-W 伊址 98×80×14	甕(赤井戸), 烟口1, 離窓2, 窓2, スタレーバー1		4 C 後	II 7		
8.	3.58×3.52	20	N-59°-E 不明	甕(赤井戸), 他2			II 8		
9.	3.15×2.70	45	N-88°-E なし	甕(赤井戸), 池1, 他2		4 C 中	II 9		
10.	3.10×3.16	15	N-27°-W 伊址 60×36×5			4 C 中	II 10		
11.	7.40×8.04	84	N-46°-E 伊址 58×42×6	壁台1		4 C 中	II 11		
12.	4.00×3.18	30	N-67°-W 伊址 88×70×17	甕(赤井戸), 台付甕2, 十王台2, 烟口1, スタレーバー1		4 C 後	II 12		
13.	5.50×5.52	80	N-35°-W 伊址 88×41×8	打跡石 高杯1, 打跡1		4 C 後	II 13		
14.	5.40×4.40	75	N-61°-E 伊址 56×36×7	(焼)甕1, 他2, 離窓1		4 C 後	II 14		
15.	6.75×5.82	90	N-38°-E 伊址 F1 60×58×6 F2 60×44×5	甕(赤井戸), 池5, 天井石1, 台付甕(赤井戸), 高杯3, 窓1 前壁車(断面形状), 石1, 断面形状, 土2		4 C 中	II 15		
16.	5.84×5.82	65	N-61°-W 伊址 64×64×16 上塗板附の伊壁石	甕(赤井戸), 池1, 高杯1, 窓1, 石器1, スタレーバー1		4 C 中	II 16		
17.	5.43×5.13	45	N-50°-W 伊址 80×55×14	甕(赤井戸), 台付甕(赤井戸), 前壁車1		4 C 中	II 17		
18.	4.22×5.07	70	N-30°-E 不明	甕(赤井戸), 高杯1		4 C 後	II 18		
19.	5.50×5.16	8	N-88°-E 不明	甕1		5 C 後	II 19		
20.	3.74×3.48	32	N-30°-W 伊址 40×35×8	甕1, 高杯1, 烟口1		4 C 中	II 20		
21.	5.00×4.90	65	N-40°-W 伊址 48×21×4	台付甕1, 烟1, 窓1, 他1		4 C 中	II 21		
22.	4.11×4.20	19	N-25°-E 伊址 58×53×9	甕1, 台付甕1, 烟1, 壁台1		4 C 中	II 22		
23.	3.15×2.65	17	N-25°-E なし			4 C 後	II 23		
24.	6.08×7.12	93	N-35°-E 伊址 75×54×5	甕(1, 他1), 台付甕(赤井戸), 石器1, 烟口1, 高杯1 壁台1, 他1		4 C 中	II 24		
25.	4.62×3.72	75	N-35°-E 伊址 67×43×6	甕(赤井戸), 他1, 烟1		4 C 中	II 25		
26.	6.03×5.83	81	N-35°-E 伊址 60×54×10	甕(赤井戸), 池1, 他1, 台付甕1, 高杯2, 壁台2		4 C 中	II 26		
27.	5.93×4.30	35	N-44°-E 伊址 80×56×7	甕(赤井戸), 他1, 烟(赤井戸)		4 C 中	II 27		
28.	3.35×3.21	58	N-44°-E 伊址 50×38×4			4 C 中	II 28		
29.	4.90×5.49	80	N-40°-E 伊址 72×57×8	甕(1, 他2), 高杯1, 烟罐1		4 C 中	II 29		
30.	3.57×3.56	58	N-40°-W 伊址 65×53×7	甕(1, 他2, 他2, 高杯2, 壁台1, 烟1, 片口土器1)		4 C 中	II 30		
31.	5.03×4.75	76	N-40°-E 伊址 87×55×8	小窓1(赤井戸), 他1, 高杯2		4 C 中	II 31		
32.	4.67×3.63	26	N-30°-E 伊址 78×70×10	甕(赤井戸), 池1, 月牙形1, 前壁車1		4 C 後	II 32		
33.	4.60×3.58	52	N-44°-E 不明	甕(赤井戸), 他1		4 C 中	II 33		
34.	2.61×2.39	26	N-44°-E なし			4 C 後	II 34		
35.	4.58×3.30	80	N-35°-E 伊址 60×44×6	甕(1, 他1), 高杯(1, 他1), 壁台2, 他1, 烟罐1, 破石1		4 C 後	II 35		
36.	4.04×4.86	63	N-38°-E 伊址 77×48×3	土器片2, 石1			II 36		
37.	4.60×5.37	77	N-29°-E 伊址 61×54×8	土器片			II 37		
38.	3.75×3.06	68	N-81°-W 伊址 F1 68×34×9	打跡石 F2 45×38			II 38		
39.	7.84×8.06	43	N-57°-E 伊址 98×87×8	打跡石1, 小窓2, 他1, 高杯(赤井戸), 他1, 壁台1			II 39		
40.	3.06×5.10	18	N-34°-W 伊址 53×48	甕(1, 他1)			4 C 後	II 40	
41.	欠番								
42.	3.42×3.47	46	N-45°-E なし	甕1, 烟罐1			4 C 後	II 42	
43.	3.76×3.71	58	N-25°-W 複数 室造中央	火141 池115 肥土 大甕1, 陶器杯2, 烟罐1(MT15)			6 C 前	II 43	
44.	3.86×4.27	36	N-23°-W 伊址 F1 98×76	F2 44×28 烟1, 烟口1			4 C 中	II 44	
45.	5.28×5.89	29	N-37°-E 伊址 F1 120×98×6	F2 81×40 甕(赤井戸), 池1, 台付甕(1, 他1), 甕(赤井戸), 赤井戸+池1 高杯1, 土器罐1, 烟罐1			4 C 中	II 45	
46.	4.49×4.27	77	N-45°-E 伊址 F1 72×61×3	打跡石 F2 53×30×4 甕(赤井戸), 台付甕(1, 他1), 小窓(1, 他1), 烟(1, 他1), 高杯1 堆石管1, 住居の周囲から堆石管1, 烟1			4 C 中	II 46	

号数	規 模	主軸 方向	電、炉	出 土 遺 物		施設	時期	報告書 編號
				位置	横幅(cm)・高さ			
47	3.80×4.88 72	N-31°-E	炉# F1 82×51×5 F2 39×34×6	甕(第3,赤井戸), 台付窓2, 大腹1, 小腹1, 直(第1), 高杯1, 蓋合1, 砂石2, 純2, 扇形1	馬鹿形收斂窓(赤井戸)	4 C 中	W47	
48	3.38×3.38 9	N- 2°-W	炉# F1 75×35	甕(赤井戸), 手捏1			4 C 後	W48
49	8.27×9.50 11	N-34°-W	炉# F1 100×75×8 F2 88×84×8	甕(赤井戸), 壷1, 直1, 台付窓4, 大腹1, 小腹3, 窓1, 高杯7, 小腹1, 罐1 甕(赤井戸), 壺1, 窓1, 台付窓4, 上面焼1, 手捏1, 土製品1 蓋合1, 砂石1, 土製品1, 土側窓1, 砂石2, 砂石1, 四石1	馬鹿形收斂窓(赤井戸) 馬鹿形收斂窓(北西側)	4 C 後	W49	
50	3.77×3.43 55	N-82°-E	炉# F1 73×67×5	甕(赤井戸), 壺1, 直1, 台付窓1, 大腹1, 小腹1, 窓1, 扇口付小腹1 直1, 小腹1, 窓合1, 窓1, 大腹1, 砂石1			4 C 後	W50
51	6.28×6.12 16	N-68°-E	炉# F1 43×31 F2 58×65 F3 42×33	台付窓1, 罐1, 窓1			5 C 前	W51
52	4.22×3.83 13	N-71°-E	炉# F1 76×61 F2 70×55 F3 65×48	甕1, 高杯2			5 C 前	W52
53	6.04×5.35 69	N-66°-W	炉# F1 57×38×6	台付窓(第1, 壺1), 小字台窓1, 壺1, 窓1, 蓋合1, 小土窓1, 手捏1, 砂石1			4 C 後	W53
54	3.56×4.25 30	N-30°-W	炉# F1 55×37×4	甕1, S字台窓1, 壺1			4 C 後	W54
55	矢矢							
56	5.17×4.88 11	N-56°-E	炉# F1 136×83	S字台窓1, 甕(薄1), 高杯1, 蓋合(次山式に似む)			4 C 後	W56
57	5.66×6.04 30	N-56°-E	炉# F1 103×94×7 F2 92×54 F3 53×53	小腹(赤井戸), 甕(薄1), 高杯1, 手捏1			4 C 中	W57
58	2.87×2.58 14	N-83°-E	炉# F1 39×39				4 C 後	W58
59	6.80×5.18 87	N-50°-E	炉# F1 68×38×6 F2 80×58×6	甕(第1,赤井戸1), 台付窓3, 大腹(第1), 高杯3, 小腹1, 手捏2, 土製品1 扇形2, 砂石1	馬鹿形收斂窓(赤井戸) ベヤマ達磨(丸, 壺)		4 C 中	W59
60	6.40×(2.30) 55	N-17°-W	不規	片口瓶1			不明	W62
61	(5.93)×6.23 44	N-16°-W	炉# F1 120×86×8 F2 76×82×6 F3 80×59 F4 132×92×7 F5 132×92 F6 15×11 F7 38×23	甕(第1,赤井戸1), 壺(薄1), 砂石1, 砂石1, 砂石1			4 C 中	W61
62	6.74×5.80 30	N-75°-E	炉# F1 127×115×8 F2 103×85 F3 70×49 F4 57×33	甕2, 台付窓(赤井戸1, 壺1), 小字台窓1, S字台窓1, 甕(南岡田系), 壺1 高杯1, 壺1, 小字土窓2	馬鹿形收斂窓(南)		4 C 後	W62
63	5.37×5.43 43	N-42°-E	炉# F1 71×43×8	甕1, 高杯1, 砂石1			5 C 戰	W63
64	7.30×6.47 66	N-65°-W	炉# F1 99×10×10	台付窓1, S字台窓2, 壺1, 高杯1, 砂石2, 直1, 土製品1			4 C 後	W64
65	4.02×3.21 34	N-74°-E	炉# F1 45×31	甕1, 壺1, 直1, 高杯1, 砂石1			5 C 前	W65
66	5.62×5.45 68	N-64°-W	炉# F1 45×36	小腹1, 壺2, 砂石1, 砂石1			馬鹿形收斂窓(南)	W66
67~81	付櫛調査のみ							
82	5.04×4.25 80	N-61°-E	炉# F1 61×42×6 2個の伊豫石	甕(赤井戸2, 壺1), 台付窓(赤井戸1, 壺1, S字台窓1), 小腹1, 壺2, 小腹1 高杯4, 台付窓1, 手捏1, 砂石1, 砂石1, 砂石1	赤井戸穴式 馬鹿形收斂窓(南)		4 C 中	W82
83	2.80×2.96 30	N-16°-W	炉# F1 43×32	高杯1, 砂石1			5 C 前	W83
84	6.29×5.81 81	N-61°-E	炉# F1 73×44×7 伊豫石 F2 31×22	甕(第1,赤井戸1, 壺1), 台付窓1, 小腹1, 壺1, 直1, 高杯1, 砂石1			5 C 前	W84
85	7.10×6.26 42	N-67°-E	不規	甕1, 台付窓3, 壺3, 高杯1, 蓋合1, 手捏1			馬鹿形收斂窓(南)	W85
86	7.67×6.62 73	N-74°-E	不規	甕(赤井戸1), 台付窓2			4 C 後	W86
87	確認調査のみ							
88	5.96×(5.12) 42	N-68°-E	基# 貝塚中央東寄り 受け16 稲荷石と花土	甕1, 壺1, 葵形3, 砂石1			平安	W88
89	4.01×3.13 54	N-77°-E	不規				4 C 中	W89
90	5.77×4.47 26	N-75°-E	炉# F1 109×104×12 F2 75×58×3 F3 43×40	甕(赤井戸1), 砂石1			馬鹿形收斂窓(南)	W90
91	(2.52)×(1.75) 18	N-32°-E	炉# F1 45×30				不明	W91
92	5.56×5.76 92	N-29°-W	炉# F1 74×26×5 F2 34×18 F3 22×22 F4 24×23 F5 54×36×1	甕(第4,十三王1,月影1,壺1), 小腹1, 直(第1,壺1), 小腹1, 高杯1 蓋合1, 台付窓1, 壺1, 蒼絞1, 手捏1, 砂石1	赤井戸穴式 ベヤマ達磨(北側)		4 C 後	W92
93	5.66×6.58 68	N-41°-W	炉# F1 104×8×13 中央に伊豫石 F2 44×44 F3 70×23×5	甕(壺1), 高杯(赤井戸1, 壺1), 壺1, 砂石1	馬鹿形收斂窓(北側)		4 C 中	W93
94	(4.06)×(4.40) 96	N-45°-W	炉# F1 40×36×4	甕(壺1), 台付窓1			4 C 後	W94
95	5.58×5.19 69	N- 1°-W	炉# F1 66×16×6 F2 140×12×5	小腹1, 高杯2			4 C 後	W95
96	3.54×4.44 61	N-12°-W	炉# F1 80×44×6 土器使用 F2 56×42×5	甕(第1,赤井戸1), 高杯1, 蓋合1, 壺1	馬鹿形收斂窓		4 C 後	W96

号数	規 模	主 視 方 向	施 工	出 土 產 物	施設	時 期	備註		
							位置	形狀	
97	4.18×5.36 42	N-73°-E	鐵鑄 磁鐵中央突起 長132 幅94 黏土	鑿、杯(鐵鑄件2)、子母1		6 C 後	V1.6		
98	(4.14)×(4.92) 41	N-35°-E	鐵鑄 磁鐵 中央 長126 幅96 黏土上	鑿3、鑿1、鑿1、鑿1、鑿石		6 C 後	V1.7		
99	1.14×0.97±1.5								
100	4.36×5.22 19	N-48°-E	伊社 48×[44]×6	鑿(赤井戸1)、合竹籠3、小筒1、鑿1		4 C 後	V1.8		
101	(3.06)×(5.88) 38	N-9°-W	不明	鑿1、鑿1		4 C 後	V1.9		
102	3.42×4.14 12	N-17°-W	伊社 36×56×12	鑿1		4 C 後	V1.10		
103	3.60×3.05 12	N-94°-E	伊社 34×26×6	合竹籠1		4 C 後	V1.11		
104	4.64×3.45 18	N-62°-E	伊社 69×44×5			4 C 後	V1.12		
105	(4.36)×2.64 7	N-20°-E	伊社 152×32×7	鑿3、合竹籠3、小筒1、鑿1、番台1		4 C 後	V1.13		
106	(1.76)×(1.68) 42	N-40°-E	不明			4 C 後	V1.14		
107	(3.02)×(4.47) 26	N-68°-E	鐵鑄 磁鐵中央突起2 長126 幅96 黏土上	鑿1、杆鑿3、杯鑿1		6 C 前	V1.15		
108	(7.94)×(8.44) 38	N-34°-E	伊社 92×38×9	鑿3、高杯2、鑿1、手標2、瓦頭事狀2、鐵石1		4 C 後	V1.16		
109	(3.96)×2.12 38	N-58°-E	鐵鑄 磁鐵中央突起2 長126 幅96 黏土上	鑿(刀削1)、鑿4、小筒1、鑿1、鑿1		6 C 後	V1.17		
110	3.18×2.84 30	N-78°-E	鐵鑄 磁鐵中央突起2 短126 幅96 黏土上	鑿3、高杯1、杆鑿1、鐵頭事狀1、鑿3、鐵石1		5 C 後	V1.18		
111	5.34×5.04 38	N-75°-E	伊社 磁鐵中央突起2 短126 幅96 黏土上	鑿3、小筒1、杆(鐵頭事狀1)、內筒口標1、鑿3、手標2		6 C 後	V1.19		
112	7.80×7.80 33	N-45°-E	伊社 F1 84×68×9 F2 134×90×8 F3 39×22×5 F4 80×44×10 F5 152×94×9 F6 74×38×6	鑿(赤井戸2)、合竹籠3、小筒1、鑿2、鑿1、高杯3、番台2、鑿1 合竹籠1		4 C 後	V1.20		
113	5.74×5.32 79	N-52°-E	鐵鑄 磁鐵中央突起2 長126 幅96 黏土上	鑿1、小筒1、鑿3、杆(鐵頭事狀1)、內筒口標1、鑿3、手標2		6 C 前	V1.21		
114	(3.22)×(3.98) 37	N-29°-E	伊社 48×25×5			4 C 後	V1.22		
115	(3.16)×(3.52) 65	N-53°-E	不明	鑿(鑿1)		4 C 後	V1.23		
116	(3.56)×(4.64) 61	N-27°-E	伊社 54×(15)×8	高杯1		微次序最大	V1.24		
117	(0.66)×(3.16) 11	N-14°-W	不明	鑿1		4 C 後	V1.25		
118	5.62×3.75 57	N-56°-E	伊社 118×45×5 中央に炉体7基	鑿1、小筒1、鑿1、高杯1、肩口標1、鑿1		5 C 前	V1.26		
119	(3.36)×(0.44) 42	N-25°-W	不明				V1.27		
120	(6.54)×(5.98) 13	N-26°-E	伊社 (64)×(30)×9	小鑿1、高杯1		4 C 後	V1.29		
121	(4.80)×(4.36) 30	N-26°-W	不明	鑿(赤井戸1)、高杯2		5 C 前	V1.30		
122	(1.36)×(1.72) 28	N-33°-W	不明	鑿1、瓶1、廢石1			V1.31		
123	3.02×3.36 35	N-1°-E	伊社 112×54×8	高杯2、羽鑿1		5 C 前	V1.32		
124	5.26×5.36 90	N-41°-W	伊社 F1 176×65×10 F2 30×30×2	鑿(赤井戸1)、鑿(赤井戸1)、高杯2、番台1、肩口標1、鑿1、高杯2		5 C 前	V1.33 (北・東部)		
125	5.34×(4.56) 27	N-22°-W	鐵鑄 磁鐵中央突起2 長126 幅100 黏土上				平安	V1.35	
126	2.00×(5.08) 45	N-11°-W	伊社 80×95×8	鑿1			馬鹿形乳頭狀(西側)	V1.36	
127	(6.22)×(6.16) 51	N-40°-W	不明	鑿3、番台1、手標1		4 C 後	V1.37		
128	(4.12)×5.46 55	N-44°-E	伊社 (40)×(36)×6	鑿(赤井戸1)、合竹籠(海1)、高杯1、鑿1			馬鹿形乳頭狀(西側)	V1.38	
129	2.72×(0.76) 23	N-17°-W	不明	手標1		6 C 後	V1.39		
130	(2.18)×(1.12) -2	N-3°-W	伊社 40×34×6			4 C 後	V1.40		
131	(3.54)×(3.82) 73	N-42°-E	伊社 (58)×(30)×5 伊蘇石	鑿(赤井戸1)、鑿1、小筒1、鑿1、口標1		4 C 後	V1.41		
132	(1.50)×(2.38) 39	N-31°-E	不明			4 C 後	V1.43		
133	(3.80)×(2.60) 36	N-20°-W	伊社 48×34×6	高杯1		4 C 後	V1.44		
134	5.50×5.82 55	N-33°-E	伊社 75×65×14	鑿3、合竹籠3、高杯2、口標1、鑿1、高杯2		4 C 後	V1.5		
135	4.31×4.70 22	N-28°-E	鐵鑄 北側中央 長102 幅97 黏土上	鑿2、番台1、高杯1、口標1、高杯2、高杯3、鑿石1		4 C 後	V1.2		
136	5.19×4.81 3.1	N-39°-W	伊社 75×72×14	合竹籠(赤井戸1)		4 C 後	V1.3		
137	5.78×5.52 31	N-32°-W	伊社 82×56×12	鑿1、合竹籠(赤井戸1)、鑿1、番台2、鑿1、高杯2		4 C 後	V1.4		
138	4.46×2.58 20	N-50°-E	鐵鑄 磁鐵中央 長155 幅80 黏土上	鑿1、高杯1、鐵頭事狀1(TX47)、鑿(鐵頭事狀1)、內筒口標1、鑿1		6 C 前	V1.5		
139	5.34×6.59 45	N-40°-E	鐵鑄 北側中央 長102 幅97 黏土上	鐵頭1、石製乳頭狀(西側)、鑿3、鐵石2		6 C 前	V1.6		
140	6.30×8.38 12	N-63°-E	伊社 60×40×16	鑿3、鉢、吉野櫻柄物、高杯1、廢石1		5 C 後	V1.7		
141	4.50×(3.50) 17	N-76°-E	不明	鑿2、杆(鐵頭事狀1)、手標1、鐵石1、廢石1		6 C 後	V1.8		
142	4.15×5.10 23	N-17°-W	伊社 64×56×15	鑿1、合竹籠1、鑿1、鑿4、杆(鐵頭事狀1)、高杯1、鑿1		5 C 後	V1.9		
143	4.28×3.74 15	N-55°-E	伊社 F1 60×22×14 F2 44×25×10 F3 39×22×8	鑿2、鑿1、鉢2、鑿1、鑿1		5 C 後	V1.10		

号数	測量 距離(m)	主軸方向 ESE±北偏E(度)	竪、屏 位置・規模(cm)・素材	出土 遺物	施設	時期 区分	参考 目録	
							位置	規模
144	4.06×(2.44) 34	N-10°-W	屏 90×65×10	珠2		5C前	X 1	
145	2.92×(1.46) 19	N-16°-E	不明			不明	X 2	
146	5.66×4.36 81	N-60°-W	竪 収容中央 長135 幅107 砂土	假面环(TK46)		6C前	X 3	
147	(0.74)×2.78 30	N-86°-W	不明			不明	X 4	
148	(4.14)×3.64 89	N-63°-E	竪 収容中央南寄り 砂土	环(假面环)、假面环(MTS5～4)		6C中	X 5	
149	(5.98)×5.16 88	N-73°-E	竪 収容中央東 長129 幅105 砂土	长柄匙2、高杯1、假面环(TK45)、手环1、土33、土制管33		6C中	X 6	
150	4.34×4.15 70	N-58°-E	竪 収容中央 長 50 幅 87 砂土	长柄匙2、面1、所(假面环7、匙1)、土33		6C前	X 7	
151	4.12×4.06 68	N-74°-E	竪 収容中央 西116 幅106 土砾芯	长柄匙1、小匙1、环(假面环1、匙1)、手环1		6C前	X 8	
152	5.06×4.72 59	N-54°-W	竪 収容中央 西112 幅 90 土砾芯	长柄匙1、小匙1、环(假面环2、匙1)、土33		5C後	X 9	
153	3.66×3.20 73	N-53°-E	竪 収容中央 西122 幅 77 土砾芯	长柄匙1、环(假面环1、匙1)、手环4、石製模造品(刻印3)、假面环1(MTS1)、假面环1		6C前	X 10	
154	5.68×5.68 74	N-79°-E	竪 収容中央 西148 幅129 土砾芯	长柄匙1、小匙4、匙1、所(假面环2、内斜口2、匙1)、手环1		6C前	X 11	
155	(2.12)×3.44 66	N-70°-E	不明			不明	X 12	
156	(6.00)×5.80 53	N-65°-E	竪 磨り立地壁91 砂土 砂土 砂土	环1、环(内斜口2、匙1)、石製模造品1		5C後	X 13	
	黄砂岩2 厚2.8±0.9							
157	4.78×4.56 72	N-65°-E	竪 収容中央 西128 幅 85 土砾芯	広口鉢		6C前	X 16	
158	5.12×4.72 73	N-65°-E	竪 収容中央 西128 幅 94 土砾芯	长柄匙1、高匙1、环(假面环4)、磨石(23)		6C前	X 17	
159	5.88×4.48 30	N-85°-E	竪 収容中央 西128 幅 92 土砾芯	匙1、高环3、手环1		5C後	X 18	
160	(3.34)×4.46 42	N-56°-E	戸壁 80×46×6 土	匙(十三台1、匙1)、匙1		4C後	X 19	
161	6.60×6.66 80	N-65°-E	竪 収容中央 西128 幅 90 土砾芯	長柄匙1、匙1、环(假面环3)、假面环(MTS5)、假面环(MTS6)、岩石1		6C中	X 20	
162	5.80×5.24 83	N-58°-E	戸壁 76×52×9	台付匙1、小匙1、环1、台付匙1、假面环1		4C後	X 21	
163	2.74×(2.76) 54	N-66°-E	竪 収容中央 西128 幅 32 土砾芯	匙1、小匙1、环(假面环1)		6C中	X 22	
164	6.34×(6.16) 66	N-73°-E	不明	台付匙1、匙1		4C後	X 23	
	黄砂岩1 厚1.4±0.1							
165	(5.14)×5.58 69	N-67°-E	不明	匙1、匙1、高匙1、假面环(手付匙)		5C後	X 24	
166	(4.50)×(1.00)					不明	X-1	
167	(3.50)×(3.00) 16	N-24°-W	不明			不明	X 1	
168	3.90×2.80 59	N-47°-E	竪 収容中央南寄り 砂土 砂土 砂土	环(假面环1)		6C前	X 2	
169	(3.50)×4.46 26	N-12°-W	不明	台付匙1、环1、高杯1		5C前	X 3	
170	3.40×2.90 10	N-11°-W	戸壁 100×50×7	匙 1、小匙3、环(假面环1)、高杯1		5C後	X 4	
171	3.80×3.00 12	N-70°-E	戸壁 62×46×5			不明	X 5	
172	6.10×6.00 43	N-73°-E	竪 収容中央南寄り 西112 幅127 砂土	匙2、环(假面环1)、匙1)、高杯2、磨石1		6C前	X 6	
	黄砂岩1 厚1.4±0.1							
173	(2.30)×3.70 9	N-13°-E	不明			不明	X 7	
174	6.20×5.90 70	N-84°-E	竪 収容中央 西121 幅112 砂土	匙1、小匙2、匙2、环(假面环7、匙1)、高杯1、匙1、白玉1		6C前	X 8	
175	3.40×(2.20) 22	N-37°-E	戸壁 34×36×4			不明	X 9	
176	4.40×4.30 57	N-76°-E	竪 収容中央南寄り 西122 幅112 砂土	小匙1、环(假面环2)、磨石1		6C前	X 10	
177	3.50×2.80 36	N-76°-E	不明			不明	X 11	
178	10.20×10.10 59	N-81°-E	竪 収容中央南寄り 西80 幅112 砂土	大匙2、匙3、匙1、环(假面环1)、内斜口2、匙1)、大型环3、匙1、高杯4、器台2、假面环5、1.5リットル2.5リットル、白玉1、磨石1、万子1、打片1		開仕切り窓	X 12	
	黄砂岩1 厚1.4±0.1							
179	4.70×4.00 61	N-79°-E	竪 収容中央南寄り 西121 幅112 砂土	匙4、匙2、环(假面环6、匙1)、再环1、假面环1、土制管1、磨石1		6C後	X 13	
180	(5.90)×3.50 14	N-65°-E	不明	匙1、环(假面环1、匙1)		5C後	X 14	
181	(1.70)×3.40 18	N-86°-E	不明			不明	X 15	
182	5.20×5.00 40	N-25°-W	竪 収容中央東寄り 長121 幅83 砂土	小匙1、匙1、环(假面环2、内斜口2、匙1)、高杯2、匙1、环1		5C後	X 16	

Tab. 7 A区柱穴觀察表 (単位: cm)

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
P-1	X129-Y69G	円形	30	26	22	
P-2	X130・131Y69G	楕円形	39	30	21.5	
P-3	X130-Y69G	円形	37	34	26	
P-4	X130-Y69G	円形	35	35	21	
P-5	X131-Y69G	楕円形	44	33	33	
P-6	X131-Y69G	円形	42	36	41	
P-7	X130-Y68G	円形	38	32	21	
P-8	X130-Y67G	円形	40	34	41	
P-9	X130-Y67G	楕円形	34	25	29	
P-10	X130-Y67G	楕円形	30	22	41	
P-11	X129-Y66G	円形	30	28	38.5	
P-12	X130-Y66G	楕円形	32	23	49	土師器片1点。
P-13	X130-Y66G	楕円形	30	23	47	
P-14	X127-Y67G	円形	32	28	17.5	
P-15	X126-Y67G	円形	20	19	6	
P-16	X126-Y66G	楕円形	30	24	10.5	
P-17	X125-Y66G	円形	31	29	34	
P-18	X125-Y66G	楕円形	26	23	35	
P-19	X125-Y66G	円形	35	35	30	
P-20	X125-Y66G	円形	35	29	46	
P-21	X125-Y65G	円形	31	30	28.5	
P-22	X125-Y65G	円形	30	29	23.5	
P-23	X125-Y65G	楕円形	41	34	40	
P-24	X125-Y64G	楕円形	41	29	19.5	
P-25	X125-Y64G	不整形	52	40	33	
P-26	X125-Y64G	円形	40	36	38.5	
P-27	X125-Y64G	楕円形	41	31	21.5	
P-28	X125-Y64G	楕円形	33	28	49	
P-29	X127-Y66G	楕円形	33	28	27	
P-30	X127-Y65G	円形	24	23	29	
P-31	X128・129-Y66G	円形	27	25	18.5	
P-32	X128・129-Y69G	円形	19	20	22.5	
P-33	X128-Y66G	円形	20	16	17	
P-34	X130-Y65G	楕円形	40	28	26	D-9に切られる。
P-35	X129・130-Y65G	円形	36	35	32	
P-36	X129-Y65G	楕円形	36	28	22	
P-37	X127-Y64G	円形	30	26	25.5	
P-38	X128-Y64G	楕円形	31	20	35	H-10を切る。
P-39	X129-Y63G	円形	41	36	21	
P-40	X128-Y63G	円形	37	35	39.5	土師器片31点、須恵器片1点 石田川式土器片1点。

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
P-41	X128-Y63G	円形	40	40	54	D-19に切られる。
P-42	X129-Y63G	橢円形	46	37	65.5	
P-43	X129-Y63G	円形	45	40	56.5	
P-44	X129-Y62G	円形	43	42	70	
P-45	X130-Y59G	円形	26	25	31	
P-46	X128-Y59G	橢円形	29	24	23.5	
P-47	X129+130-Y59G	円形	35	33	39	
P-48	X129-Y58G	橢円形	25	24	28.5	
P-49	X129-Y58G	円形	20	20	27.5	
P-50	X128-Y58G	橢円形	35	22	31	
P-51	X126-Y59G	円形	36	34	32.5	
P-52	X127-Y58G	橢円形	50	30	32	
P-53	X127-Y58G	円形	36	30	51	
P-54	X127-Y57G	橢円形	38	30	29.5	

Tab. 8 A区掘立柱建物柱穴観察表(単位:cm)

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
B-1 P <sub>1</sub>	X126-Y66G	橢円形	24	20	21	
B-1 P <sub>1</sub>	X126-Y66G	橢円形	24	18	11.5	土師器片1点。
B-1 P <sub>1</sub>	X126-Y67G	円形	28	25	19	
B-1 P <sub>1</sub>	X126-Y67G	円形	34	30	11	
B-1 P <sub>1</sub>	X127-Y67G	橢円形	27	24	16.5	
B-1 P <sub>1</sub>	X127-Y67G	円形	26	24	13	
B-1 P <sub>1</sub>	X127-Y67G	橢円形	31	26	17	
B-1 P <sub>1</sub>	X128-Y66G	橢円形	29	24	28	
B-1 P <sub>1</sub>	X127-Y66G	橢円形	26	21	30	
B-1 P <sub>1</sub>	X127-Y66G	円形	30	30	22	

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
B-2 P <sub>1</sub>	X129-Y64G	円形	40	36	39.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X129-Y65G	円形	33	30	42.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X129-Y65G	円形	38	36	51.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X129-Y66G	円形	36	34	48.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X129-Y66G	円形	40	35	49.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X130-Y66G	円形	40	36	29	
B-2 P <sub>1</sub>	X130-Y66G	円形	31	25	46	
B-2 P <sub>1</sub>	X130-Y65G	円形	30	17	43	
B-2 P <sub>1</sub>	X130-Y65G	円形	30	26	29.5	
B-2 P <sub>1</sub>	X130-Y64G	橢円形	41	30	29	土師器片1点。
B-2 P <sub>11</sub>	X129-Y64G	円形	35	34	41	
B-2 P <sub>11</sub>	X129-Y64G	橢円形	30	26	41.5	

Tab. 9 A区土坑觀察表 (単位: cm)

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D-1	X129-Y67G	円形	85	80	28.5	
D-2	X128-Y66・67G	梢円形	83	74	41.5	土師器片1点。D-3に切られる。
D-3	X128-Y66G	円形	49	42	30	D-2を切る。
D-4	X128-Y66G	隅丸長方形	100	66	31	D-5に切られる。
D-5	X128-Y66G	円形	40	36	35	土師器片1点。D-4を切る。
D-6	X129-Y66G	梢円形	102	79	24.5	
D-7	X129-Y65・66G	隅丸方形	95	88	27	B-2:P <sub>s</sub> に切られる。
D-8	X130-Y65G	梢円形	50	37	17	D-9に切られる。
D-9	X130-Y65・66G	隅丸長方形	159	93	41.5	土師器片7点。D-8・P-34を切り、B-2:P <sub>s</sub> に切られる。
D-10	X130-Y65G	正方形	13.3	11.1	31	土師器片5点。D-11に切られる。
D-11	X130-Y65G	円形	80	65	32	D-10を切る。
D-12	X125-Y65G	梢円形	58	45	33.5	
D-13	X125-Y64G	円形	65	56	38.5	
D-14	X125-Y63G	梢円形	69	44	22	
D-15	X127・128-Y64	不整形	94	66	37.5	
D-16	X128-Y64G	隅丸長方形	122	90	35.5	
D-17	X128-Y64G	円形	48	40	75	H-10を切る。
D-18	X129・130-Y63G	隅丸長方形	165	95	59.5	H-11に切られる。
D-19	X128-Y63G	円形	142	130	82.5	P-41を切る。
D-20	X128-Y62・63G	円形	103	83	41.5	土師器片11点、赤井戸式土器片1点。
D-21	X130-Y62G	円形	81	80	67	
D-22	X129・130-Y61G	円形	39	38	24	
D-23	X130-Y61G	円形	40	38	21.5	
D-24	X130-Y61G	円形	40	37	21	
D-25	X128・129-Y59G	円形	70	69	18.5	
D-26	X129-Y59G	円形	44	42	20.5	
D-27	X125-Y59G	円形	75	(53)	48.5	
D-28	X129-Y58G	円形	40	35	23	
D-29	X128-Y58G	梢円形	41	33	23	
D-30	X127・128-Y57G	円形	61	55	22.5	
D-31	X128-Y57G	円形	74	69	18	

Tab. 10 B区土坑觀察表 (単位: cm)

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D-1	X201-Y145G	橢円形	95	81	64	土師器片16点、須恵器片22点 赤井戸式土器片1点、縄文土器片1点。

Tab. 11 D区土坑觀察表 (単位: cm)

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D-1	X87-Y99G	橢円形	70	40	25	
D-2	X87-Y100G	橢円形	55	40	38	
D-3	X88-Y103G	橢円形	72	60	48	木の根の跡か。
D-4	X89-Y103G	円形	69	62	35	木の根の跡か。
D-5	X89-Y104G	円形	45	38	35	
D-6	X89-Y104G	橢円形	79	30	31	
D-7	X88-Y105G	隅丸長方形	50	38	32	
D-8	X88-Y106G	三角形	80	67	68	木の根の跡か。
D-9	X88-Y106G	三角形	80	51	15	木の根の跡か。
D-10	X88-Y108G	円形	42	43	45	木の根の跡か。
D-11	X88-Y108G	橢円形	68	40	32	
D-12	X88-89-Y108-109G	円形	108	90	31	木の根の跡か。
D-13	X88-Y109G	円形	53	50	30	
D-14	X87-Y108G	円形	38	30	42	
D-15	X87-Y109G	円形	32	31	33	
D-16	X86-87-Y108-109G	円形	130	125	48	
D-17	X85-Y109-110G	円形	31	30	32	
D-18	X85-Y110G	橢円形	92	72	18	木の根の跡か。
D-19	X84-Y111G	四角形	142	(69)	30	木の根の跡か。
D-20	X84-Y111-112G	隅丸方形	120	(85)	28	木の根の跡か。
D-21	X84-Y112G	円形	55	(38)	39	木の根の跡か。
D-22	X82-Y113G	円形	40	38	51	
D-23	X82-Y113G	橢円形	61	50	46	木の根の跡か。
D-24	X81-Y114G	円形	39	35	41	
D-25	X80-Y114G	円形	60	50	41	木の根の跡か。
D-26	X89-Y110G	橢円形	60	52	39	木の根の跡か。
D-27	X89-Y110G	円形	52	51	36	木の根の跡か。
D-28	X89-Y111G	円形	30	29	32	
D-29	X89-Y111G	橢円形	32	25	33	
D-30	X89-Y111G	不整形	143	130	58	
D-31	X89-Y112G	橢円形	45	40	30	

Tab. 12 A区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ	①粘土 ②黄或赤色 ③灰 ④残存	箇所・製作技法の特徴	登録番号	備考
1	H-3	杯	[13.0] 5.3	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部窓割り。内面横ナメ。	70	
2	H-3	杯	[12.3] (4.7)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、内面横ナメ。	70	
3	H-3	高杯	[17.8] (6.3)	①粘土 ②良好 ③灰 ④破片	外面部輪郭線ナメ、底部窓割り。内面横ナメ。	70	
4	H-3	台付甌	14.4 (24.7)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ、下半窓割り。内面横ナメ、底部脚毛根ナメ。	70	
5	H-4	杯	22.1 5.6	①中粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部窓割り。内面横ナメ。	5	
6	H-4	高杯	[13.2] (7.1)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	4	
7	H-4	小甌	- (9.5)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部窓割り。内面横ナメ。	1	
8	H-4	甌	13.6 (21.8)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	2	
9	H-6	杯	[11.7] 5.4	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	1	
10	H-6	杯	11.5 5.2	①粘土 ②良好 ③灰 ④完形	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	4	
11	H-6	甌	[18.8] (10.7)	①粘土 ②良好 ③灰 ④破片	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	張り出し	
12	H-6	甌	17.2 30.9	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ、下半窓割り。内面横ナメ。	5	
13	H-6	高杯	[13.4] 7.4	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	8	
14	H-6	高杯	14.4 (11.7)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	6	
15	H-8	小甌	12.5 15.1	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	28	
16	H-8	甌	16.5 19.3	①粘土 ②良好 ③灰 ④完形	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	26	
17	H-8	杯	[11.7] 5.5	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	38	
18	H-8	杯	14.1 5.3	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	25	
19	H-8	杯	[13.4] 5.8	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	23, 24, 47	
20	H-8	杯	11.4 5.3	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	7, 13, 15	
21	H-8	杯	11.6 5.2	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	48	
22	H-8	杯	12.7 5.9	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	34	
23	H-8	杯	12.7 6.1	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	73, 75, 土	
24	H-8	杯	20.4 13.0	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	31	
25	H-8	甌	[17.1] (30.0)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	40	
26	H-8	甌	16.8 (14.5)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	32, 33, 50, 52, 53	
27	H-8	甌	18.6 (16.0)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	76	
28	H-8	杯	12.6 5.9	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	2, 8, 9, 10, 地	赤彩
29	H-8	杯	12.3 5.7	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	1	
30	H-8	杯	[13.6] (5.2)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	1	
31	H-8	小甌	9.4 (9.2)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	4	
32	H-8	甌	[16.5] 10.4	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	39	
33	H-8	高杯	- (10.1)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ。	1	
34	H-8	甌	15.7 27.6	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	37, 40, 49	
35	H-8	甌	[19.6] (29.7)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	41, 42, 66	
36	H-8	甌	22.5 (28.0)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	35	
37	H-8	甌	[23.7] (26.2)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	60, 61, 62	
38	H-10	杯	[11.8] (5.6)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	34	
39	H-10	杯	[11.6] 5.7	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	35	
40	H-10	小甌	12.0 12.7	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	37	
41	H-12	高杯	[12.9] (9.5)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	114	
42	H-12	高杯	[12.1] 7.4	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	24, 31	
43	H-12	高杯	[12.1] (7.8)	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	112	
44	H-12	杯	14.2 4.6	①粘土 ②良好 ③灰 ④残存	外面部輪郭線ナメ、底部脚毛根ナメ。	108	

番号	出土位置	器形	大きさ	□径 高	①陶 土 ②焼 成 ③色 製 ④性 存	断面・製作技術の特徴	登録番号	備考
						外縁部横ナゲ、底部窪り。		
45	H-12	杯	12.8 5.3		①細粒②良好③に、ない焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。	25	
46	H-12	杯	12.8 (5.1)		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。		底土
47	H-12	杯	12.7 6.0		①細粒②良好③焼④3/4	外縁部横ナゲ、底部窪り。		底土
48	H-12	杯	15.2 6.0		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。	27	
49	H-12	杯	[12.2] 4.9		①細粒②良好③焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。		電照土
						内面横ナゲ後削れの跡。		
50	H-12	杯	12.2 5.8		①中粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	123, 124	
51	H-12	杯	[11.9] 6.1		①細粒②良好③に、ない焼④2/3	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	132, 底土	
52	H-12	杯	11.5 5.6		①中粒②良好③に、ない焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	125, 底土	
53	H-12	杯	[12.4] 4.2		①細粒②良好③焼④4/5	外縁部横ナゲ、底部窪り。	21	
54	H-12	杯	11.7 5.2		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。	29	
						内面横ナゲ後削れの跡。		
55	H-12	杯	11.9 5.7		①中粒②良好③に、ない焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	1	
56	H-12	杯	11.8 5.6		①中粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	159	
57	H-12	杯	11.8 5.2		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	26	
58	H-12	器 台	-		①細粒②良好③焼④破片	外縁部横ナゲ、内面横ナゲ。		底土
59	H-12	便	18.7 19.5		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横ナゲ、内面横ナゲ。	180, 182	
60	H-12	杯	14.3 7.25		①細粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	42, 123, 123	
61	H-12	杯	14.8 6.3		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	158	
62	H-12	杯	[15.4] 7.2		①中粒②良好③焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。		電照土
63	H-12	杯	17.8 7.3		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。	5	
						内面横ナゲ後削れの跡。		
64	H-12	小 壺	14.5 (17.6)		①細粒②良好③焼④3/4	外縁部横ナゲ、内面横ナゲ。	63	
65	H-12	壺	[24.2] 33.9		①中粒②良好③に、ない焼④4/5	外縁部横ナゲ、銅部窪り。内面横窪り。下方横削れと半腰	17, 18	電
						方向のナゲ後削れ方向のナゲ、下平窪り。		
66	H-12	杯	[13.0] 5.9		①細粒②良好③に、ない焼④2/3	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	37, 45, 底土	
67	H-12	杯	13.0 5.5		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。	29	
						内面横ナゲ後削れの跡。		
68	H-12	杯	13.0 5.8		①中粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	20	
69	H-12	杯	12.8 5.9		①細粒②良好③に、ない焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	38, 127, 146	
70	H-12	杯	12.8 6.5		①中粒②良好③に、ない焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	141	
71	H-12	器 台	-		①細粒②良好③に、ない焼④破片	外縁部横ナゲ、内面横。		底土 外面赤色鉛影
72	H-12	杯	15.0 6.5		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。		底土
73	H-12	壺	23.2 (19.5)		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横ナゲ、内面横窪り。内面ナゲ。	133, 134	
74	H-12	壺	- (21.5)		①細粒②良好③に、ない焼④1/2	外縁部横窪り後削れ。内面ナゲ。		電化
75	H-12	杯	12.2 5.6		①細粒②良好③焼④性完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	10, 11	
76	H-12	杯	12.4 5.3		①細粒②良好③焼④3/4	外縁部横ナゲ、内面横。	144	
77	H-12	杯	12.2 5.6		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	4	
78	H-12	杯	12.6 6.2		①細粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	55	
79	H-12	杯	[12.6] (5.7)		①細粒②良好③焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。		底土
80	H-12	杯	12.6 5.6		①細粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	116	
81	H-12	壺	[20.0] (42.0)		①細粒②良好③に、ない焼④1/4	外縁部横ナゲ、銅部窪り。内面ナゲ。	165, 167, 168	
82	H-12	杯	12.6 6.1		①中粒②良好③焼④完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	3	
83	H-12	杯	15.0 7.4		①細粒②良好③焼④1/2	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	118	
84	H-12	壺	- (10.3)		①細粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、下平窪り。内面横ナゲ。	19	
85	H-12	大 壺	[20.0] (42.0)		①細粒②良好③に、ない焼④1/5	外縁部横ナゲ、銅部窪り一深窪。内面ナゲ、一部磨き。	165, 167	
						内面ナゲ、一部磨き。		168-169
86	H-12	杯	[12.0] 4.0		①細粒②良好③焼④4/5	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	15	
87	H-12	杯	12.1 5.2		①細粒②良好③焼④ほぼ完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	30, 底土	
88	H-12	杯	12.4 5.5		①細粒②良好③焼④性完形	外縁部横ナゲ、底部窪り。内面横ナゲ。	6, 底土	

番号	出土位置	器形	大きさ	寸法				器形・製作技術の特徴	登録番号	備考
				口径	底径	高さ	内面			
88	H-12	実際	[11.0] (4.4)	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁輪鉢ナメ、田軒窓附り。内面輪鉢ナメ。	111	
90	H-12	小 壺	11.8 11.2	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	148	
91	H-12	壺	[18.8] (24.3)	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	180	
92	H-12	壺	24.1 (11.2)	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	130	
93	H-12	大 壺	22.8 (16.0)	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	150	
94	H-12	小 壺	12.2 14.3	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	149	鉢部木室底
95	H-12	小 壺	8.9 12.7	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	113	
96	H-12	小 壺	12.2 18.5	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	117	
97	H-12	壺	- (19.4)	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	153	
98	H-12	壺	25.3 35.1	①中鉢②良好③底にぶい根④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	54	
99	H-12	高 杯	11.8 8.9	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	24, 33	
100	H-12	小 壺	[13.1] (35.3)	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	179, 182	
101	H-12	小 壺	12.4 (13.1)	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	157	
102	H-12	壺	18.6 29.0	①輪鉢②良好③底にぶい根④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面ナメ。	182	
103	H-13	杯	15.2 5.2	①輪鉢②良好③底にぶい根④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	5	
								内面横ナメ放鉢状の動き。		
104	H-13	杯	[14.5] 6.1	①輪鉢②良好③底薄壁④底放鉢				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	4, 電捲土	
105	H-13	壺	[21.2] (28.5)	①輪鉢②良好③底④ねば破片				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面横ナメ。	25堆	
106	H-13	杯	[10.4] 4.0	①輪鉢②良好③底薄壁④底放鉢				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	2	
107	H-13	杯	[10.6] 3.4	①相鉢②良好③底④ねば				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	腹土	
108	H-13	杯	[11.6] 4.9	①輪鉢②良好③底④ねば				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	8	
109	H-13	杯	[13.0] (2.9)	①輪鉢②良好③底にぶい根④破片				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	腹土	
110	H-13	杯	[12.3] 5.2	①輪鉢②良好③底④ねば				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	腹土	
111	H-13	杯	14.2 6.3	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	3	後段底邊穿孔
112	H-13	土器灰	[12.7] 13.6	①輪鉢②良好③底④ねば				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面横ナメ。	-	鉢部木室底
113	H-13	壺	[23.2] 15.3	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。	電捲土	
								内面横ナメ放鉢状。		
114	H-13	壺	[13.2] (11.2)	①輪鉢②良好③底白破片				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面横ナメ。	6	
115	H-13	壺	[22.0] (11.0)	①輪鉢②良好③底薄壁④破片				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面横ナメ。	電捲土	
116	H-13	瓶	[21.2] (10.0)	①輪鉢②良好③底白破片				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。内面横ナメ。	26, 電捲	
117	H-13	高 杯	15.0 9.3	①輪鉢②良好③底にぶい根④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部・鋸削窓附り。	7, 10	電捲土
								内面横ナメ放鉢状の動き。		
118	H-13	高脚壺	- (6.3)	①輪鉢②良好③底④脚部				内面横ナメ放鉢状。	1, 23	
119	H-13	壺	[21.6] (20.0)	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば				外縁口縁部横ナメ、鋸削窓附り。	9, 10	
								内面ナメ放鉢状。		
120	H-14	杯	15.7 5.6	①輪鉢②良好③底④形状				外縁横ナメ。内面ナメ。	1	底部木業底
121	H-14	杯	9.8 4.5	①輪鉢②良好③底④形状				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	8	
122	H-14	杯	9.5 4.6	①中鉢②良好③底薄壁④光形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	11	
123	H-14	杯	9.3 3.1	①輪鉢②良好③底薄壁④形状				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	4	
124	H-14	杯	9.0 3.6	①中鉢②良好③底薄壁④光形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	10	
125	H-14	杯	9.9 4.0	①輪鉢②良好③底にぶい根④形状				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	7, 腹土	
126	H-14	杯	13.6 4.3	①輪鉢②良好③底にぶい根④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。内面横ナメ。	3, 4, 5堆	
127	H-14	壺	- (24.4)	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば				外縁横ナメ放鉢状。内面ナメ。	12	
128	H-16	杯	[13.6] 5.3	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	8	
129	H-16	杯	13.2 5.5	①輪鉢②良好③底薄壁④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	23	
130	H-16	杯	13.0 5.9	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	48	
131	H-16	杯	13.6 5.4	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	26堆	
132	H-16	杯	[13.2] 5.5	①輪鉢②良好③底④ねば完形				外縁口縁部横ナメ、底部窓附り。	33, 34	
								内面横ナメ放鉢状の動き。		

番号	出土位置	器形	大きさ				器形・製作技術の特徴	登録番号	備考
			口径	底高	色	調			
133	H-16	杯	[13.6]	5.9	①粘土 ②灰 ③赤 ④灰 ⑤灰存		外表面墨痕ナメ、底面黒削り表不定方向の擦き、内面横ナメ後削めの擦き。	27	
134	H-16	杯	12.4	5.4	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨痕ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	1	
135	H-16	杯	11.4	6.6	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨痕ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	22	
136	H-16	杯	[11.4]	[6.9]	①繊維②良好③焼④底残	1/2	外表面墨痕ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	2, 29	
137	H-16	高杯	15.2	11.3	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨痕ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	19	
138	H-16	高杯	14.2	11.7	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨痕ナメ、底面黒削り後削き、脚部墨ナメ。	30	
							内面墨削ナメ後削き。		
139	H-16	鉢	[41.6]	20.7	①繊維②良好③焼④底4/5		外表面墨ナメ。内面不明。	9	
140	H-16	杯	12.9	(5.3)	①繊維②良好③焼④底3/4		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	21, 29, 30	複数
141	H-16	杯	[13.8]	(6.6)	①繊維②良好③焼④底1/2		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	47, 露天土	
142	H-16	壺	-	(6.4)	①繊維②良好③焼④底1/2		外表面と同上にナメ。	24	
143	H-16	小鉢	[12.4]	13.3	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面墨ナメ。	17, 18, 35	
144	H-16	瓶	23.8	30.8	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨削ナメ、脚部墨無り。内面墨削ナメ、脚部上半墨ナメ、下半墨削り。	3	
145	表 横	杯	14.4	5.2	①繊維②良好③焼④底2/3		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ後削めの擦き。	表横	

Tab. 13 D区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ				器形・製作技術の特徴	登録番号	備考
			口径	底高	色	調			
146	H-1	甕	-	(24.2)	①中粒②良好③焼黄④灰		口縁大張、外表面削り取削き。内面ナメ。	3	
147	H-1	高杯	-	(4.8)	①繊維②良好③焼④脚部のみ		内外面ともにナメ。	4	
148	H-1	高杯	-	(7.3)	①繊維②良好③焼④脚部のみ		外表面削り。内面ナメ。	1	
149	H-1	瓶	-	(5.7)	①繊維②良好③焼④底1/4		外表面墨目、内面ナメ。	2	
150	H-5	杯	[12.7]	7.3	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	1	
151	H-5	杯	13.3	6.1	①繊維②良好③焼④底残完形		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	25	
152	H-5	小甕	[14.5]	11.8	①中粒②良好③焼④底2/5		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面ナメ。	16, 18	
153	H-5	甕	16.2	27.5	①繊維②良好③焼黄④完形		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面墨ナメ。	7	
154	H-5	甕	16.8	30.9	①繊維②良好③焼黄④完形		外表面墨削ナメ、脚部上半墨毛目、下半墨削り。内面ナメ。	20, 22	
								24	
155	H-5	甕	10.5	10.0	①繊維②良好③焼黄④完形		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	26	
156	H-5	甕	17.4	22.1	①繊維②良好③焼黄④完形		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面ナメ。	23	
157	H-5	甕	15.9	(25.5)	①繊維②良好③焼黄④底4/5		外表面墨削ナメ、脚部上半墨毛目、下半墨削り。内面墨削ナメ、脚部上半墨毛目、下半ナメ。	2	
								13	
158	XH-Y125	甕	12.4	6.5	①中粒②良好③焼黄④底残完形		外表面墨削ナメ、底面黒削り。内面墨ナメ。	-	
159	XH-Y113	脚付甕	[10.5]	4.9	①繊維②良好③焼④底1/4		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面墨ナメ。	-	
160	XH-Y120	小甕	[9.1]	8.2	①繊維②良好③焼④底1/2		外表面墨削ナメ、脚部墨削り。内面ナメ。	-	
161	XH-Y120	甕	[10.9]	(9.8)	①繊維②良好③焼④底1/3		外表面墨削ナメ、内面墨削ナメ、脚部ナメ。	-	
162	XH-Y125	手足付甕	-	(2.6)	①繊維②良好③焼④底1/2		内外面ともにナメ。	-	
163	H-3	筋縫甕	(6.2)	1.4	重32.2	孔(60.5)	①繊維②良好③焼④先頭④ナメ。	-	

註) 1. 土器品の観察項目は、胎土皮膚色調有無と器形方法の欄で記載した。

2. ①胎土は粗粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な軸物が入る場合には軸物名を記載。

②焼成は優良、良好、不良の3段階評価。

③色調は土器外表面を観察し、色名は新日本標準土色帖(小山・竹原1976)によった。

④大きさの単位はcm、gであり、現存値を( )、復元値を[]で示した。その他の小片については所属部位を記載した。

Tab. 14 玉類観察表

番号	器 形	①直徑	②最大厚	③重さ	④石材	登録番号
164	ガラス小玉	⑩3.2	⑩2.5	⑩1	④青色	61
165	ガラス小玉	⑩3.6	⑩2.0	⑩1	④青色	62
166	ガラス小玉	⑩3.6	⑩2.2	⑩1	④青色	63
167	ガラス小玉	⑩3.6	⑩3.4	⑩1	④青色	64
168	ガラス小玉	⑩3.5	⑩3.3	⑩1	④青色	65
169	ガラス小玉	⑩3.9	⑩1.9	⑩1	④青色	66
170	ガラス小玉	⑩3.6	⑩1.8	⑩1	④綠色	67
171	白 玉	⑩6.8	⑩3.8	⑩0.3	④滑石	1
172	白 玉	⑩6.1	⑩3.2	⑩0.2	④滑石	1
173	白 玉	⑩6.0	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	2
174	白 玉	⑩6.6	⑩3.8	⑩0.3	④滑石	3
175	白 玉	⑩6.8	⑩3.9	⑩0.3	④滑石	4
176	白 玉	⑩6.4	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	5
177	白 玉	⑩5.7	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	6
178	白 玉	⑩5.3	⑩4.1	⑩0.2	④滑石	7
179	白 玉	⑩5.7	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	8
180	白 玉	⑩6.4	⑩3.2	⑩0.2	④滑石	9
181	白 玉	⑩6.0	⑩4.3	⑩0.2	④滑石	10
182	白 玉	⑩5.9	⑩2.0	⑩0.1	④滑石	11
183	白 玉	⑩6.1	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	12
184	白 玉	⑩5.3	⑩3.0	⑩0.2	④滑石	13
185	白 玉	⑩6.1	⑩4.2	⑩0.2	④滑石	14
186	白 玉	⑩6.4	⑩4.0	⑩0.3	④滑石	15
187	白 玉	⑩5.6	⑩3.9	⑩0.3	④滑石	16
188	白 玉	⑩5.8	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	17
189	白 玉	⑩6.0	⑩3.9	⑩0.2	④滑石	18
190	白 玉	⑩7.6	⑩3.8	⑩0.3	④滑石	19
191	白 玉	⑩7.5	⑩3.5	⑩0.3	④滑石	20
192	白 玉	⑩6.0	⑩2.4	⑩0.1	④滑石	21
193	白 玉	⑩6.5	⑩4.1	⑩0.3	④滑石	22
194	白 玉	⑩6.5	⑩2.5	⑩0.2	④滑石	23
195	白 玉	⑩5.5	⑩3.0	⑩0.2	④滑石	24
196	白 玉	⑩5.3	⑩3.9	⑩0.2	④滑石	25
197	白 玉	⑩7.9	⑩4.0	⑩0.4	④滑石	26
198	白 玉	⑩6.4	⑩3.4	⑩0.3	④滑石	27
199	白 玉	⑩5.5	⑩4.9	⑩0.3	④滑石	28
200	白 玉	⑩6.8	⑩4.1	⑩0.3	④滑石	29
201	白 玉	⑩6.1	⑩5.0	⑩0.4	④滑石	30
202	白 玉	⑩6.1	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	31
203	白 玉	⑩5.3	⑩6.1	⑩0.2	④滑石	32
204	白 玉	⑩5.9	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	33
205	白 玉	⑩5.7	⑩3.9	⑩0.2	④滑石	34
206	白 玉	⑩6.9	⑩4.1	⑩0.2	④滑石	35
207	白 玉	⑩5.7	⑩1.8	⑩0.1	④滑石	36
208	白 玉	⑩6.8	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	37
209	白 玉	⑩6.1	⑩2.2	⑩0.1	④滑石	38
210	白 玉	⑩6.2	⑩4.5	⑩0.2	④滑石	39
211	白 玉	⑩5.4	⑩3.5	⑩0.2	④滑石	40
212	白 玉	⑩7.1	⑩4.8	⑩0.4	④滑石	45
213	白 玉	⑩5.3	⑩4.5	⑩0.2	④滑石	46
214	白 玉	⑩6.0	⑩3.2	⑩0.2	④滑石	47
215	白 玉	⑩5.4	⑩4.5	⑩0.2	④滑石	48
216	白 玉	⑩5.1	⑩2.6	⑩0.2	④滑石	49
217	白 玉	⑩6.6	⑩3.5	⑩0.2	④滑石	51

番号	器 形	①直徑	②最大厚	③重さ	④石材	登録番号
218	白 玉	⑩6.8	⑩4.0	⑩0.2	④滑石	52
219	白 玉	⑩6.4	⑩4.1	⑩0.3	④滑石	56
220	白 玉	⑩6.1	⑩3.2	⑩0.2	④滑石	59
221	白 玉	⑩5.7	⑩4.0	⑩0.2	④滑石	60
222	白 玉	⑩6.6	⑩4.1	⑩0.4	④滑石	70
223	白 玉	⑩6.9	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
224	白 玉	⑩5.8	⑩4.1	⑩0.2	④滑石	70
225	白 玉	⑩5.1	⑩4.0	⑩0.2	④滑石	70
226	白 玉	⑩6.4	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	70
227	白 玉	⑩5.3	⑩4.0	⑩0.2	④滑石	70
228	白 玉	⑩6.4	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
229	白 玉	⑩6.0	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
230	白 玉	⑩5.3	⑩2.2	⑩0.1	④滑石	70
231	白 玉	⑩6.3	⑩4.6	⑩0.3	④滑石	70
232	白 玉	⑩6.7	⑩3.6	⑩0.3	④滑石	70
233	白 玉	⑩6.4	⑩3.1	⑩0.2	④滑石	70
234	白 玉	⑩6.9	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
235	白 玉	⑩6.3	⑩4.1	⑩0.2	④滑石	70
236	白 玉	⑩5.5	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	70
237	白 玉	⑩5.8	⑩2.4	⑩0.1	④滑石	70
238	白 玉	⑩5.0	⑩2.3	⑩0.2	④滑石	70
239	白 玉	⑩5.2	⑩4.2	⑩0.2	④滑石	70
240	白 玉	⑩5.6	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
241	白 玉	⑩6.8	⑩3.2	⑩0.1	④滑石	70
242	白 玉	⑩6.2	⑩4.4	⑩0.2	④滑石	70
243	白 玉	⑩6.6	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
244	白 玉	⑩5.3	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	70
245	白 玉	⑩5.3	⑩3.1	⑩0.1	④滑石	70
246	白 玉	⑩6.1	⑩2.9	⑩0.2	④滑石	70
247	白 玉	⑩6.0	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
248	白 玉	⑩6.0	⑩4.6	⑩0.2	④滑石	70
249	白 玉	⑩5.2	⑩4.1	⑩0.1	④滑石	70
250	白 玉	⑩5.3	⑩4.6	⑩0.2	④滑石	70
251	白 玉	⑩6.7	⑩2.0	⑩—	④滑石	70
252	白 玉	⑩6.1	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
253	白 玉	⑩6.5	⑩3.8	⑩0.1	④滑石	70
254	白 玉	⑩6.9	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
255	白 玉	⑩6.5	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
256	白 玉	⑩6.3	⑩2.9	⑩0.1	④滑石	70
257	白 玉	⑩6.1	⑩4.8	⑩0.3	④滑石	70
258	白 玉	⑩6.6	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	70
259	白 玉	⑩6.4	⑩3.5	⑩0.2	④滑石	70
260	白 玉	⑩6.3	⑩4.1	⑩0.2	④滑石	70
261	白 玉	⑩6.4	⑩3.1	⑩0.2	④滑石	70
262	白 玉	⑩6.0	⑩4.6	⑩0.2	④滑石	70
263	白 玉	⑩6.4	⑩4.6	⑩0.2	④滑石	70
264	白 玉	⑩6.1	⑩3.3	⑩0.2	④滑石	70
265	白 玉	⑩6.9	⑩3.4	⑩0.2	④滑石	70
266	白 玉	⑩6.8	⑩3.3	⑩0.1	④滑石	70
267	白 玉	⑩7.4	⑩4.7	⑩0.4	④滑石	70
268	白 玉	⑩6.0	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70
269	白 玉	⑩5.6	⑩3.5	⑩0.3	④滑石	70
270	白 玉	⑩6.8	⑩3.6	⑩0.2	④滑石	70
271	白 玉	⑩6.0	⑩3.8	⑩0.2	④滑石	70

番号	器 形	①直径	②最大厚	③重さ	④石材
274	白 玉	①6.9 ②4.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
275	白 玉	①6.2 ②3.0	③0.1	④滑石 粘土	滑石
276	白 玉	①6.5 ②4.0	③0.2	④滑石 粘土	滑石
277	白 玉	①6.3 ②3.6	③0.2	④滑石 粘土	滑石
278	白 玉	①6.3 ②2.8	③0.1	④滑石 粘土	滑石
279	白 玉	①6.2 ②3.7	③0.3	④滑石 粘土	滑石
280	白 玉	①6.7 ②4.9	③0.2	④滑石 粘土	滑石
281	白 玉	①6.8 ②3.6	③0.2	④滑石 粘土	滑石
282	白 玉	①6.7 ②3.5	③0.2	④滑石 粘土	滑石
283	白 玉	①6.6 ②3.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
284	白 玉	①6.6 ②4.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
285	白 玉	①6.0 ②3.2	③0.2	④滑石 粘土	滑石
286	白 玉	①6.2 ②2.7	③0.1	④滑石 粘土	滑石
287	白 玉	①6.1 ②4.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
288	白 玉	①6.8 ②2.8	③0.1	④滑石 粘土	滑石
289	白 玉	①5.6 ②4.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
290	白 玉	①7.6 ②4.3	③0.4	④滑石 粘土	滑石
291	白 玉	①6.4 ②3.7	③0.2	④滑石 粘土	滑石
292	白 玉	①6.4 ②4.2	③0.2	④滑石 粘土	滑石
293	白 玉	①6.2 ②3.5	③0.2	④滑石 粘土	滑石
294	白 玉	①6.1 ②3.7	③0.2	④滑石 粘土	滑石
295	白 玉	①5.8 ②4.0	③0.2	④滑石 粘土	滑石
296	白 玉	①6.5 ②5.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
297	白 玉	①6.6 ②3.7	③0.3	④滑石 粘土	滑石
298	白 玉	①5.9 ②4.0	③0.2	④滑石 粘土	滑石
299	白 玉	①5.8 ②4.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石
300	白 玉	①6.0 ②3.5	③0.2	④滑石 粘土	滑石
301	白 玉	①5.8 ②3.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
302	白 玉	①5.5 ②4.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石

番号	器 形	①直径	②最大厚	③重さ	④石材
303	白 玉	①7.3 ②4.0	③0.3	④滑石 粘土	滑石
304	白 玉	①6.0 ②2.2	③0.1	④滑石 粘土	滑石
305	白 玉	①6.4 ②3.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石
306	白 玉	①6.1 ②4.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石
307	白 玉	①5.9 ②4.5	③0.2	④滑石 粘土	滑石
308	白 玉	①5.8 ②3.6	③0.1	④滑石 粘土	滑石
309	白 玉	①5.9 ②3.8	③0.2	④滑石 粘土	滑石
310	白 玉	①5.2 ②6.0	③0.2	④滑石 粘土	滑石
311	白 玉	①5.8 ②2.8	③0.1	④滑石 粘土	滑石
312	白 玉	①5.5 ②3.1	③0.1	④滑石 粘土	滑石
313	白 玉	①6.1 ②4.3	③0.3	④滑石 粘土	滑石
314	白 玉	①6.4 ②3.7	③0.2	④滑石 粘土	滑石
315	白 玉	①5.5 ②5.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
316	白 玉	①7.4 ②3.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石
317	白 玉	①6.2 ②4.3	③0.3	④滑石 粘土	滑石
318	白 玉	①7.5 ②4.0	③0.3	④滑石 粘土	滑石
319	白 玉	①6.9 ②4.9	③0.2	④滑石 粘土	滑石
320	白 玉	①5.4 ②3.3	③0.1	④滑石 粘土	滑石
321	白 玉	①6.0 ②3.0	③0.1	④滑石 粘土	滑石
322	白 玉	①6.4 ②2.6	③0.2	④滑石 粘土	滑石
323	白 玉	①6.7 ②4.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
324	白 玉	①6.4 ②3.4	③0.1	④滑石 粘土	滑石
325	白 玉	①5.7 ②4.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
326	白 玉	①6.9 ②4.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
327	白 玉	①6.0 ②3.3	③0.2	④滑石 粘土	滑石
328	白 玉	①6.4 ②3.6	③0.2	④滑石 粘土	滑石
329	白 玉	①5.7 ②3.4	③0.2	④滑石 粘土	滑石
330	白 玉	①6.4 ②4.1	③0.2	④滑石 粘土	滑石
331	管 筒	①7.0 ②29.5	③2.6	④碧玉	41

註 1. 出土位置は171がA区H-8から、そのほかはすべてA区H-12出土である。

2. 観察項目は、ガラス小玉については①直徑②最大幅③重さ④色調の順、管玉については①直徑②全長③重さ④石材の順で記載した。

3. 大きさの単位はmm, gである。

Tab. 15 石製品・鉄製品観察表

番号	出 土 位 置	器 形	①最大長	②最大幅	③最大厚	④重さ	⑤残存	⑥石材	登録番号	備 考
332	H-12	筋縫車	①4.6 ②4.5	③1.0	④0.6	⑤完形	⑥滑石		43	
333	H-12	筋縫車	①3.9 ②4.0	③1.7	④38.5	⑤完形	⑥滑石		50	孔に炭化物
334	H-12	筋縫車	①4.5 ②4.6	③1.7	④65.5	⑤完形	⑥滑石		63	
335	H-12	筋縫車	①4.8 ②4.8	③1.0	④36.2	⑤完形	⑥滑石		44	
336	H-12	筋縫車	①4.1 ②4.1	③1.6	④37.8	⑤完形	⑥滑石		53	孔に炭化物
337	H-12	刀子	①(5.3) ②1.2	③0.1	④2.2	⑤破片			42	
338	H-6	磨石	①17.8 ②18.4	③4.2	④2630	⑤不明	⑥頁岩		7	
339	H-10	砥石	①13.4 ②6.8	③4.7	④324	⑤不明	⑥粗粒安山岩(4面使用)		1	
340	H-12	砥石	①(14.3) ②8.0	③4.9	④750	⑤不明	⑥粗粒安山岩(4面使用)		5, 58	
341	H-12	砥石	①(9.2) ②8.2	③2.7	④129.8	⑤不明	⑥粗粒安山岩(4面使用)		120	
342	H-13	砥石	①(9.1) ②4.7	③3.7	④267.2	⑤不明	⑥粗粒安山岩(4面使用)		17	
343	H-8	剥片	①4.3 ②2.7	③0.1	④10.6	⑤完形	⑥頁岩			
344	H-12	打製石斧	①8.3 ②6.2	③2.0	④103.0	⑤完形	⑥頁岩		85	
345	H-12	打製石斧	①10.7 ②8.5	③2.2	④207.9	⑤完形	⑥頁岩		95	
346	DEXX89Y108	石礫	①1.9 ②1.3	③0.3	④0.7	⑤完形	⑥石英		—	凹基無茎鐵
347	D区 H-1	石礫	①2.2 ②1.9	③0.3	④1.2	⑤完形	⑥頁岩			凹基無茎鐵
348	H-12	石礫	①2.7 ②1.4	③0.4	④1.2	⑤完形	⑥頁岩		54	平基無茎鐵

註 1. 出土位置で断りのないものはすべてA区出土である。

2. 石器・石製品の観察項目は、①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存⑥石材の順で記載した。

3. 鉄製品の観察項目は、①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存の順で記載した。

4. 大きさの単位はmm, gであり、残存部を( )、復元部〔 〕で示した。その他の小片については所属部位を記載した。

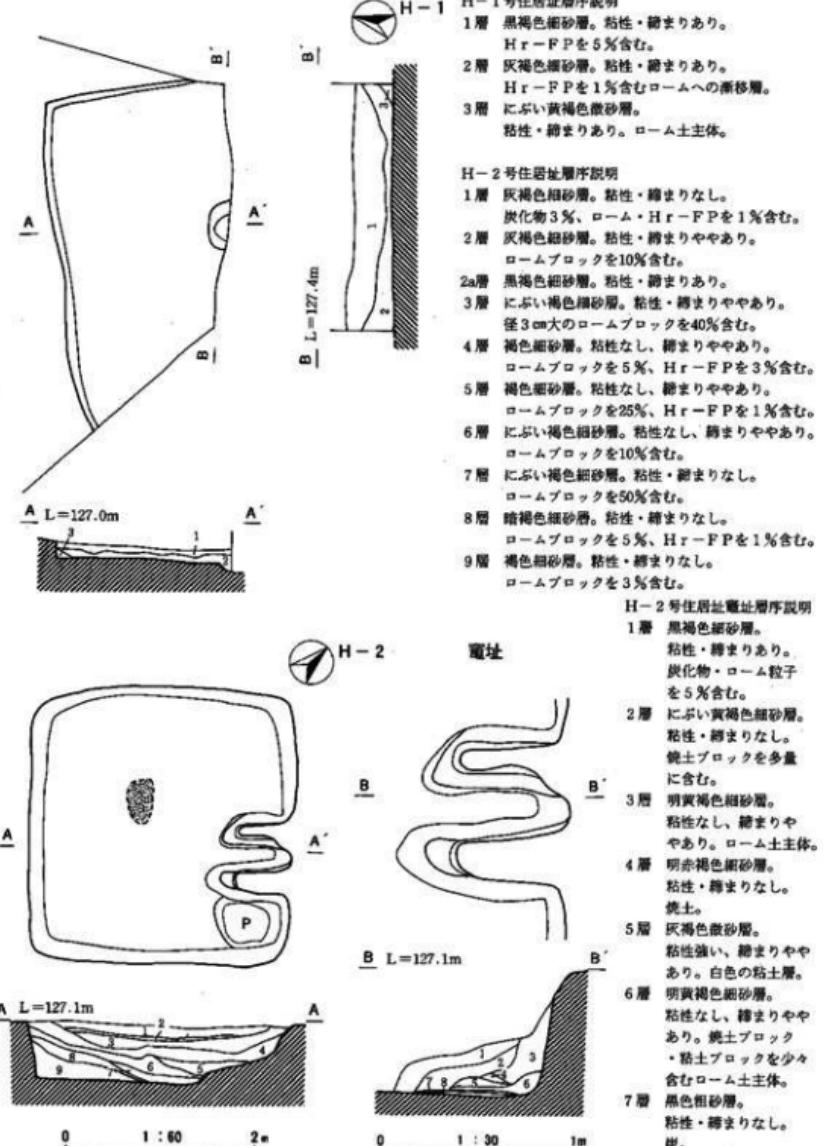


Fig. 12 A区 H-1・2号住居址

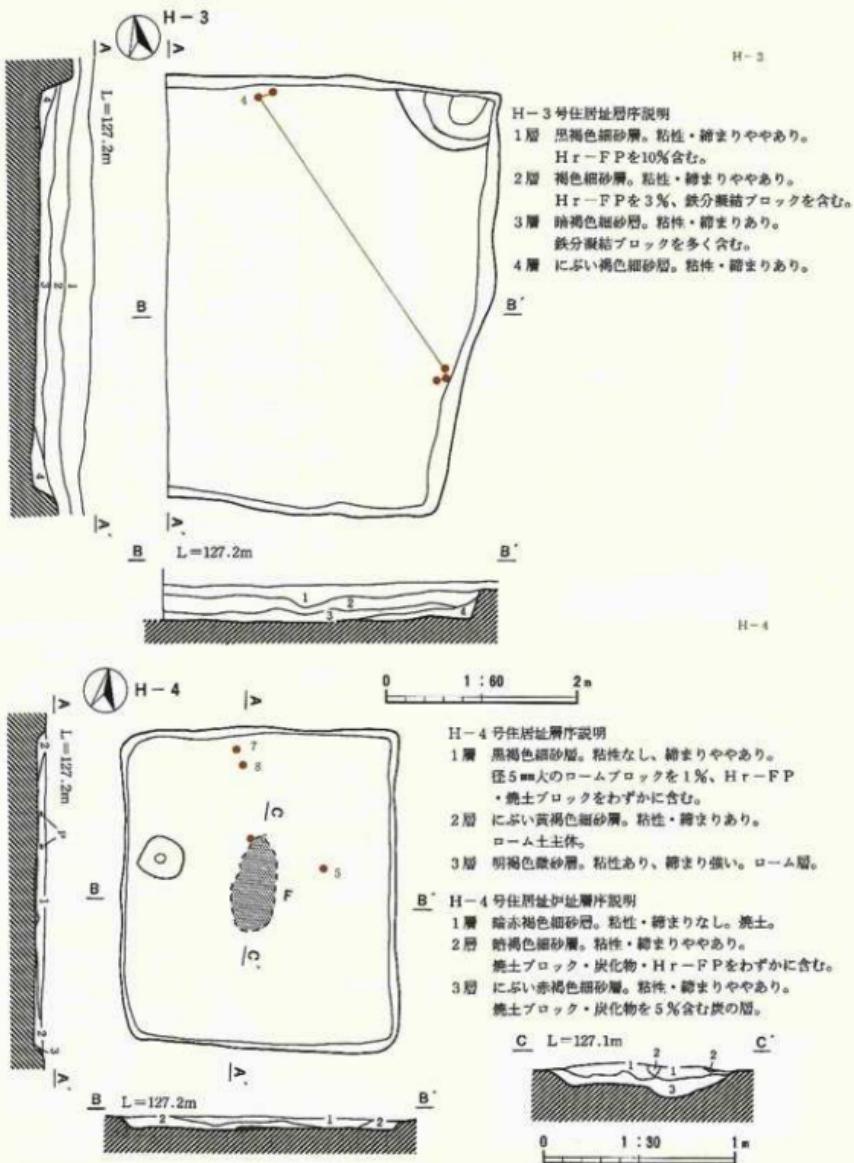
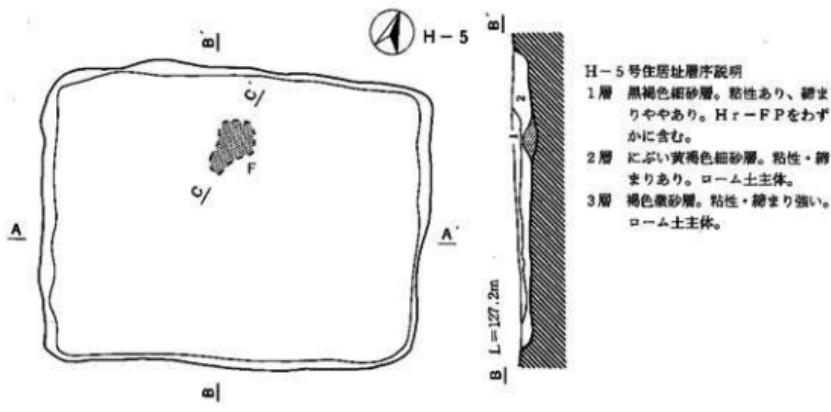
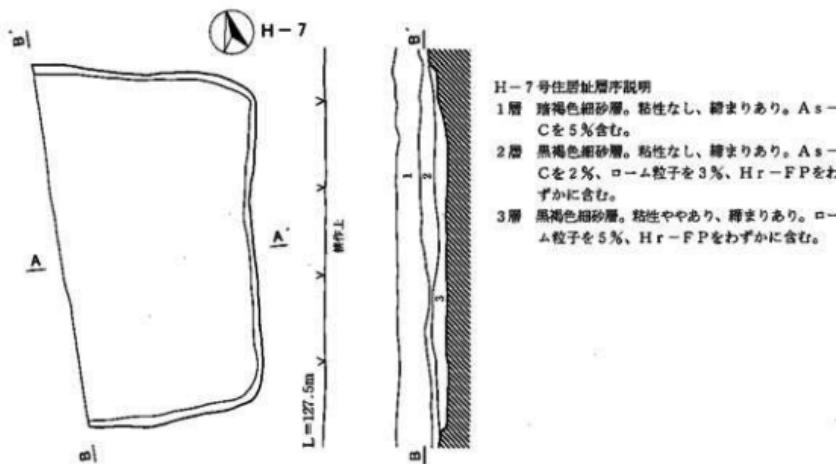
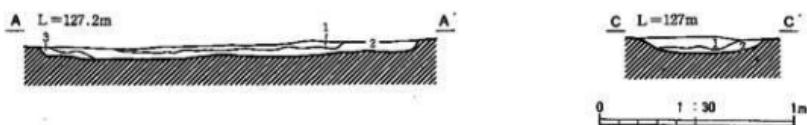


Fig. 13 A|K H-3・4号住居址



H-5号住居址層序説明  
1層 黒褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。Hr-FPをわずかに含む。  
2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム土主体。  
3層 褐色微砂層。粘性・締まり強い。ローム土主体。



H-7号住居址層序説明  
1層 瑞褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを5%含む。  
2層 黒褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを2%、ローム粒子を3%、Hr-FPをわずかに含む。  
3層 黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム粒子を5%、Hr-FPをわずかに含む。

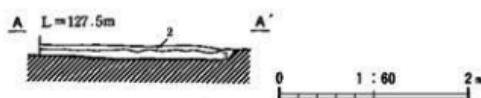
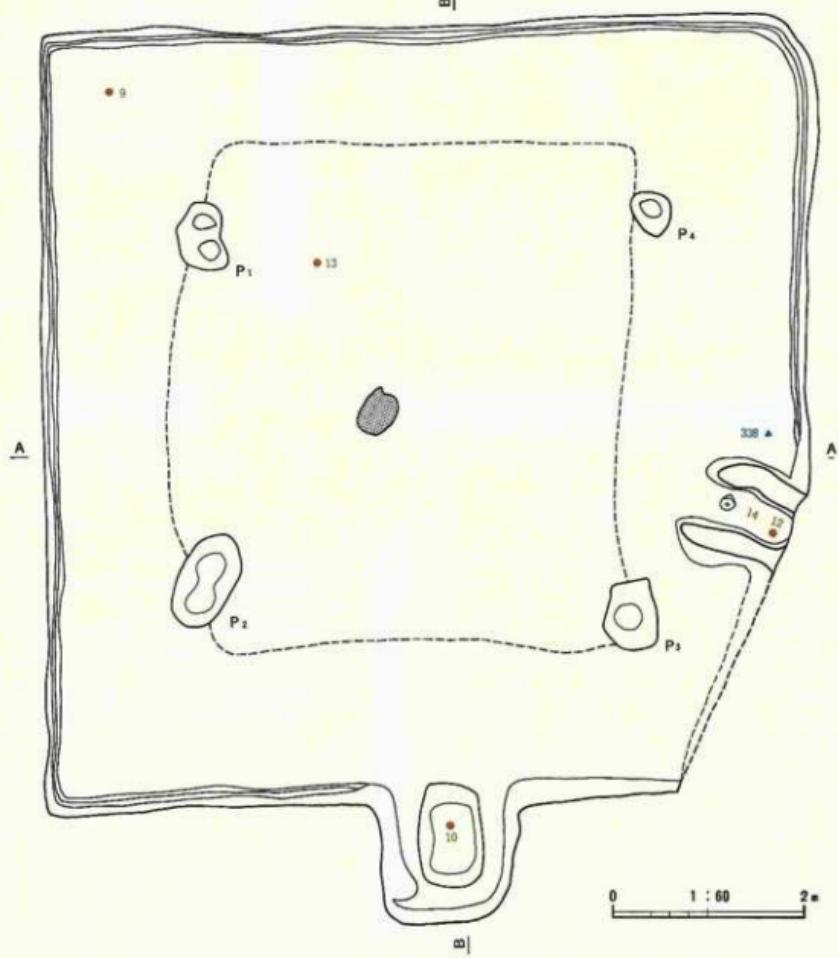


Fig. 14 A区 H-5・7号住居址

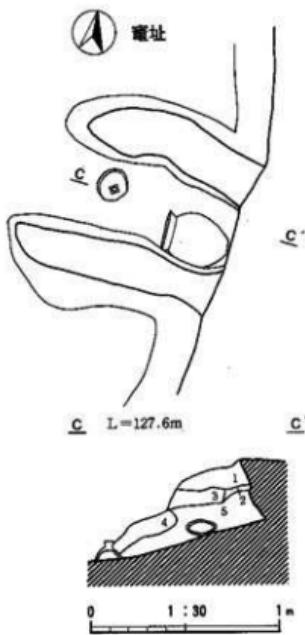
(A) H-6



A L=127.5m



Fig. 15 A区 H-6号住居址



H-6号住居址遺址層序説明

- 1層 灰黄褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。焼土ブロック・ローム粒子を2%、炭化物をわずかに含む。
- 2層 にぶい灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを2%、ロームブロックを3%含む。
- 3層 にぶい灰褐色細砂層。粘性・締まりあり。径5~10mmのロームブロックを3%、焼土ブロック・炭化物を1%含む。
- 4層 灰黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径10mmのロームブロックを3%、焼土・炭化物を1%含む天井に掛けた粘土が落ちた層。
- 5層 にぶい灰褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。焼土ブロックを3%、白色粘土を多量に含む。

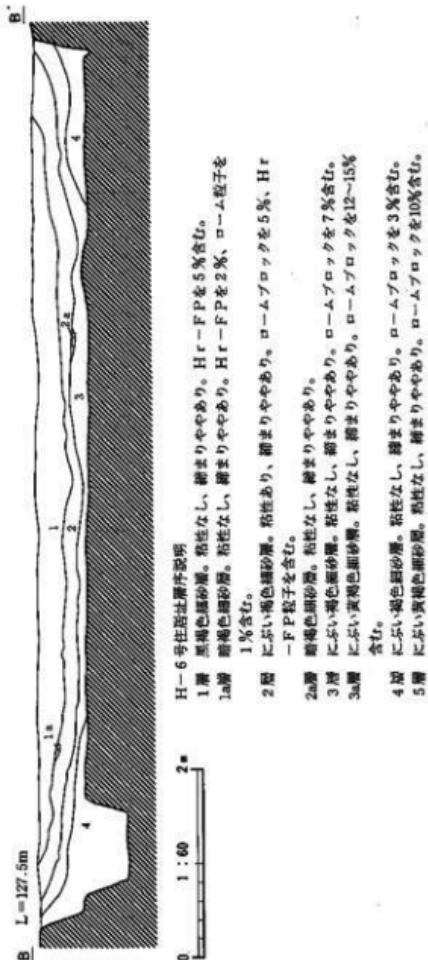


Fig. 16 A区 H-6号住居址

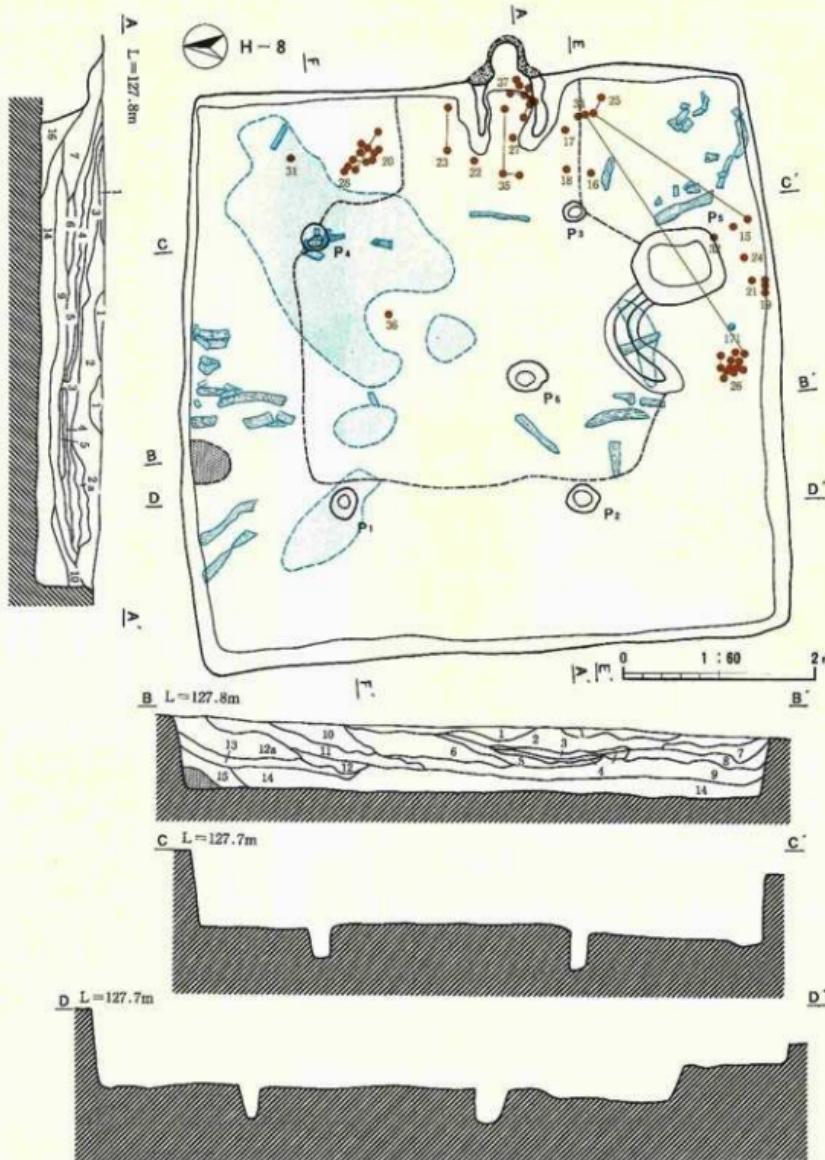


Fig. 17 A区 H-8号住居址

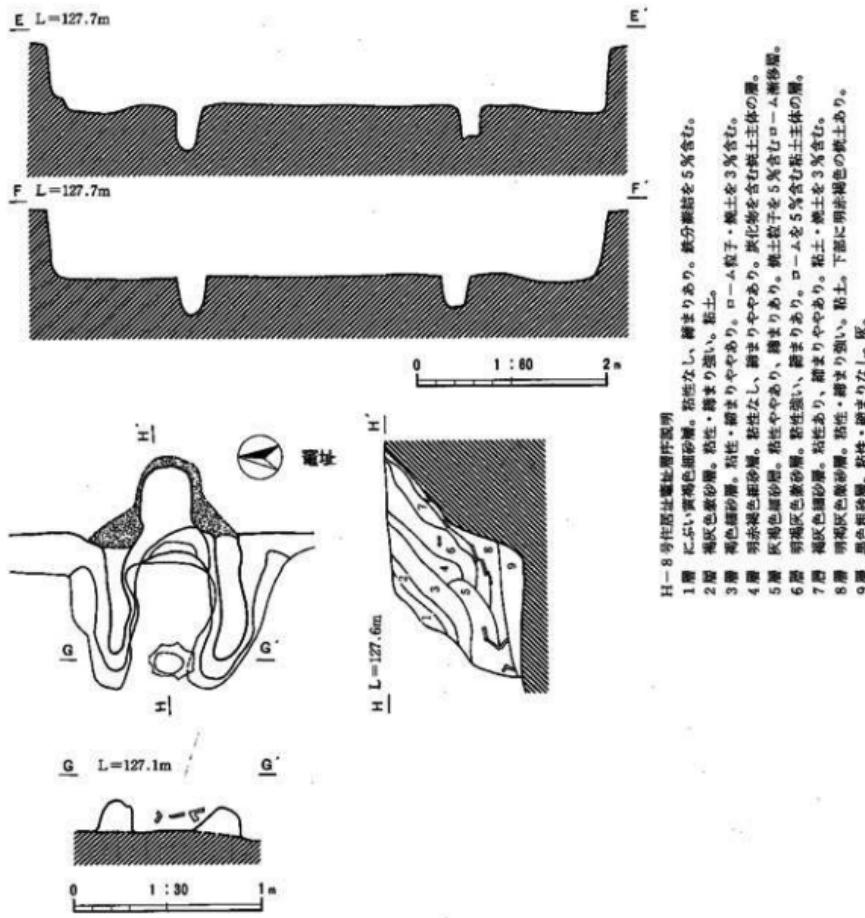


Fig. 18 A区 H-8号住居址

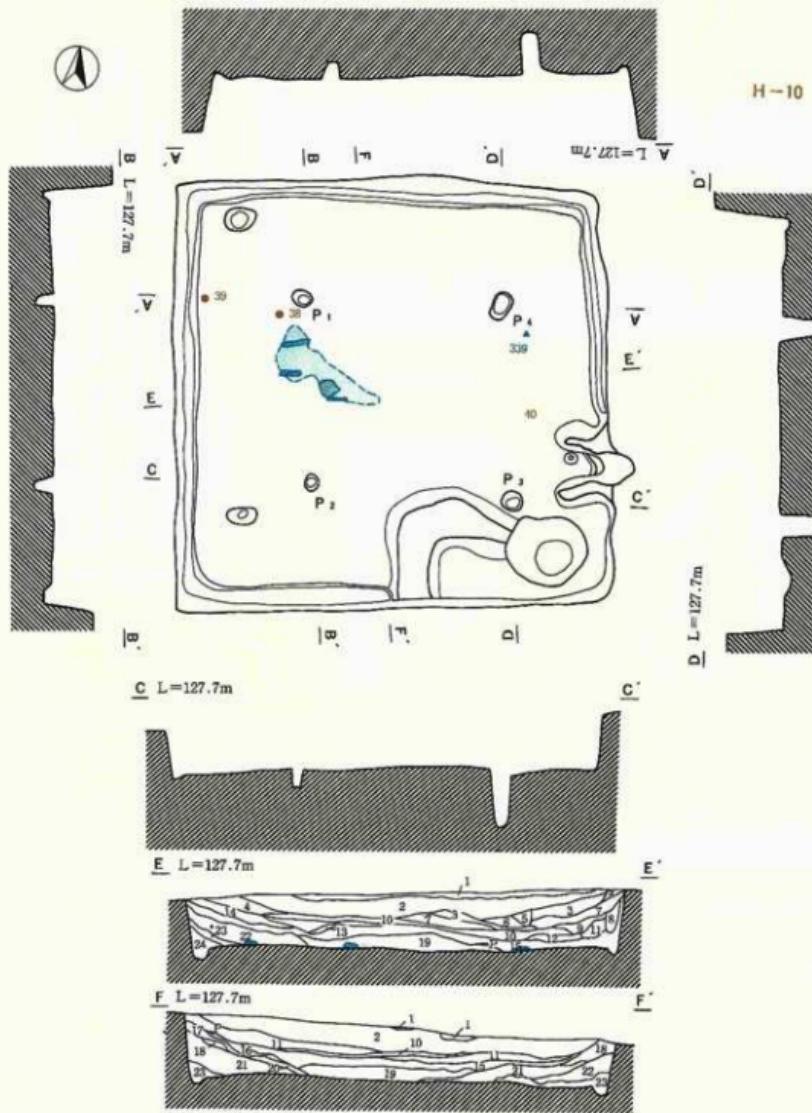
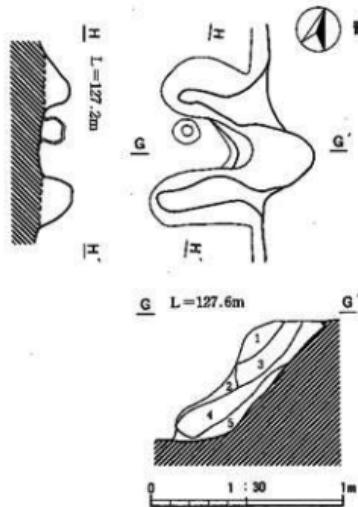


Fig. 19 A区 H-10号住居址



- H-9号住居址層序説明
- 1層 黒褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。As-Cを7%、Hr-FPを2%含む。
  - 2層 暗褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを5%、Hr-FPをわずかに含む。
  - 3層 にぶい黄褐色微砂層。粘性あり、締まりなし。ローム粒子をわずかに含む。

H-9号住居址炉址層序説明

- 1層 暗赤褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土。
- 2層 暗褐色細砂層。粘性あり、締まり強い。焼土粒子をわずかに含む。

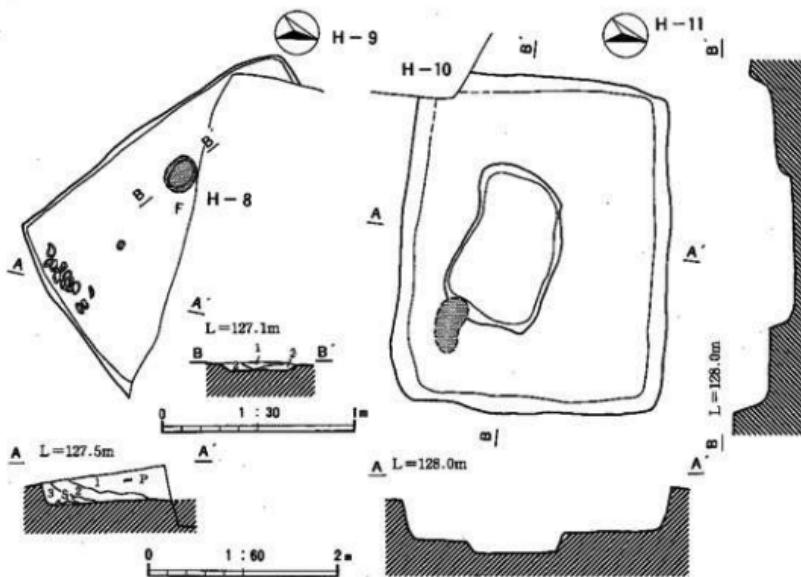
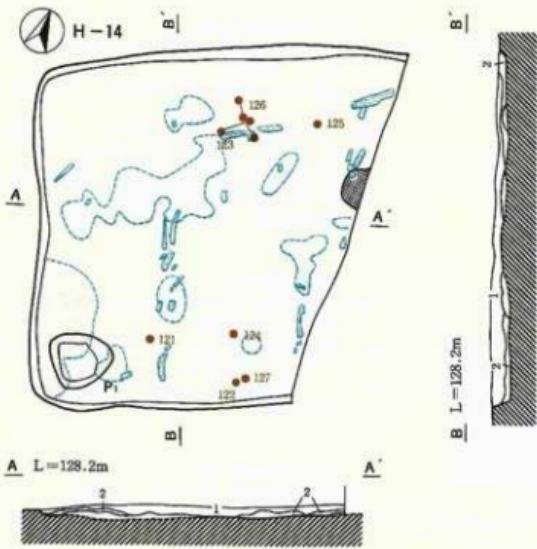
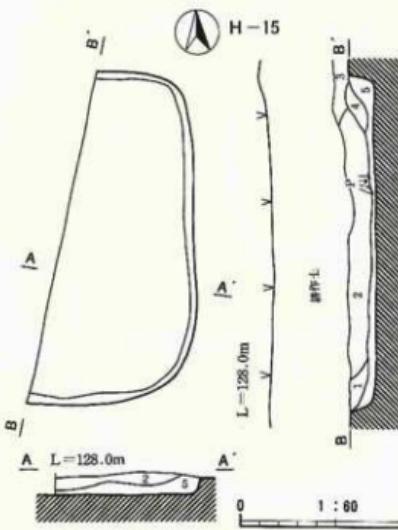


Fig. 20 A区 H-9・10・11号住居址



#### H-14号住居址層序説明

- 1層 暗褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。As-Cを3%、揮0.5~1cmのロームブロックを3%、炭化物・Hr-FPをわずかに含む。
- 2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径1cmの大のロームブロックを5%、炭化物を5%、焼土ブロックを1%含む。



#### H-15号住居址層序説明

- 1層 暗褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを2%含む。
- 2層 黒褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを2%、Hr-FPをわずかに含む。部分的にローム土主体の土が入る。
- 3層 深色細砂層。粘性・締まりあり。As-Cをわずかに含む。
- 4層 暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。As-C・ローム粒子をわずかに含む。
- 5層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム土主体。

Fig. 21 A区 H-14・15号住居址

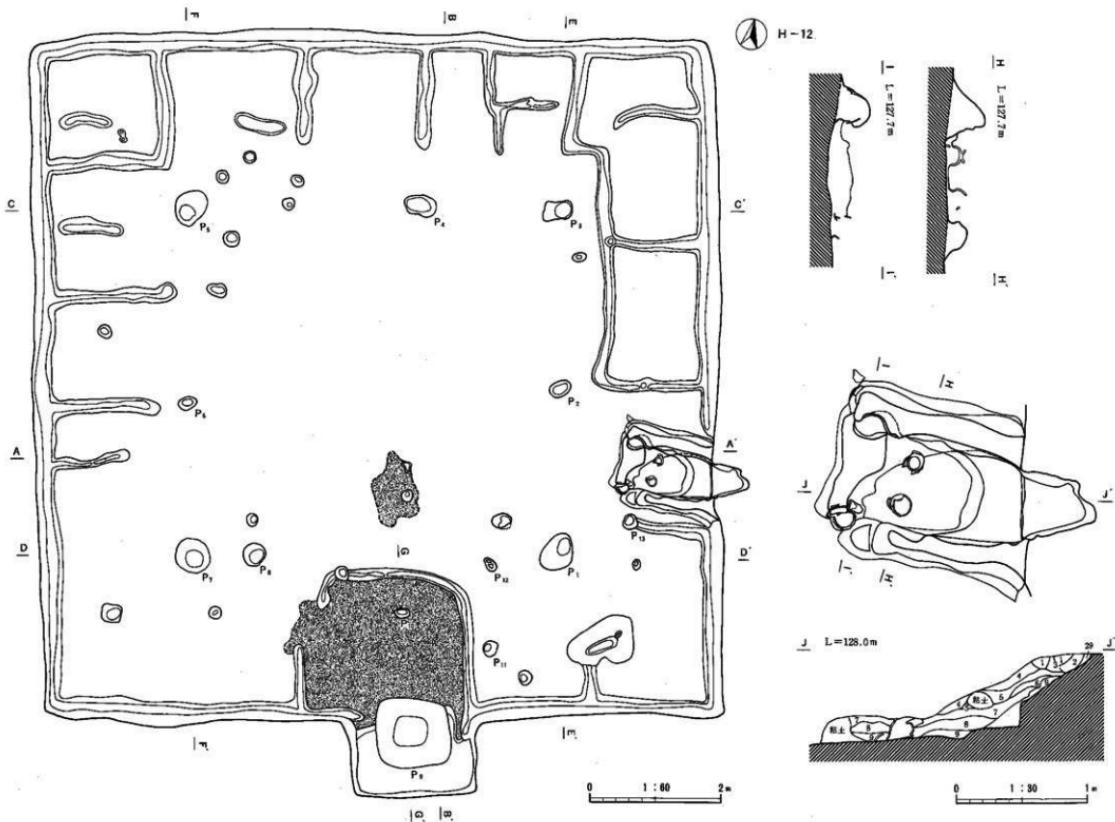


Fig. 22 A区H-12号住居址

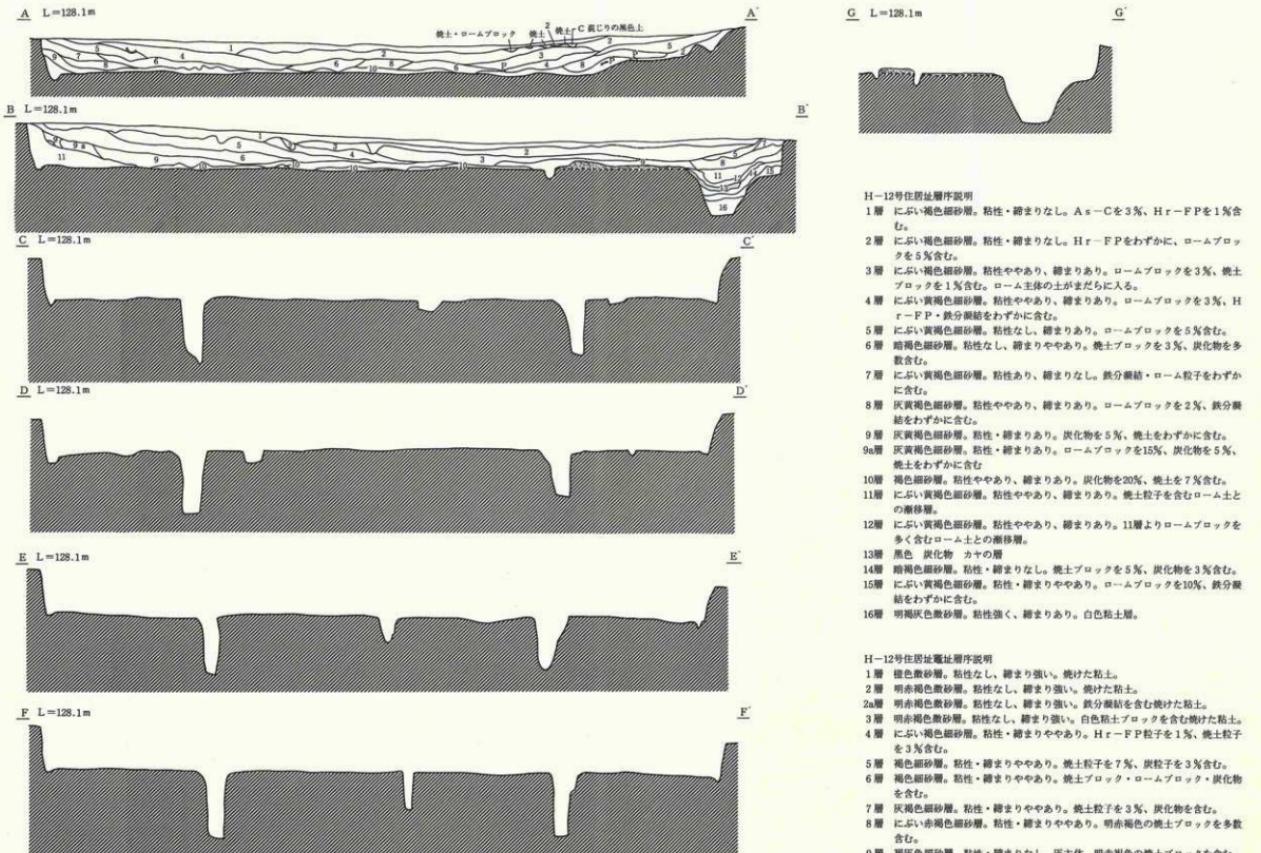


Fig.23 A区H-12号住宅

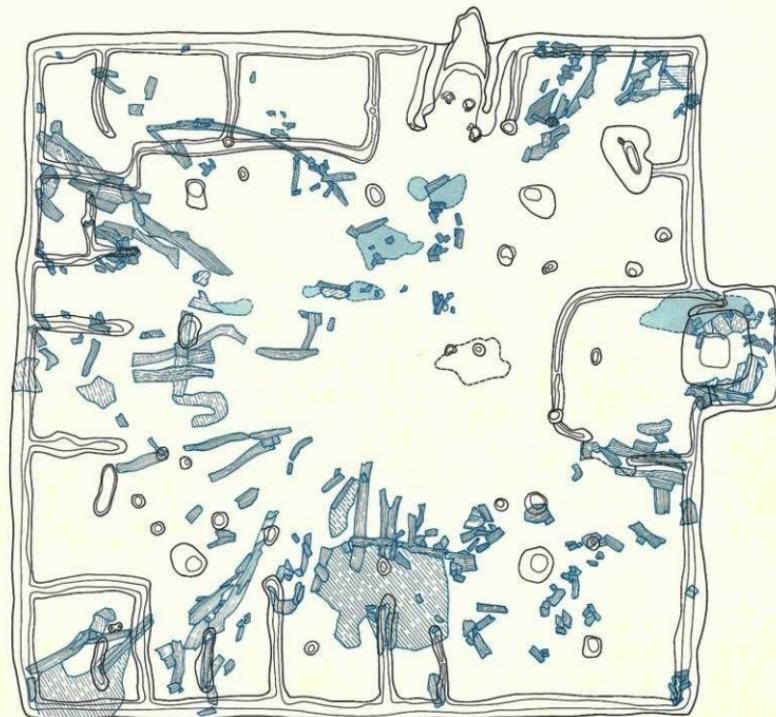


Fig. 24 A区 H-12号住宅区 炭化物分布图



Fig. 25 A区H-12号住居址 遗物分布图

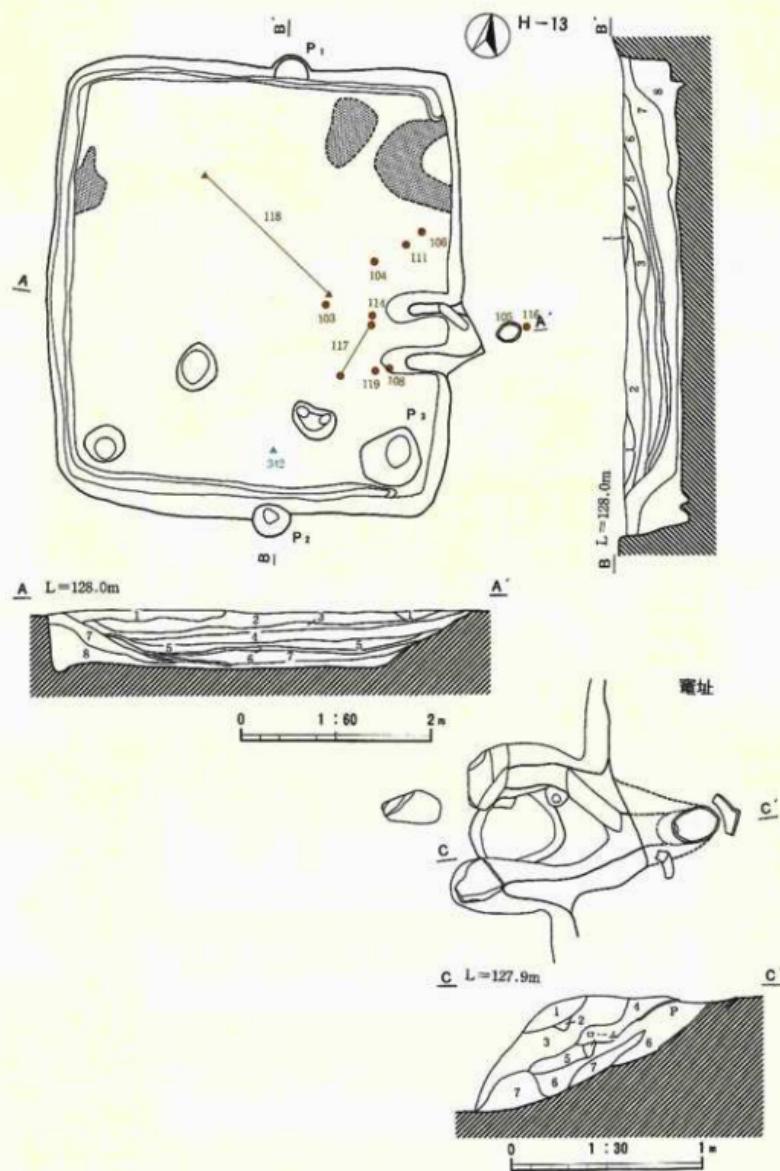


Fig. 26 A区 H-13号住居址

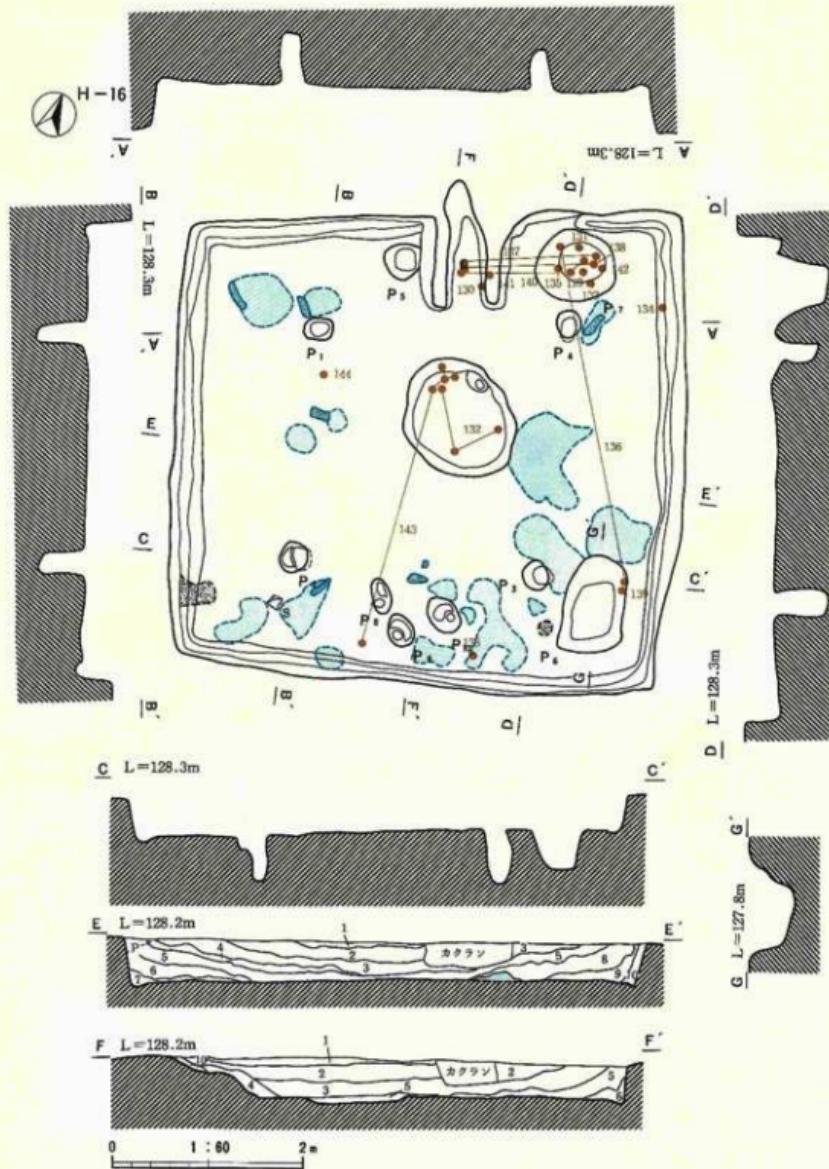
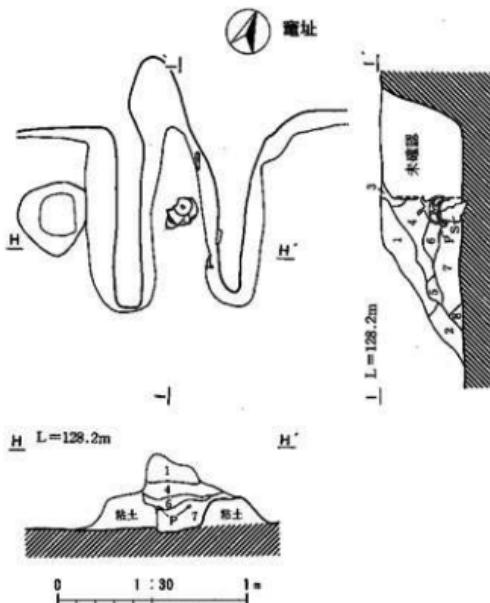


Fig. 27 A区 H-16号住居址



#### H-16号住居址層序説明

- 褐色細砂層。粘性なし、縛まりややあり。As-C・ローム粒子を3%ふくむ。
- 暗褐色細砂層。粘性なし、縛まりややあり。As-Cを2%、ローム粒子・Hr-FPをわずかに含む。
- 暗褐色細砂層。粘性なし、縛まりややあり。As-Cを1%、Hr-FPをわずかに含む。
- 黒褐色細砂層。粘性なし、縛まりややあり。As-Cを5%、Hr-FP・炭化物をわずかに含む。
- 暗褐色細砂層。粘性・縛まりややあり。Hr-FPを2%、ロームブロックをわずかに含む。
- 暗褐色細砂層。粘性あり、縛まりなし。ローム粒子・焼土粒子をわずかに含む。
- にぶい黄褐色粗砂層。粘性・縛まりなし。ロームブロックを7%含む。
- にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりなし。焼土粒子・ロームブロック・炭化物を3%含む。
- にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりなし。ロームブロックを1%、炭化物・焼土ブロックをわずかに含む。
- にぶい黄褐色細砂層。粘性・縛まりなし。ロームブロックを10%、焼土ブロックをわずかに含む。

#### H-16号住居址遺址層序説明

- 黒褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりなし。焼土・ローム粒子を3%含む。
- にぶい褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりなし。焼土ブロック・ローム粒子を3%含む。
- 明黄褐色細砂層。粘性・縛まりあり。窓の天井部。
- にぶい褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりなし。焼土ブロック・ローム粒子を3%含む。
- にぶい赤褐色細砂層。粘性ややあり、縛まりあり。明赤褐色の焼土ブロックを10%含む。
- にぶい赤褐色細砂層。粘性・縛まりややあり。明赤褐色の焼土ブロックを15%含む。
- にぶい橙色微砂層。粘性・縛まりあり。鉄分網状を10%、明赤褐色の焼土ブロックを15%含む。
- 明黄褐色細砂層。粘性・縛まりややあり。ローム土主体。

Fig. 28 A区 H-16号住居址

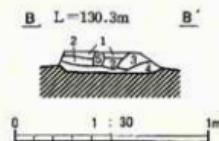
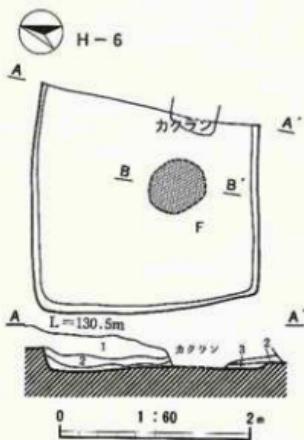
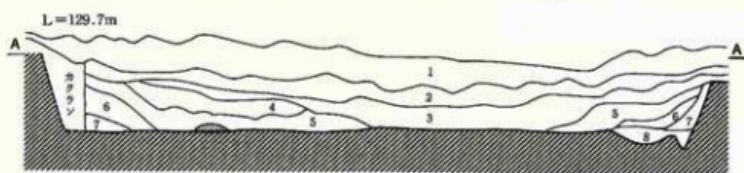
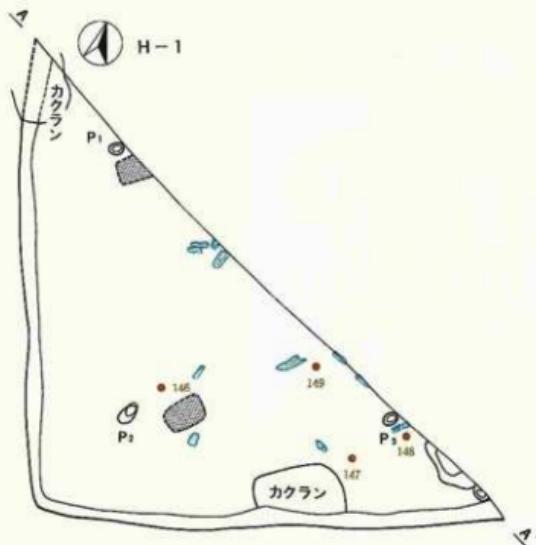


Fig. 29 D区 H-1・6号住居址

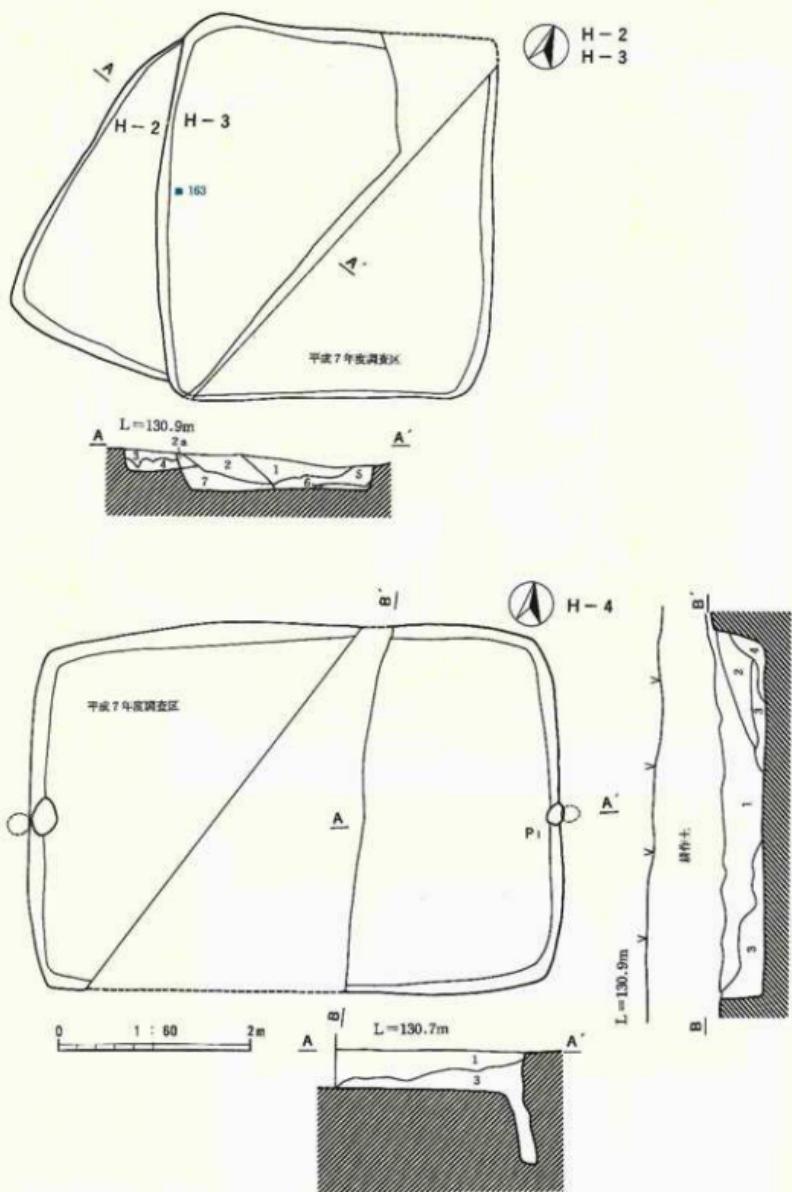


Fig. 30 D区 H-2・3・4 号住居址

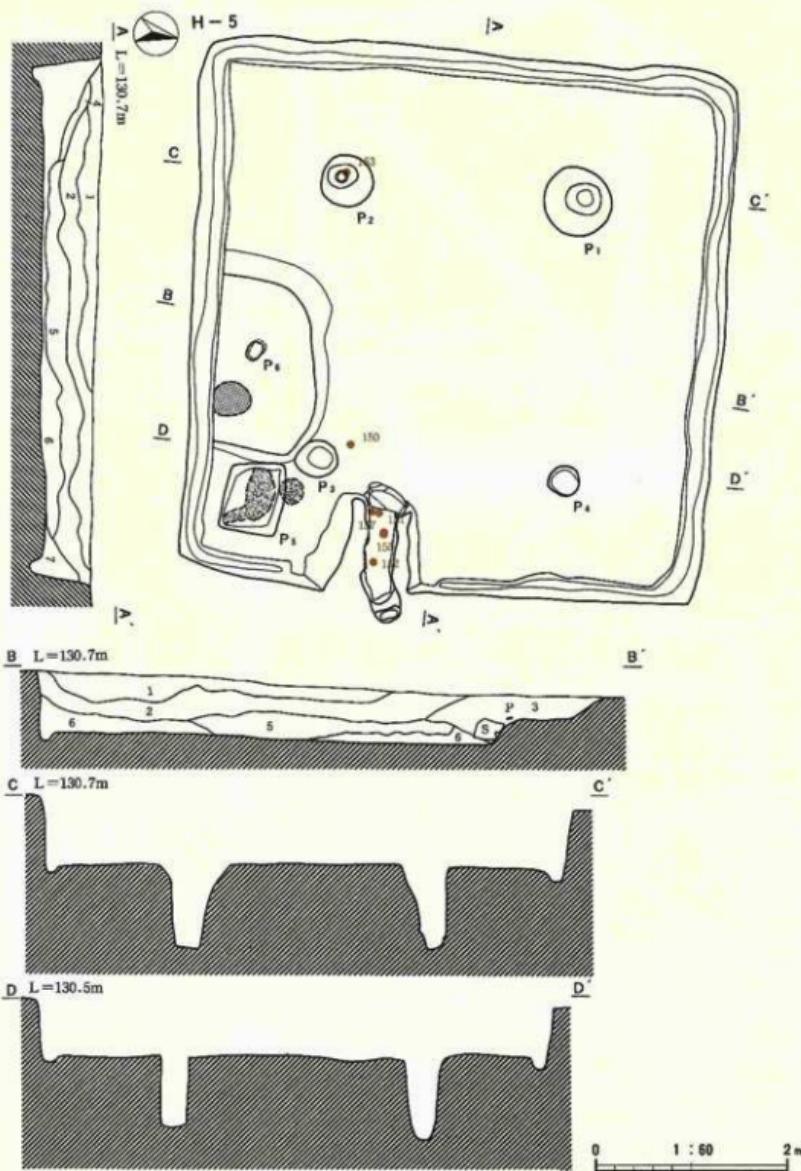


Fig. 31 D区 H-5号住居址

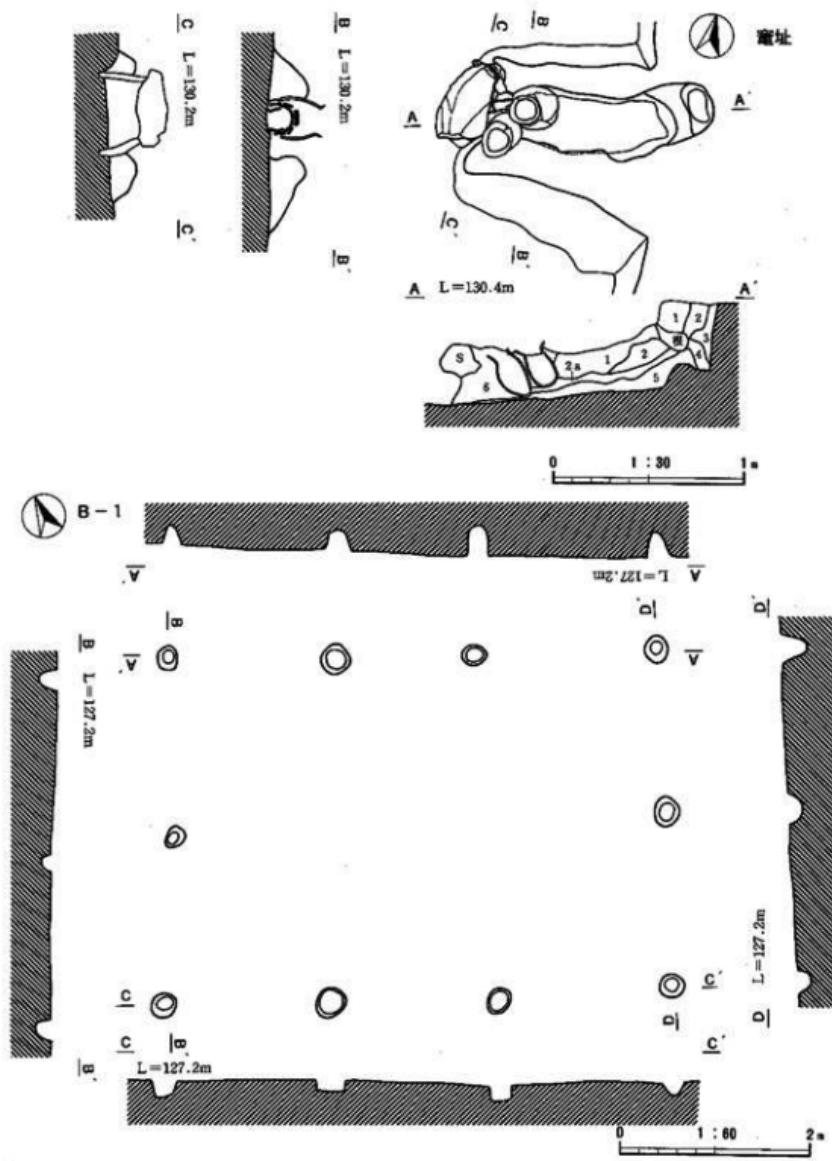


Fig. 32 D区 H-5号住居址 A区 B-1号掘立柱建物跡

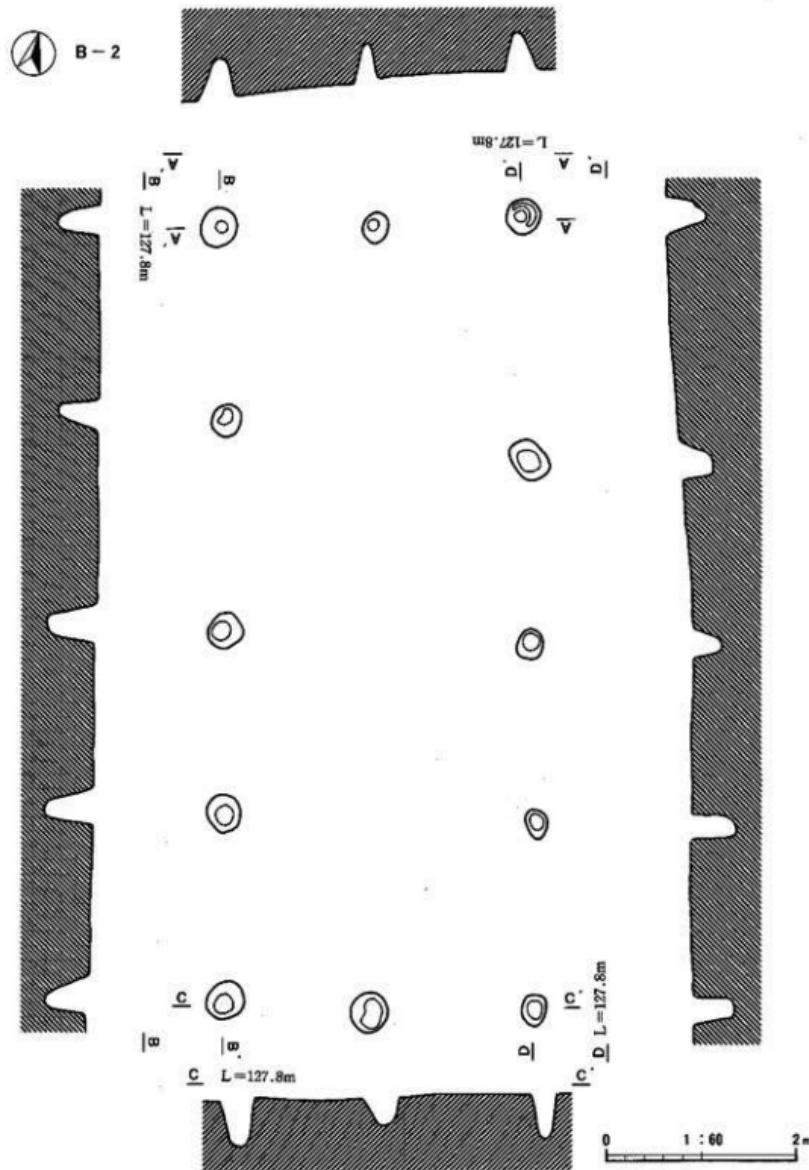


Fig. 33 A区 B-2号掘立柱建物跡

- A区 H-8号生居址層序説明
- 1層 にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ローム粒子を2%含むAs-Cまじりの褐色土
- 2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを3%、径1~2cmのロームブロックを2%、鉄分凝結を5%含む。
- 2a層 にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。As-Cを3%、径1~2cmのロームブロックを2%、鉄分凝結を15%含む。
- 3層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-C・ローム粒子をわずかに含む。
- 4層 黒褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。炭化物・ローム粒子・焼土ブロックをわずかに含む。
- 5層 鮎色細砂層。粘性・締まりあり。径2~5cmのロームブロックを30%、焼土ブロックをわずかに含む。
- 6層 にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。As-Cを2%、ローム粒子を1%、鉄分凝結を5%含む。
- 7層 にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。ローム粒子を1%含む。As-Cを7%含む黒色土がブロック状に入れる。
- 8層 黑褐色細砂層。粘性なし、締まり強い。As-Cを7%、Hr-FPをわずかに含む。部分的にローム粒子が入った褐色土を含む。
- 9層 褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。径1cm前後のロームブロックを1%、焼土ブロックを3%含む。
- 10層 にぶい褐色細砂層。粘性・締まりなし。As-C・ローム粒子をわずかに含む。
- 11層 黑褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。径1cmのロームブロックを3%、As-Cを1%含む。
- 12層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。径1~2cmのロームブロックを15%、炭化物をわずかに含む。
- 12a層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。径1~3cmのロームブロックを7%、鉄分凝結を10%含む。
- 13層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径1~2cmのロームブロックを5%、焼土をわずかに含む。
- 14層 褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。径1~1.5cmのロームブロックを5%、焼土ブロックを1%含む。
- 15層 黑褐色細砂層。粘性・締まりなし。径2~3cmのロームブロックを15%、炭化物をわずかに含む。
- 16層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径1~2cmのロームブロックを5%、焼土ブロックを3%、粘土ブロックを1%含む礫の崩れた層。

- A区 H-10号生居址層序説明
- 1層 褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。Hr-FPを1%含む。
- 2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。鉄分凝結5%、Hr-FPを3%、ローム粒子を5%含む。
- 3層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を3%、焼土粒子を5%含む。
- 4層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Hr-FP粒子を3%、鉄分凝結を含む。
- 5層 にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム漸移層。
- 6層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を3%、焼土粒子を1%含む。
- 7層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子5%、粘土粒子を1%含むローム土と黒色土の混土層。
- 8層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を3%含む。
- 9層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土粒子を1%含むローム土と黒色土の混土層。
- 10層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土を含む炭化物主体。
- 11層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土主体。焼土粒子を3%含む。
- 12層 黑褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土を含む炭化物主体。
- 13層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム粒子を1%、白色粘土ブロックを5%含む。
- 14層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Hr-FP粒子を5%、粘土ブロックを1%、焼土粒子を1%含む。
- 15層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を3%、Hr-FP粒子を1%、鉄分凝結を含む。
- 16層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子・Hr-FP粒子を1%含む。
- 17層 褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を1%、Hr-FP粒子を3%含む。
- 18層 にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックを1%、ローム粒子を5%含む。
- 19層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を5%、粘土ブロックを1%含む。
- 20層 黑褐色細砂層。粘性・締まりあり。炭化物を含む炭化物主体。
- 21層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を3%、鉄分凝結を含む。
- 22層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を5%含む。
- 23層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを含む。
- 24層 褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり、焼土ブロックを含む。

#### A区 H-13号住居址層序説明

- 1層 灰褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。Hr-HP粒子を5%含む。
- 2層 明黄褐色粗砂層。粘性・締まりなし。Hr-HPを多量に含む。
- 3層 褐灰色細砂層。粘性強く、締まりややあり。
- 4層 褐灰色粗砂層。粘性・締まりなし。Hr-HPを15%、一部に火山灰を含む。
- 5層 褐色細砂層。粘性・締まりあり。
- 6層 にぶい褐色粗砂層。粘性・締まりややあり。
- 7層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Hr-FP粒子を5%含む。
- 8層 にぶい褐色粗砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を5%含む。

#### A区 H-13号住居址竪坑層序説明

- 1層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。Hr-HPを上部に、焼土ブロック・ローム粒子を2%含む。
- 2層 暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ローム粒子を3%、Hr-FP・炭化物をわずかに含む。
- 3層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を5%、Hr-FP・焼土粒子を2%、炭化物をわずかに含む。
- 4層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。炭化物を5%、ローム粒子・焼土粒子を2%含む。
- 5層 褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。ロームブロックを1%、焼土・炭化物をわずかに含む。
- 6層 にぶい黄褐色細砂層。粘性強い、締まりあり。ロームブロックを5%、焼土ブロックを3%含む。
- 7層 暗褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土を多量に含む。

#### H-1号住居址層序説明

- 1層 黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。As-Cを7%、Hr-FPを1%含む。
- 2層 暗褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。As-Cを5%、ローム粒子をわずかに含む。
- 3層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを1%含む。
- 4層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを3%、ロームブロックをわずかに含む。
- 5層 褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックを3%、焼土ブロックを1%含む。
- 6層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。
- 7層 黑褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。ロームブロックを1%含むローム土と黒色土の混土層。
- 8層 にぶい黄褐色細砂層。粘性あり、締まり強い。径10cm大的ロームブロックを10%含む。

#### H-2・3号住居址層序説明

- 1層 黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。As-Cを10%含む。
- 2層 黒色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。As-Cを15%含む。
- 2a層 反褐色細砂層。粘性やややあり、締まりあり。As-Cを5%含む。
- 3層 反褐色細砂層。粘性・締まりやややあり。As-Cを3%含む。
- 4層 黄褐色細砂層。粘性・締まりやややあり。ローム土と黒色土の混土層。
- 5層 褐灰色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。As-Cを5%含む。
- 6層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土と黒色土の混土層。
- 7層 にぶい黄褐色粗砂層。粘性・締まりなし。As-C純層。

#### D区 H-4号住居址層序説明

- 1層 粘褐色細砂層。粘性ややあり、しまりあり。As-Cを10%含む。
- 2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを10%含む。
- 3層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームと黒色土の混土層。
- 4層 灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを3%含む黒色土主体のローム混土層。

D区 H-5号住居址層序説明

- 1層 黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを15%含む。
- 2層 灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを7%含む。
- 3層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックをわずかに含むローム土と黒色土の混土層。
- 4層 褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを3%、径0.5~1cmロームブロックを3%含む。
- 5層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを1%、径1cmのロームブロックを3%含む。
- 6層 灰黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径1cmのロームブロックを1%含む黒色土主体のローム混土層。
- 7層 黑褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cを1%、径0.5cmのロームブロックを1%含む黒色土主体の層。

D区 H-5号住居址層序説明

- 1層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径8mmのロームブロックを2%含む。
- 2層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子・焼土粒子を2%含む。
- 2b層 にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックをわずかに含む。
- 3層 路褐色細砂層。粘性なし・締まりややあり。ローム粒子をわずかに含む。
- 4層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。ロームブロックを10%含む。
- 5層 にぶい赤褐色細砂層。粘性なし・締まりややあり。径10mmの焼土ブロックを7%、ロームブロックをわずかに含む。
- 6層 にぶい赤褐色細砂層。粘性あり・締まりややあり。ローム粒子をわずかに含む。

D区 H-6号住居址層序説明

- 1層 黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。As-Cを5%、ローム粒子をわずかに含む。
- 2層 路褐色細砂層。粘性・締まりややあり。As-Cをわずかに含むローム土混じりの褐色土。
- 3層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。

D区 H-6号住居址層序説明

- 1層 暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを10%、炭化物をわずかに含む。
- 2層 暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックをわずかに含むローム土と褐色土の混じり。
- 3層 路褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土と褐色土の混じり。
- 4層 にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。ロームブロックをわずかに含む。
- 5層 黑褐色細砂層。粘性・締まりなし。根の痕か。

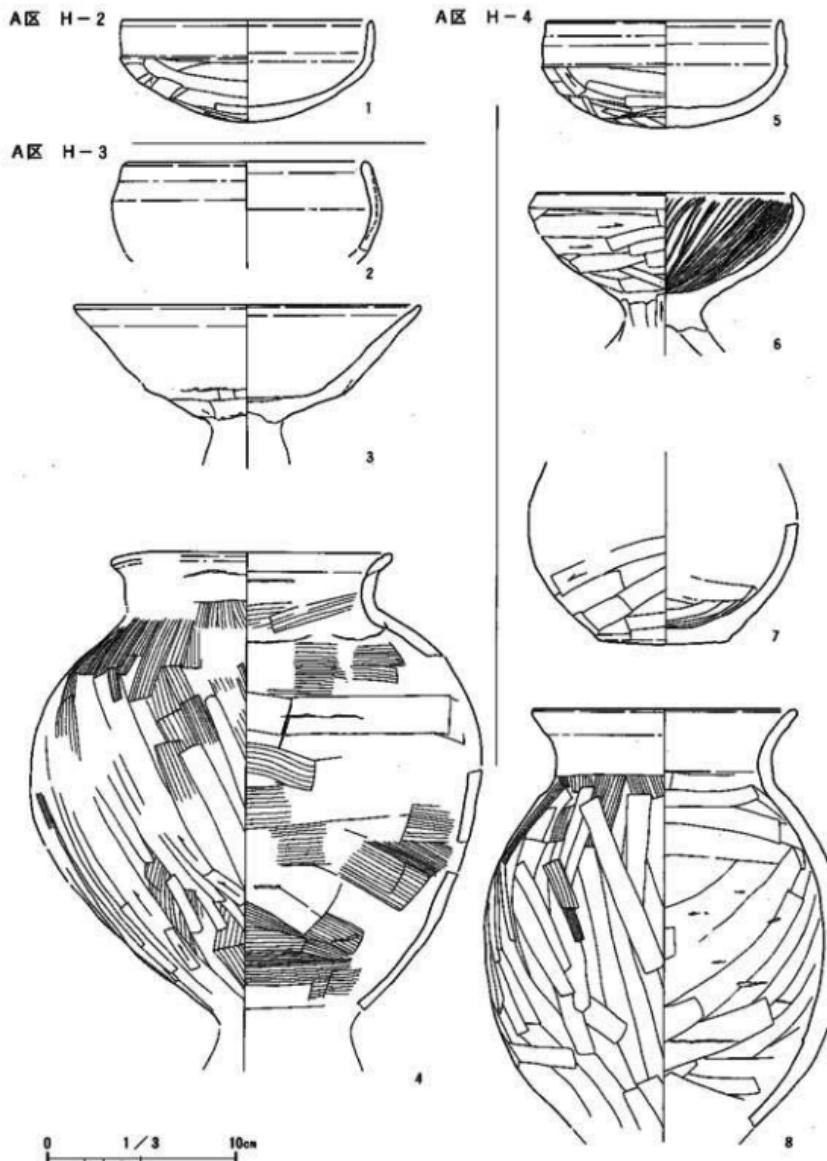


Fig. 34 A区 H-2～4号住居址出土の土器

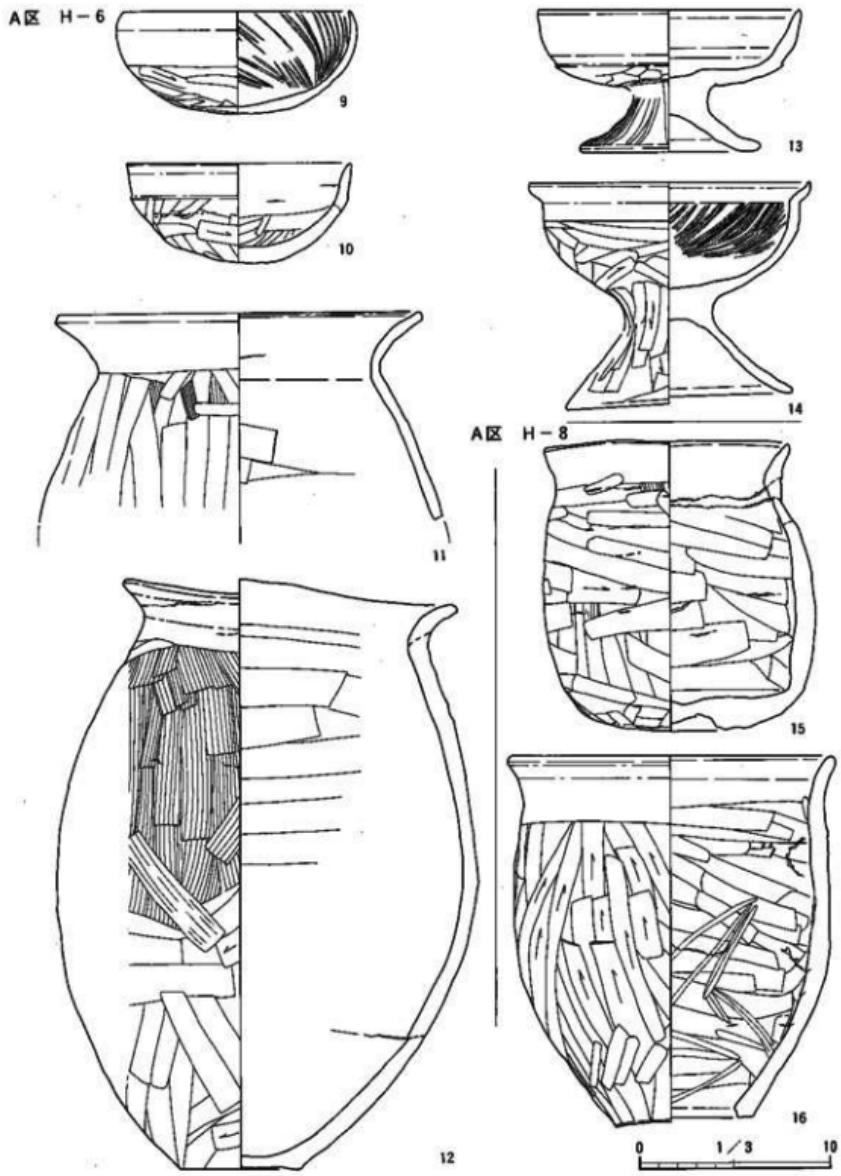


Fig. 35 A区 H-6・8住居址出土の土器

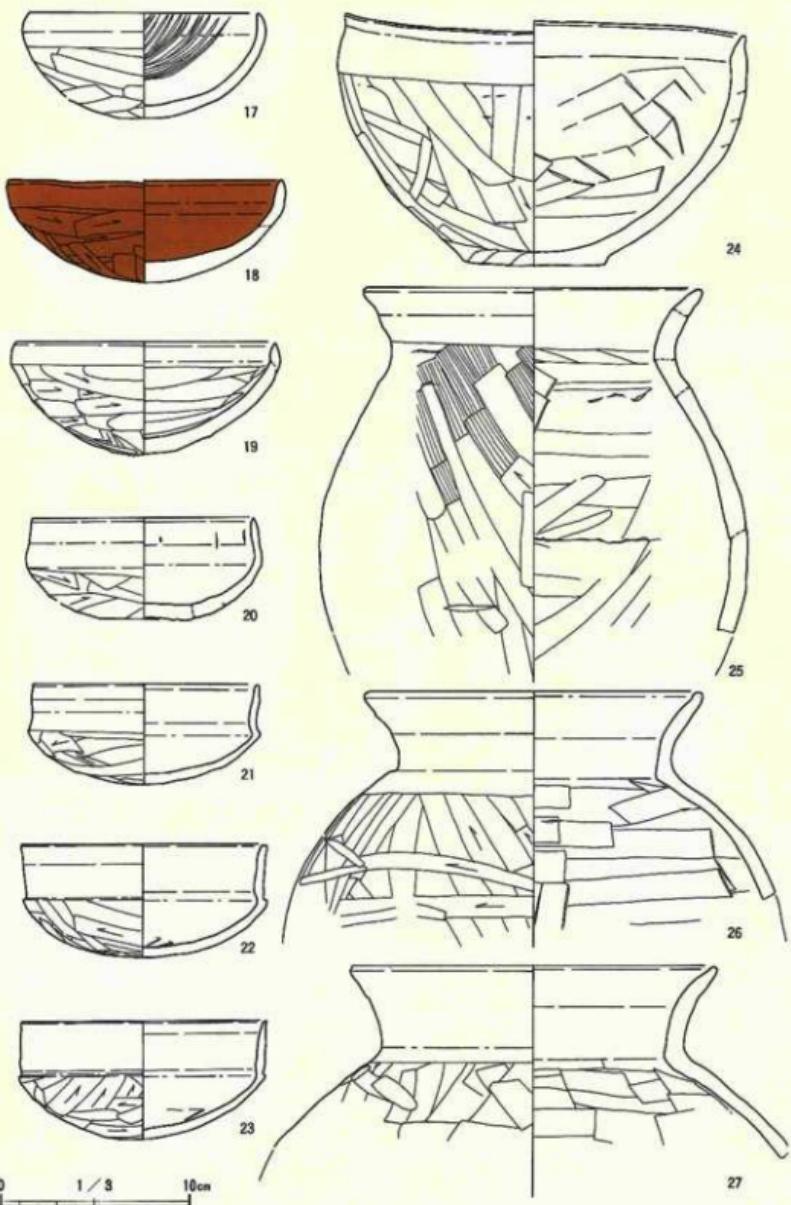


Fig. 36 A区 H-8号住居址出土の土器

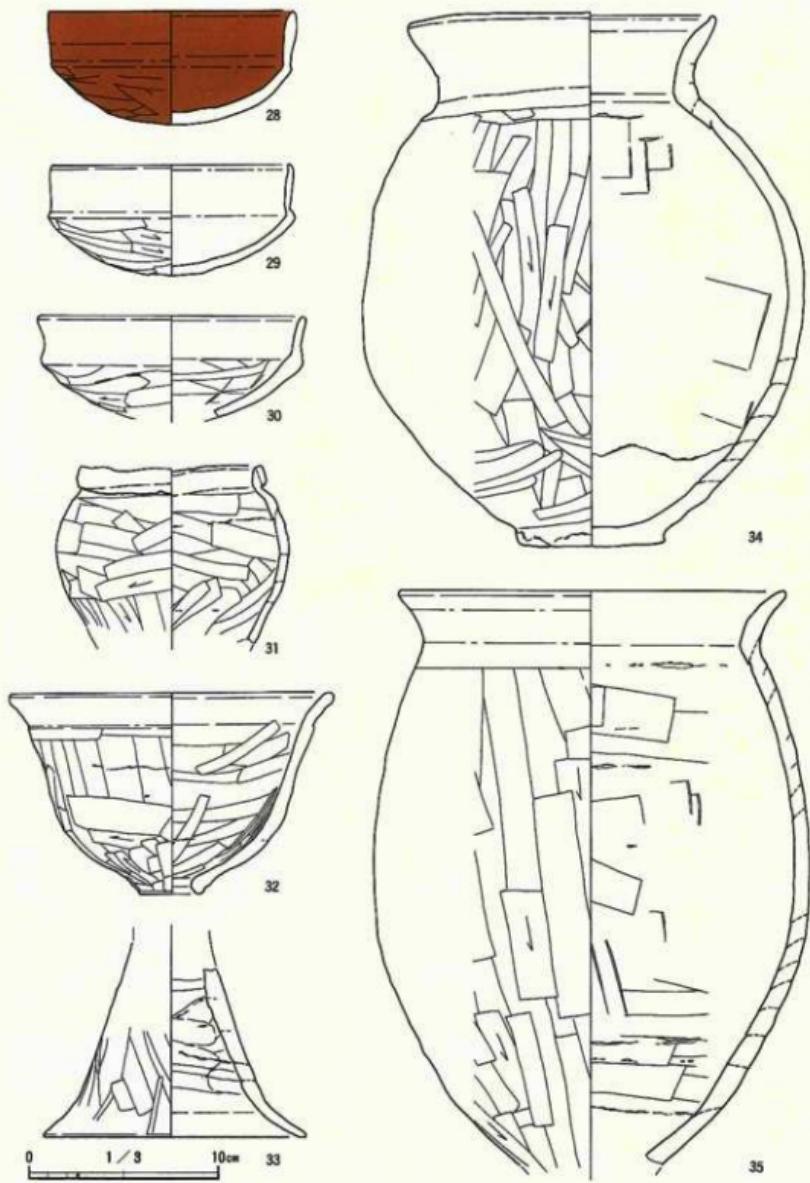
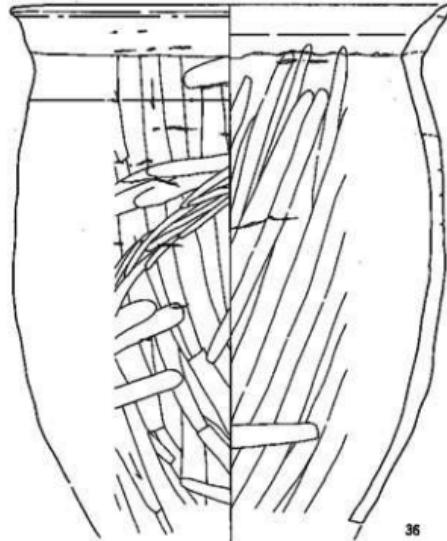


Fig. 37 A区 H-8号性居址出土の土器

A区 H-8



36

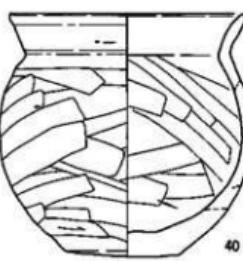
A区 H-10



38

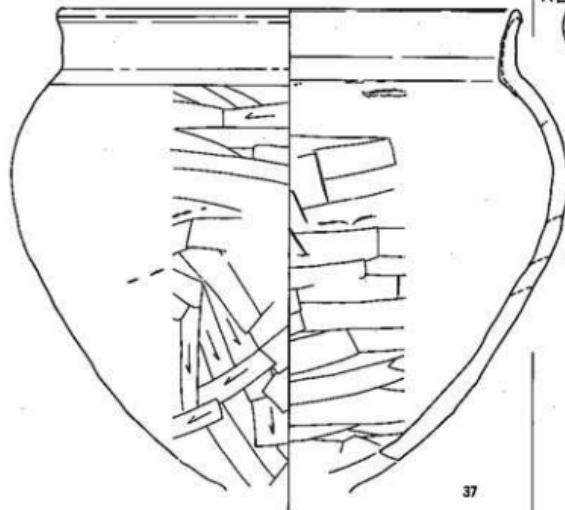


39



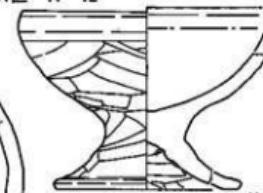
40

A区 H-12

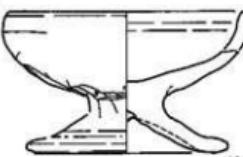


37

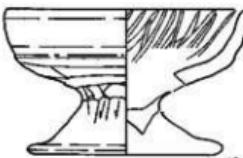
0 1 / 3 10cm



41



42



43

Fig. 38 A区 H-8・10・11・12号住居址出土の土器

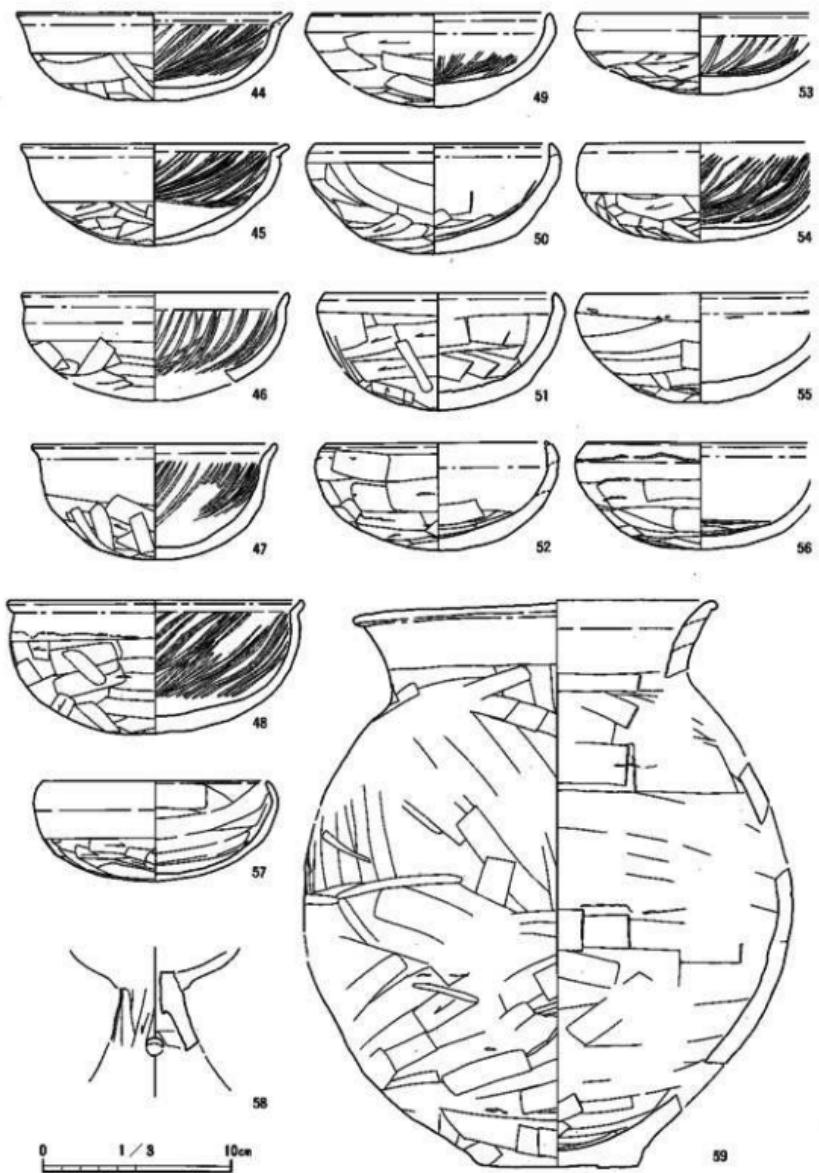
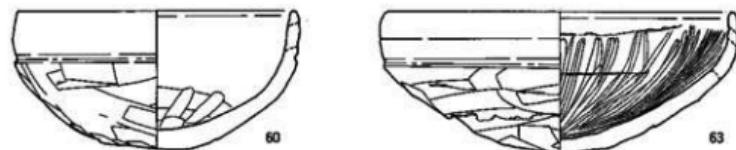
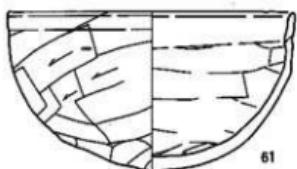


Fig. 39 A区 H-12号住居址出土の土器



60

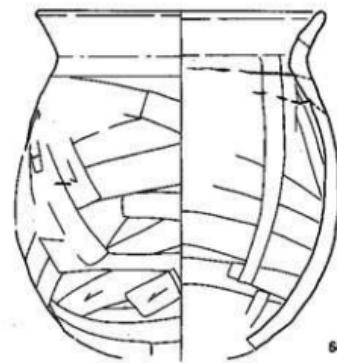
63



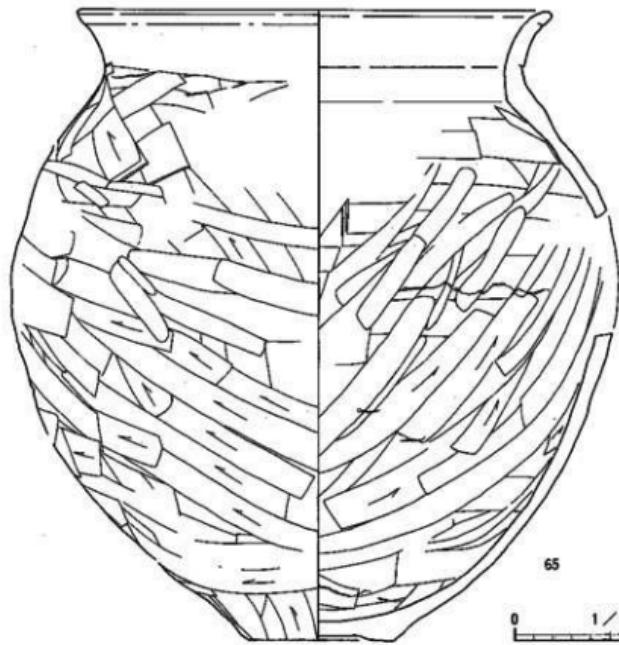
61



62



64



65

0 1 / 3 10cm

Fig. 40 A区 H-12号住居址出土の土器

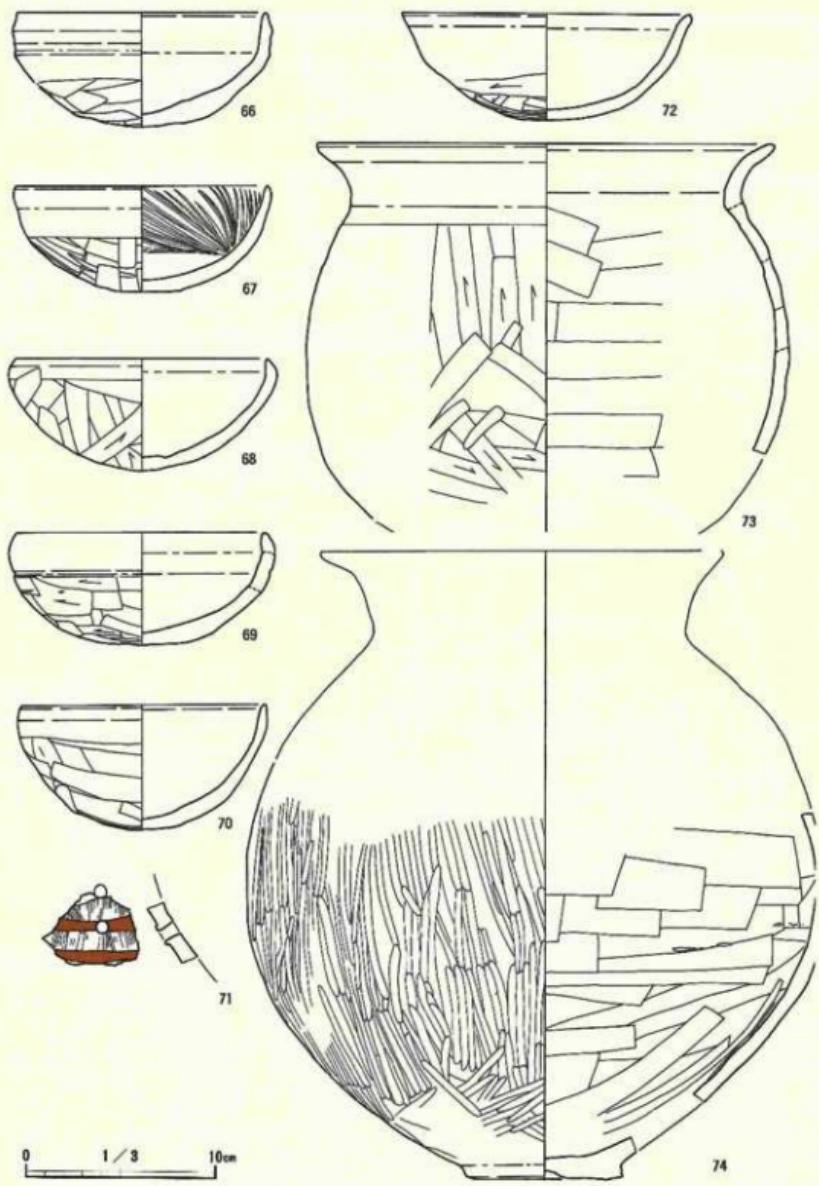


Fig. 41 A区 H-12号住居址出土の土器

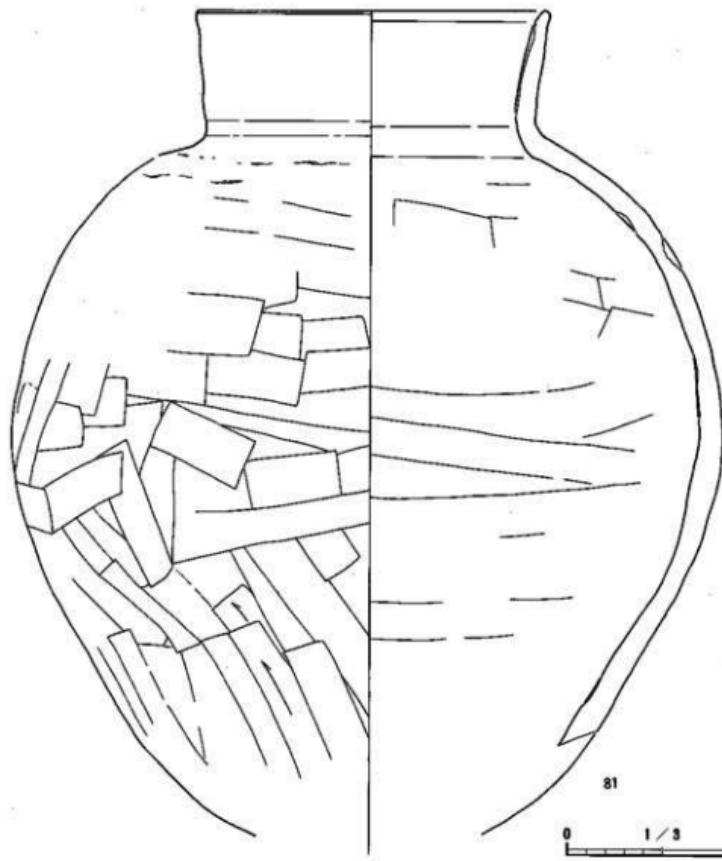
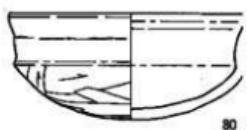
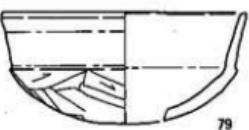
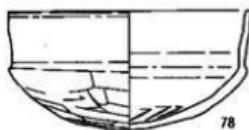
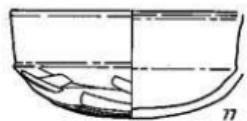
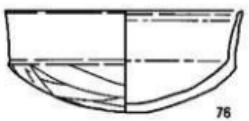
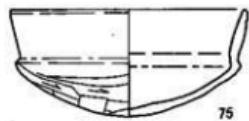


Fig. 42 A区 H-12号住居址出土の土器

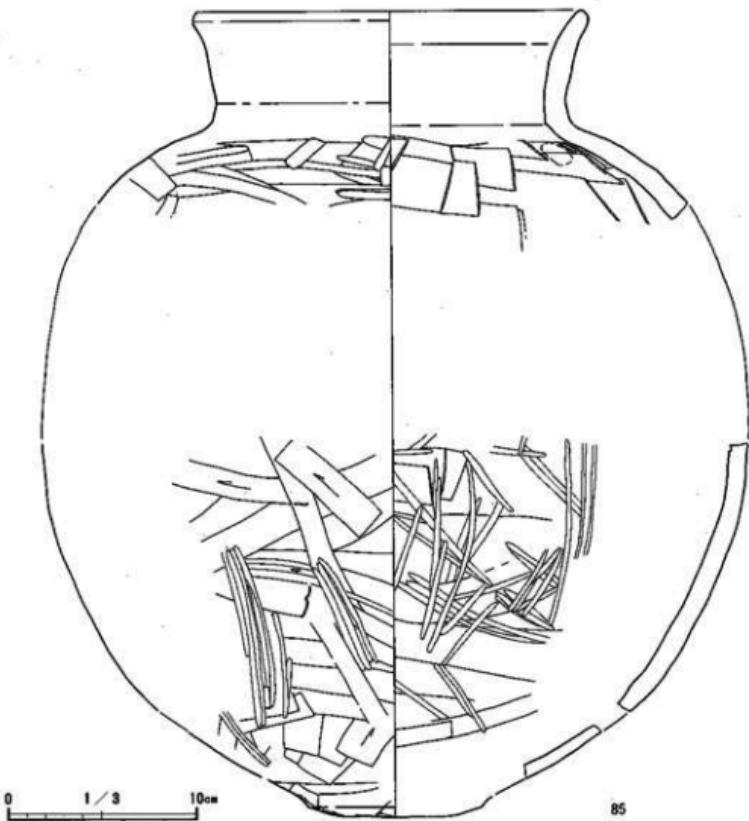
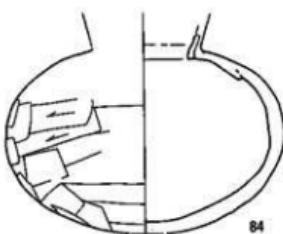
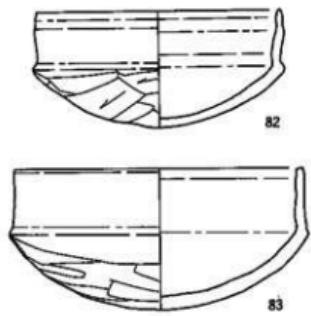


Fig. 43 A区 H-12号住居址出土の土器

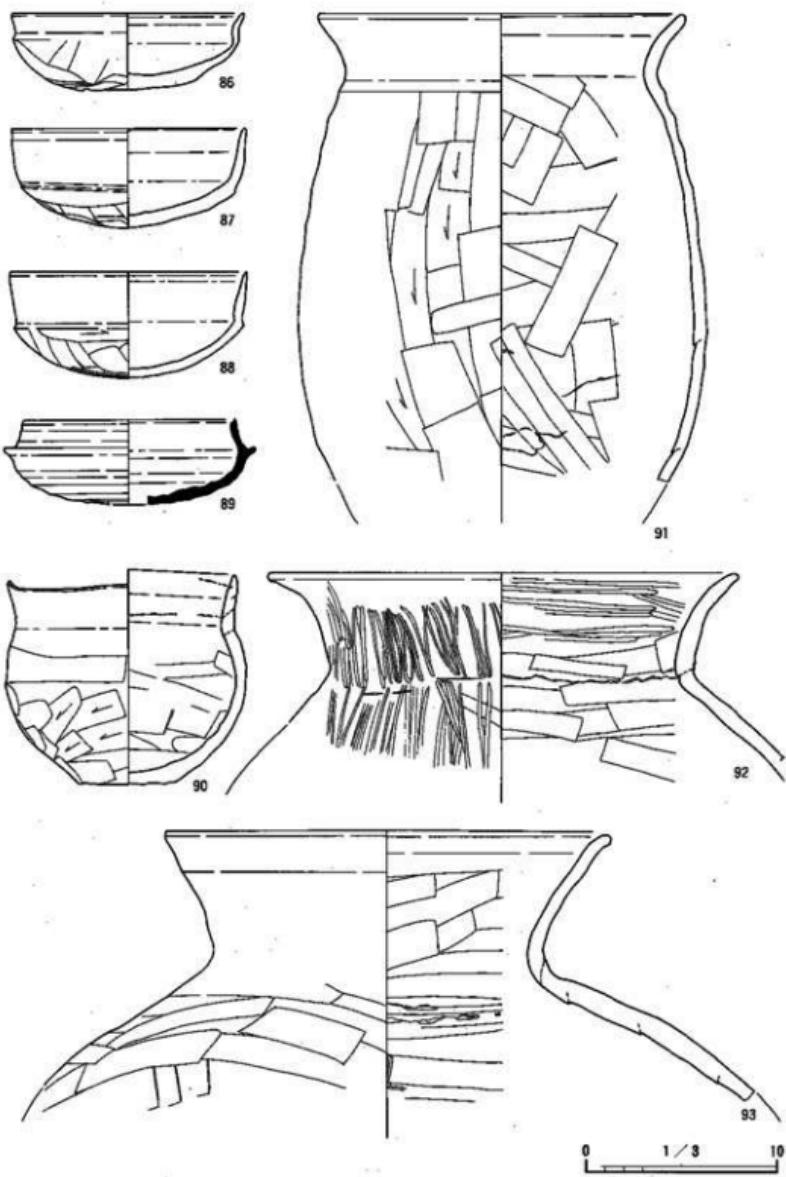


Fig. 44 A区 H-12号住居址出土の土器

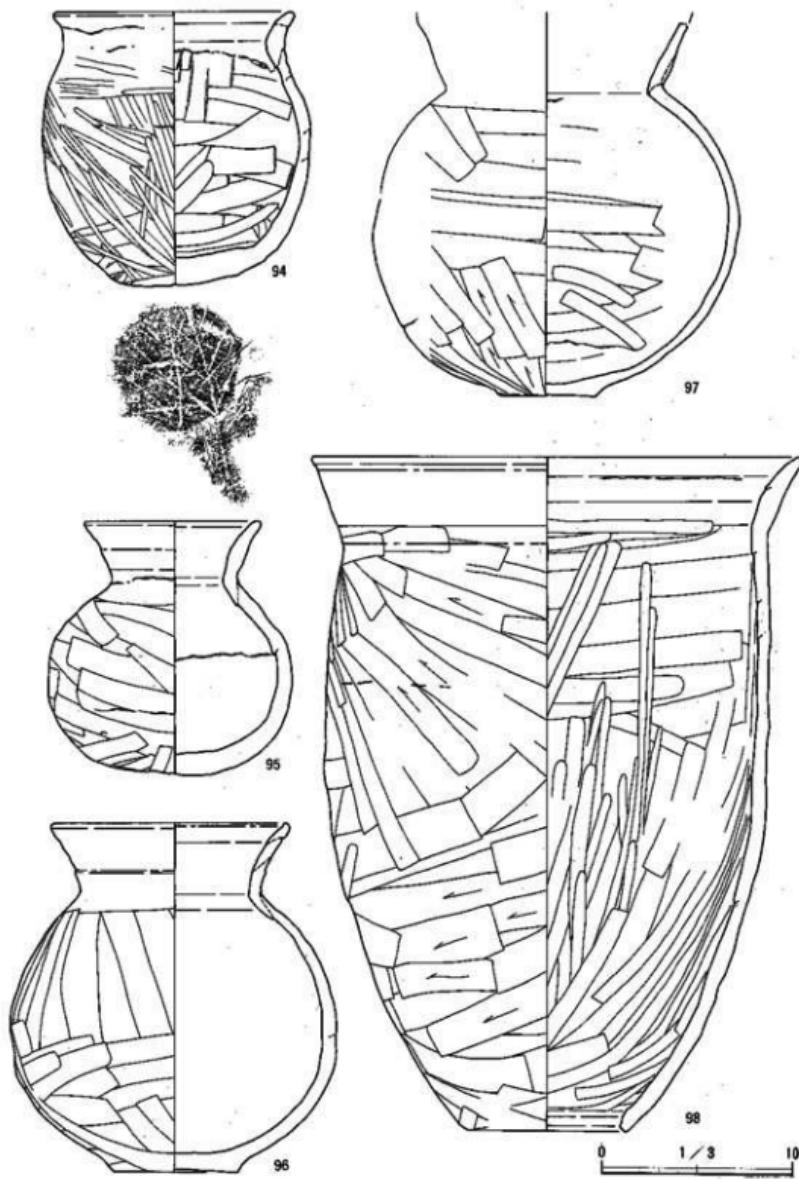
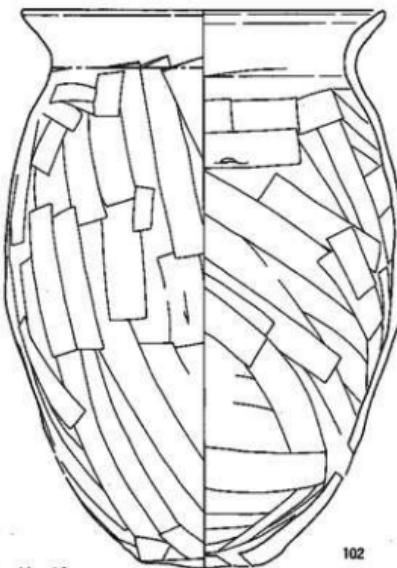
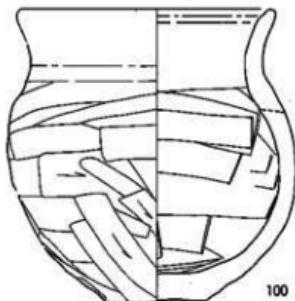
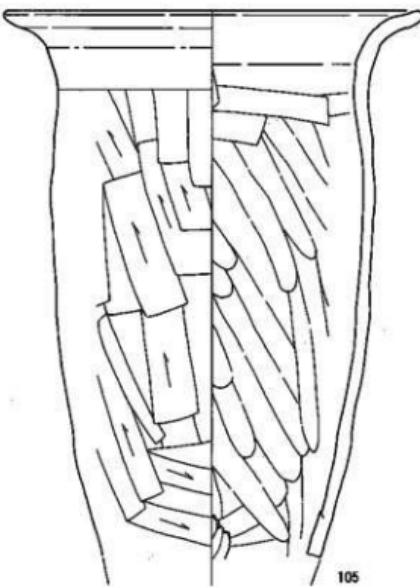
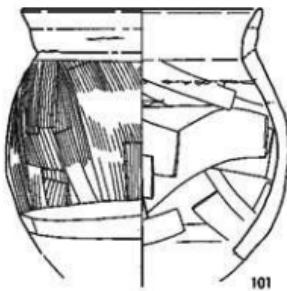


Fig. 45 A区 H-12号住居址出土の土器

A区 H-12



A区 H-13



0 1 / 3 10cm

Fig. 46 A区 H-12・13号住居址出土の土器

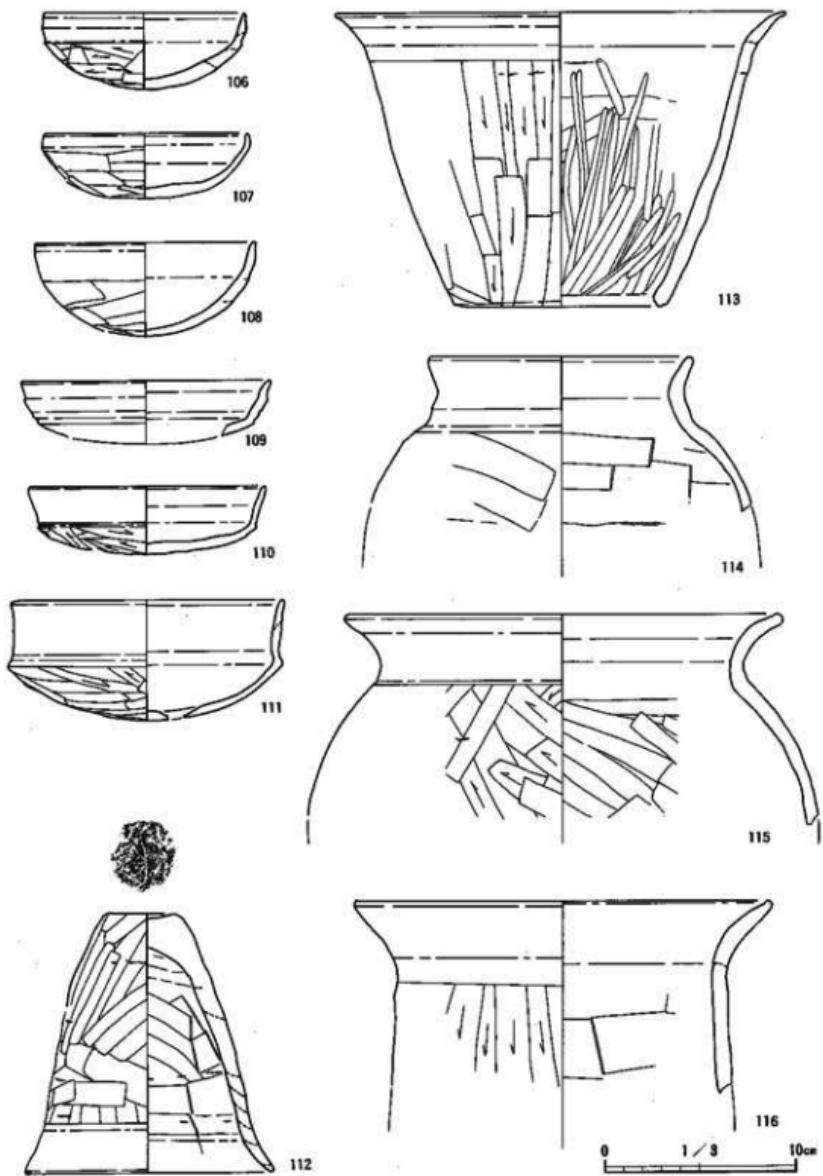


Fig. 47 A区 H-13号住居址出土の土器

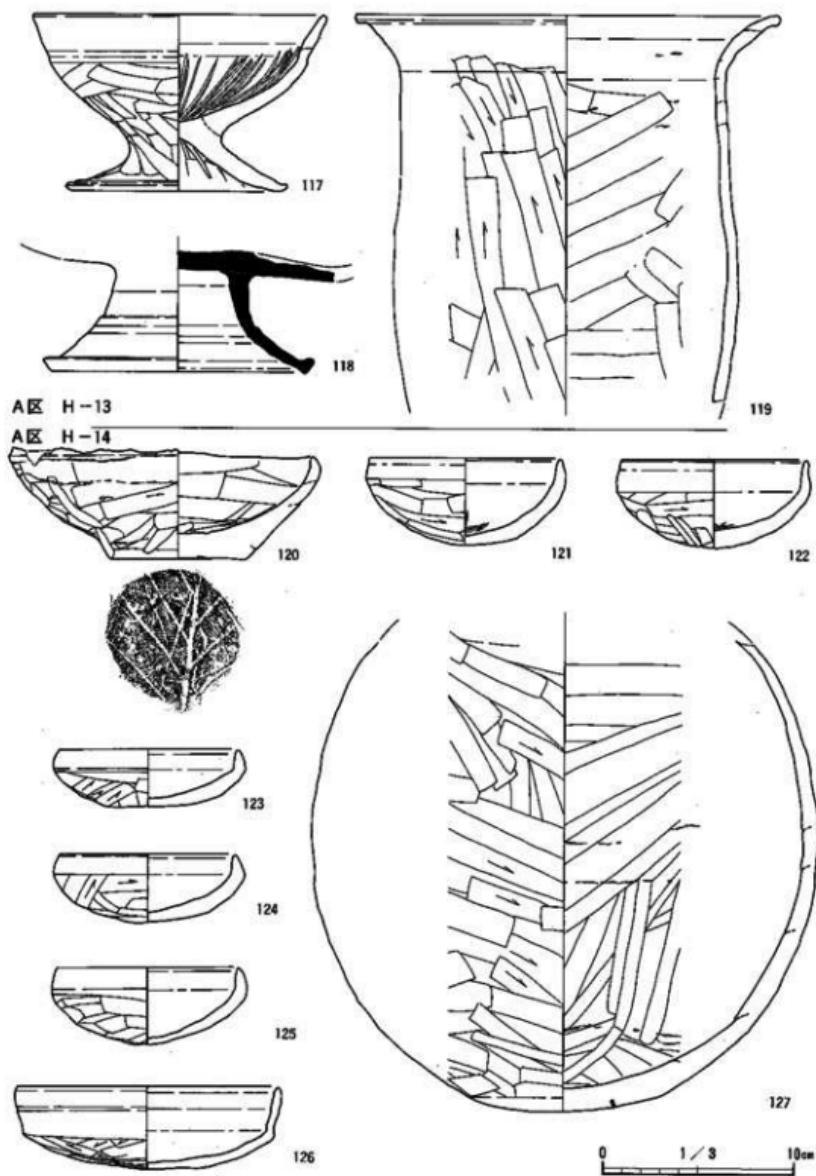


Fig. 48 A区 H-13・14号住居址出土の土器

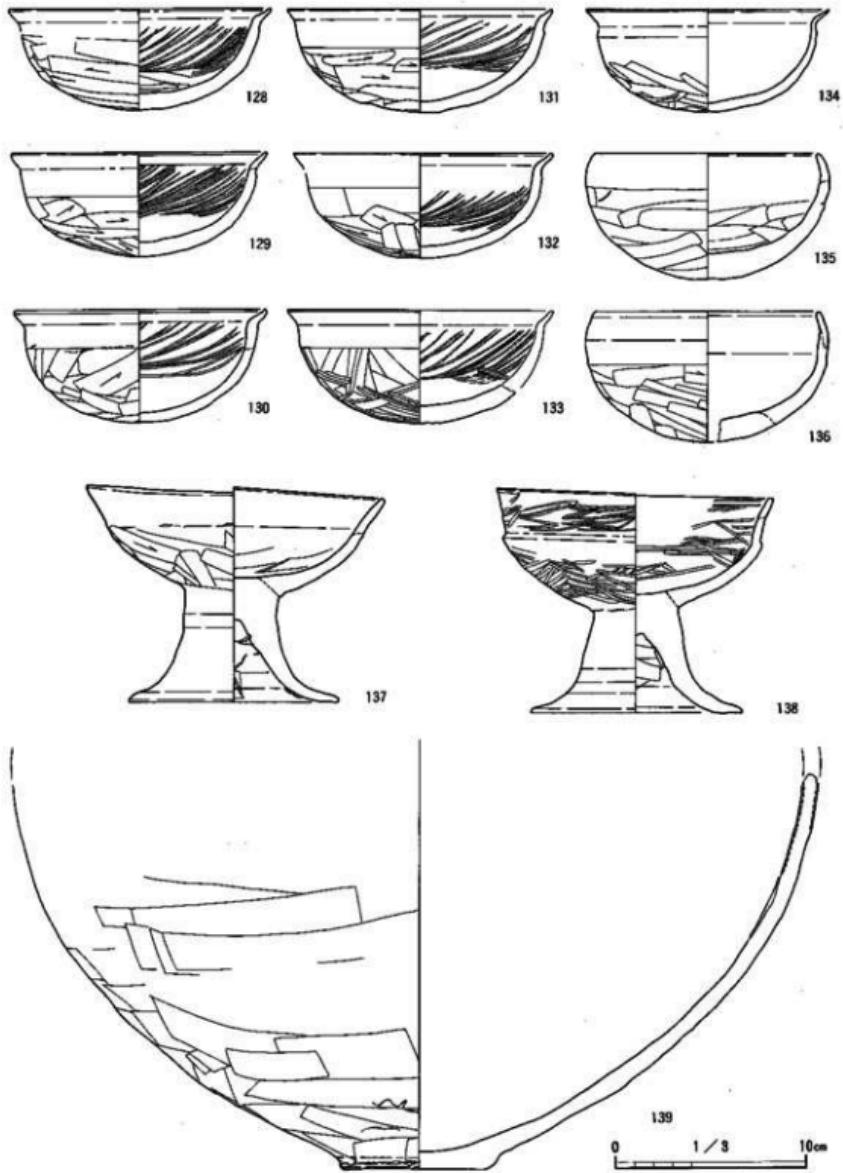
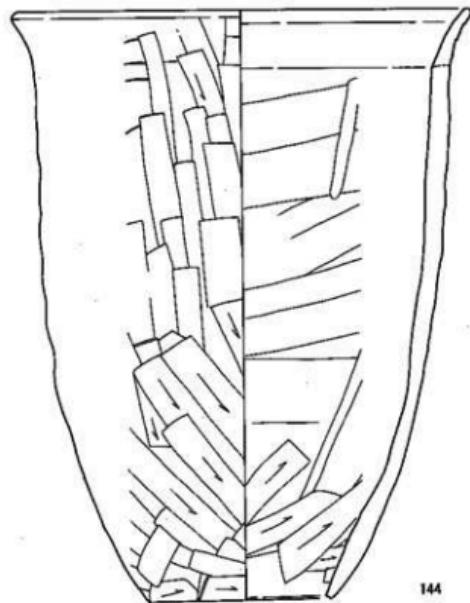
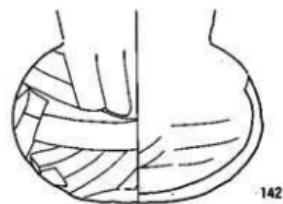
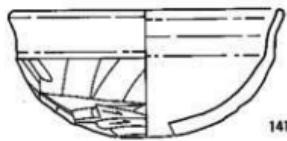
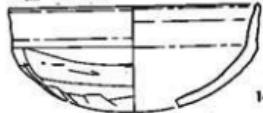
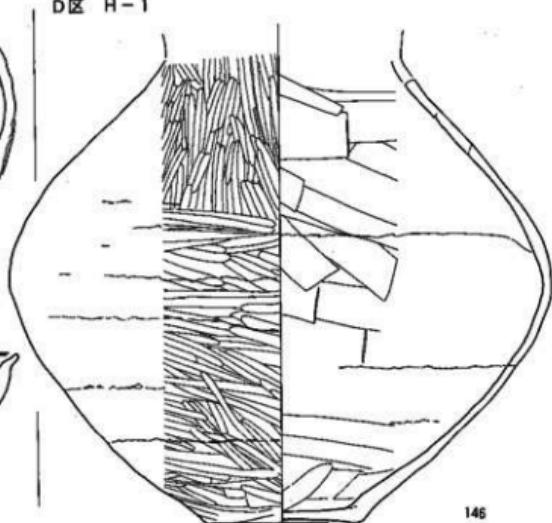
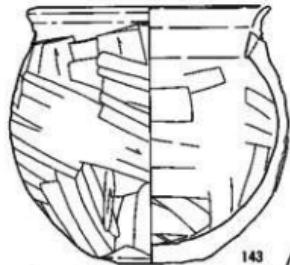


Fig. 49 A区 H-16号住居址出土の土器

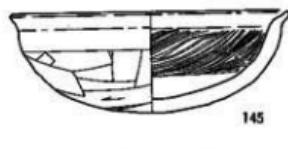
A区 H-16



D区 H-1



A区 表採



0 1 / 3 10cm

Fig. 50 A区 H-16号住居址、表採、D区 H-1号住居址出土の土器

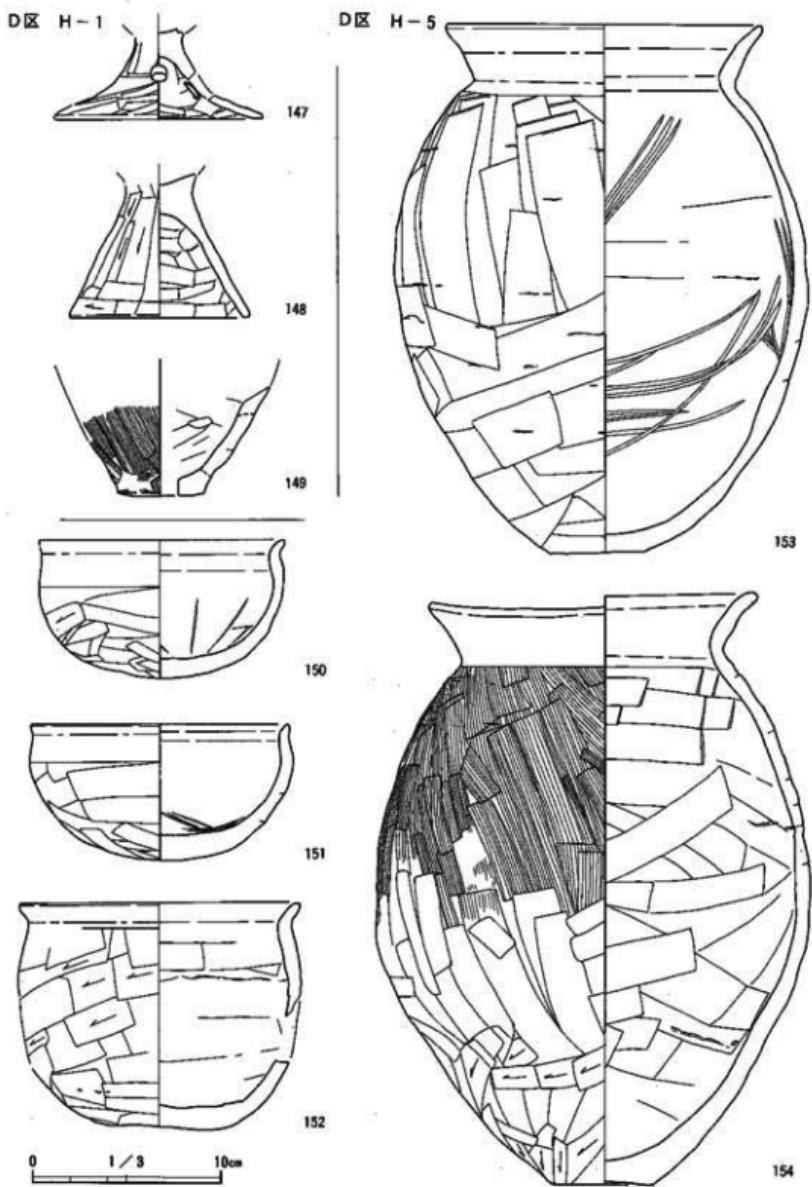
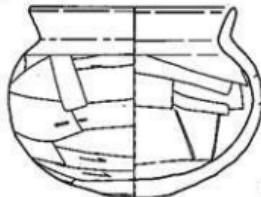
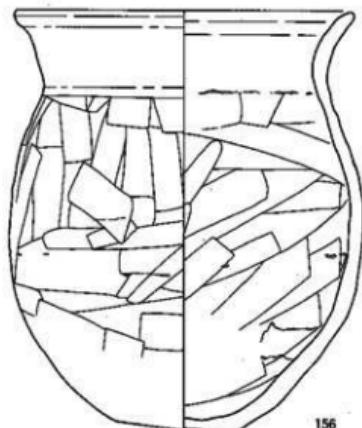


Fig. 51 D区 H-1・5号住居址出土の土器

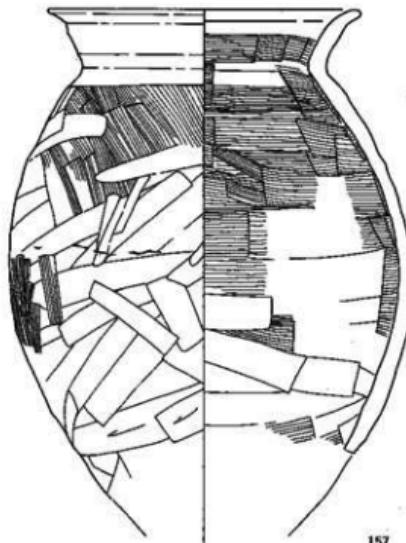
D区 H-5



155

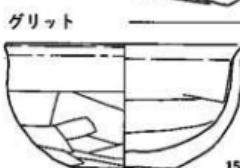


156

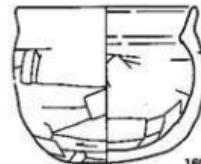


157

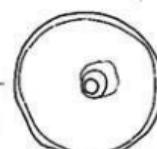
D区 H-3



158

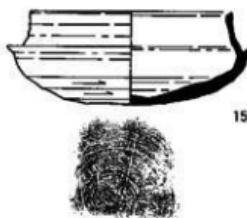


160

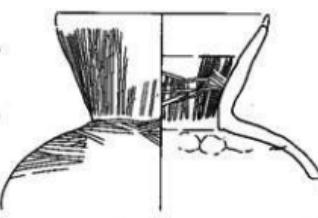


163

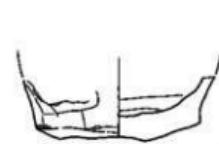
0 1/3 3cm



159



161



162

0 1/3 10cm

0 1/3 3cm

Fig. 52 D区 H-3・5号住居址、グリット出土の土器と土製品

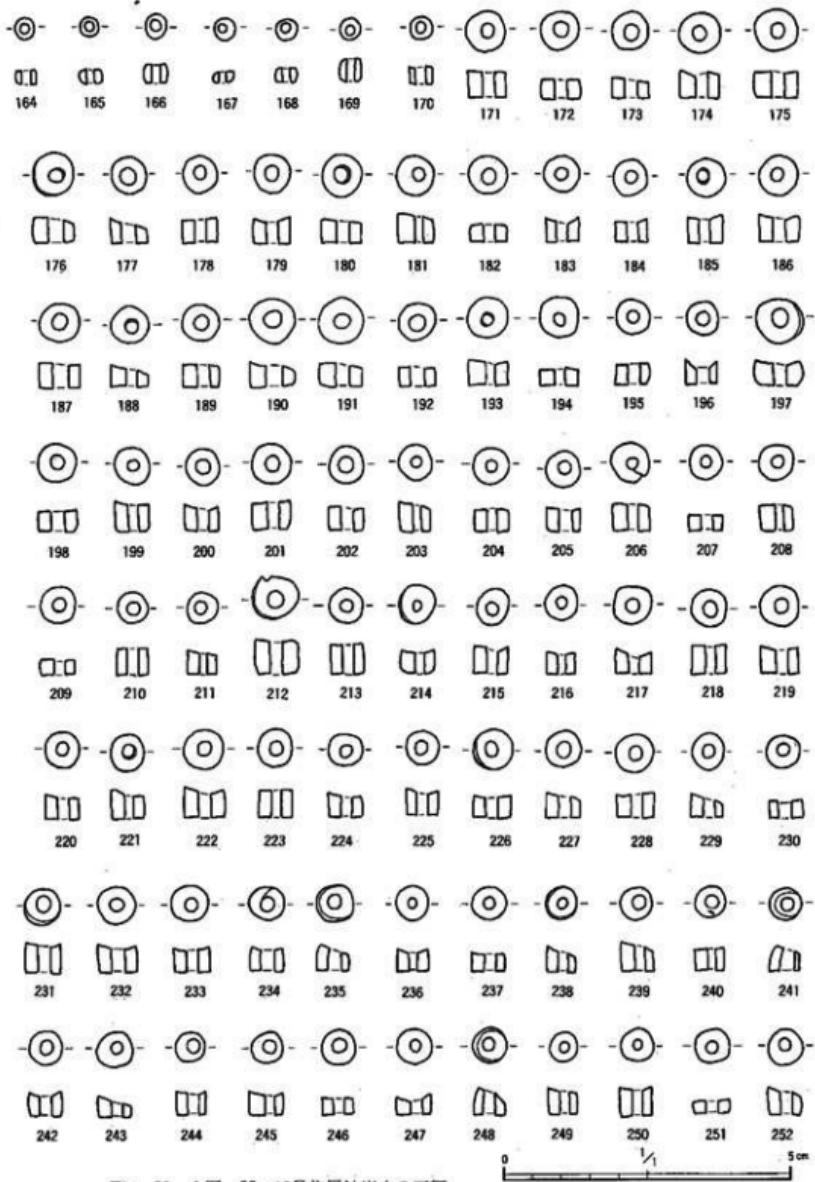


Fig. 53 A区 H-12号住居址出土の玉類

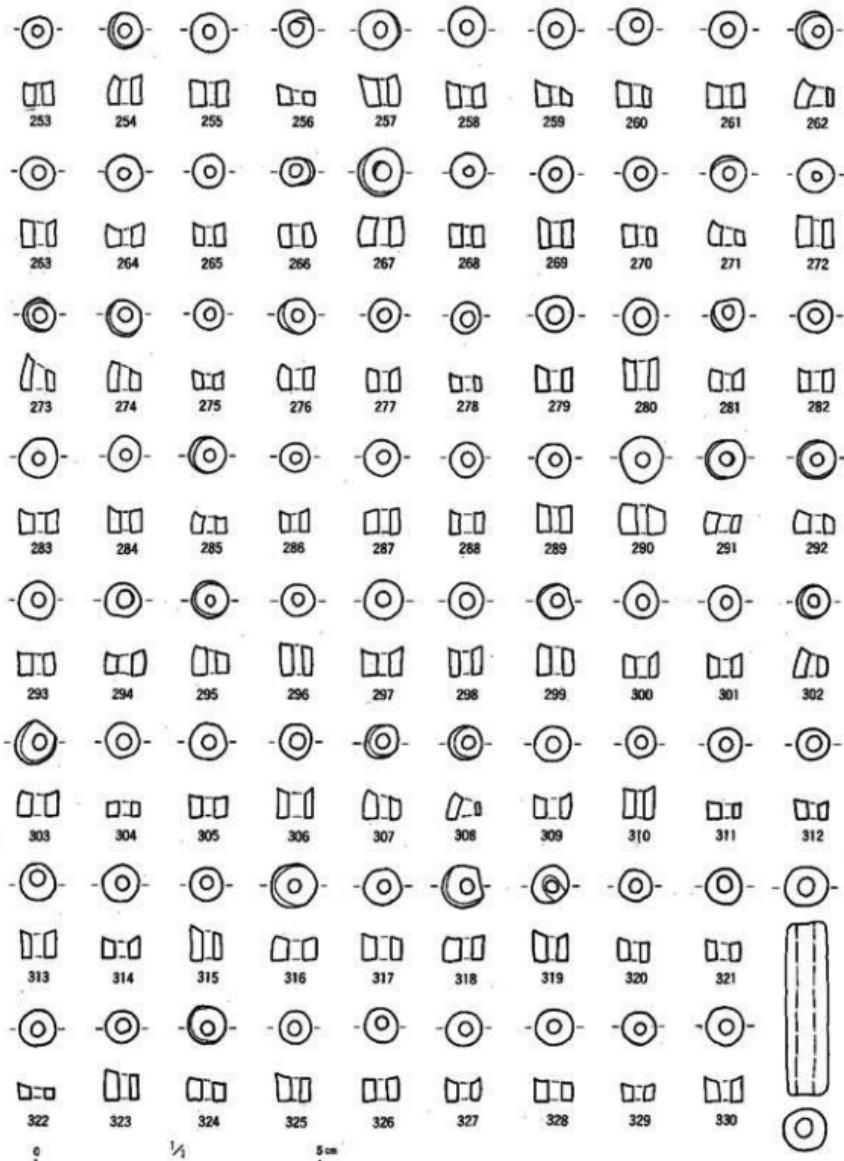


Fig. 54 A区 H-12号住居址出土の玉類

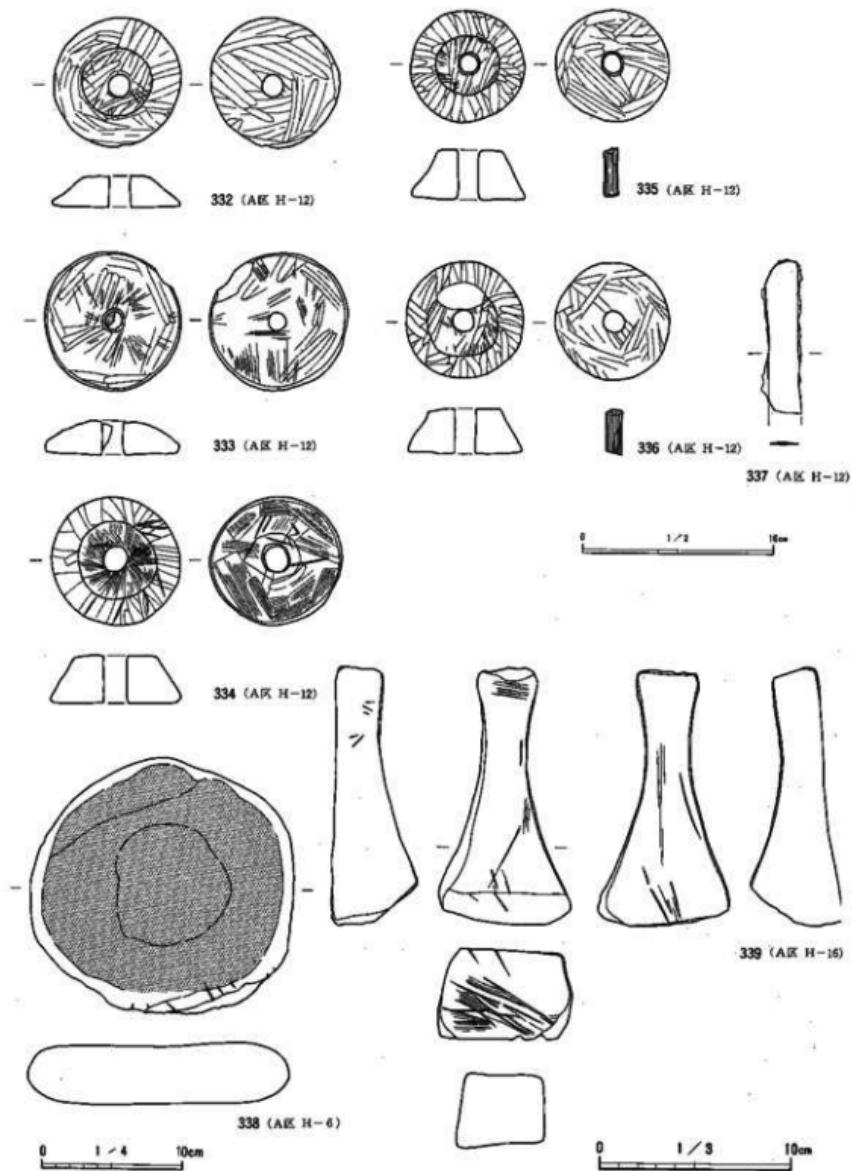


Fig. 55 A区 H-6・12・16号住居址出土の石製品と鉄製品

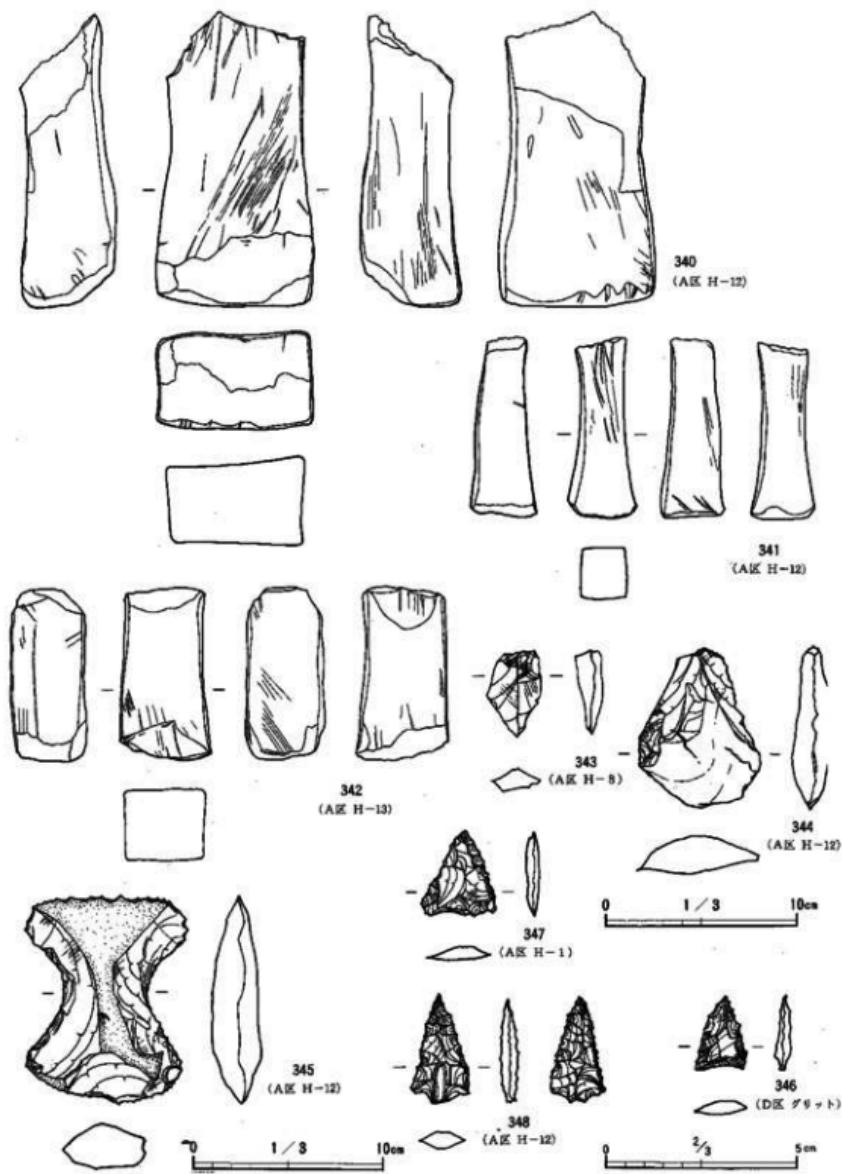


Fig. 56 A区 H-1・8・12・13号住居址・D区 グリットの石器



1. A区 H-1号住居址（北から）



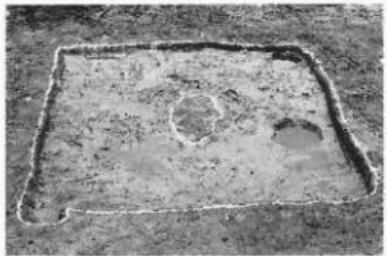
2. A区 H-2号住居址（西から）



3. A区 H-2号住居址竈（西から）



4. A区 H-3号住居址（東から）



5. A区 H-4号住居址（北から）



6. A区 H-4号住居址遺物出土状態（東から）



7. A区 H-5号住居址（北から）



8. A区 H-9号住居址（西から）



9. A区 H-6号住居址（西から）



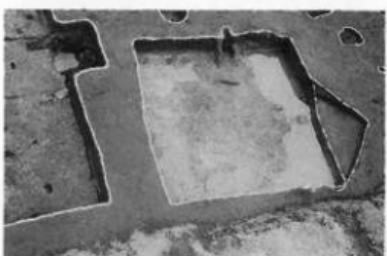
10. A区 H-6号住居址竈（西から）



11. A区 H-6号住居址張り出しピット（北から）



12. A区 H-8号住居址（西から）



13. A区 H-8、9号住居址（上空西から）



14. A区 H-8号住居址竈（西から）



15. A区 H-8号住居址遺物出土状態（西から）



16. A区 H-8号住居址遺物出土状態（北から）



17. A区 H-11号住居址東西セクション（南から）



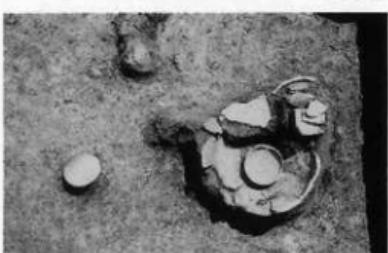
18. A区 H-10号住居址（西から）



19. A区 H-10号住居址竈（西から）



20. A区 H-14号住居址（北から）



21. A区 H-14号住居址遺物出土状態（北から）



22. A区 H-12号住居址（上空西から）



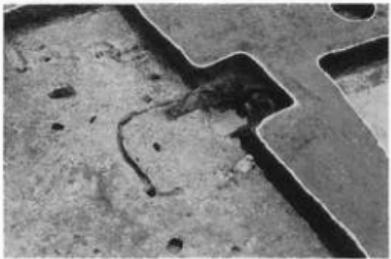
23. A区 H-12号住居址間仕切り溝（北から）



24. A区 H-12号住居址間仕切り溝（北から）



25. A区 H-12号住居址張り出し部（北東から）



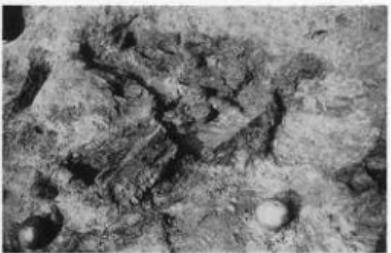
26. A区 H-12号住居址張り出し部（上空北西から）



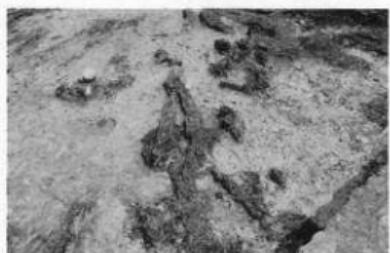
27. A区 H-12号住居址竪（北西から）



28. A区 H-12号住居址竪（西から）



29. A区 H-12号住居址竪付近炭化物（西から）



30. A区 H-12号住居址炭化物（北西から）



31. A区 H-12号住居址炭化物（西から）



32. A区 H-12号住居址遺物出土状態(南西から)



33. A区 H-12号住居址遺物出土状態(東から)



34. A区 H-12号住居址遺物出土状態(西から)



35. A区 H-12号住居址遺物出土状態(西から)



36. A区 H-13号住居址(西から)



37. A区 H-13号住居址甌(西から)



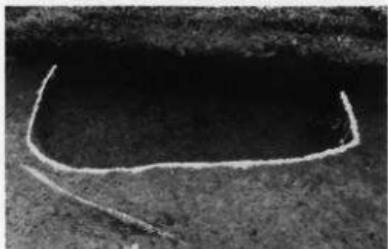
38. A区 H-13号住居址煙出し部(北から)



39. A区 H-13号住居址遺物出土状態(北から)



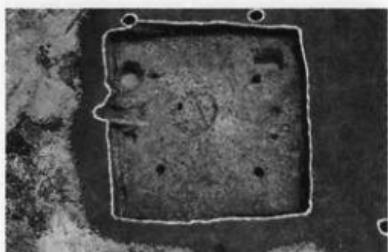
40. A区 H-13号住居址遺物出土状態（西から）



41. A区 H-15号住居址（東から）



42. A区 H-16号住居址（南東から）



43. A区 H-16号住居址（上空から）



44. A区 H-16号住居址竈（南から）



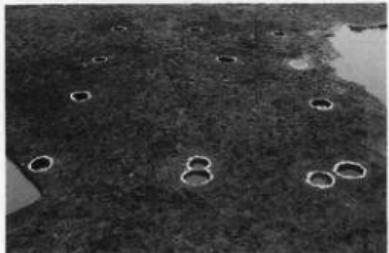
45. A区 H-16号住居址遺物出土状態（南から）



46. A区 H-16号住居址貯蔵穴遺物出土状態（南から）



47. A区 H-16号住居址遺物出土状態（上から）



48. A区 B-1号掘立柱建物跡（西から）



49. A区 B-2号掘立柱建物跡（北から）



50. A区 全景（上空北から）



51. A区 全景（上空西から）



52. B区 全景（南から）



53. B区 全景（東から）



54. C区 トレンチ（北から）



55. C区 トレンチ（北から）



56. D区全景（南から）



57. D区 全景（北から）



58. D区 東部（西から）



59. D区 西部（東から）



60. D区 南部（西から）



61. D区 中央部（南から）



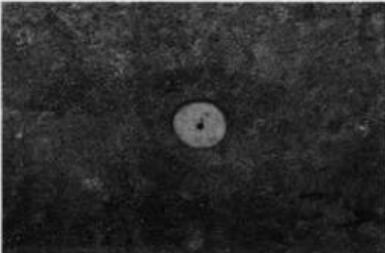
62. D区 H-1号住居址（南から）



63. D区 H-1号住居址遺物出土状態（北から）



64. D区 H-2、3号住居址（東から）



65. D区 H-3号住居址（西から）



66. D区 H-4号住居址（東から）



67. D区 H-5号住居址（西から）



68. D区 H-5号住居址竪遺物出土状態（西から）



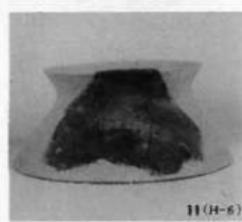
69. D区 H-5号住居址竪（西から）



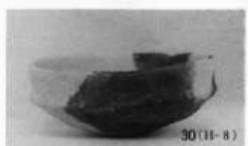
70. D区 H-5号住居址竪遺物出土状態（東から）

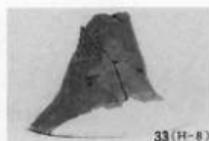


71. D区 H-5号住居址遺物出土状態（南から）



P L. 12





33 (H-8)



34 (H-8)



35 (H-8)



36 (H-8)



37 (H-8)



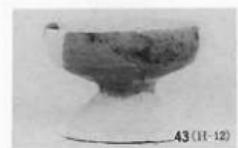
38 (H-10)



40 (H-10)



42 (H-12)



43 (H-12)



41 (H-12)



44 (H-12)



45 (H-12)



46 (H-12)



47 (H-12)



48 (H-12)

P L. 14



49 (H-12)



50 (H-12)



51 (H-12)



52 (H-12)



53 (H-12)



54 (H-12)



55 (H-12)



56 (H-12)



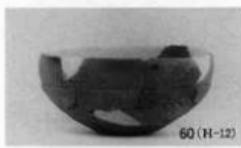
57 (H-12)



58 (H-12)



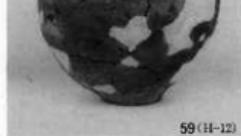
59 (H-12)



60 (H-12)



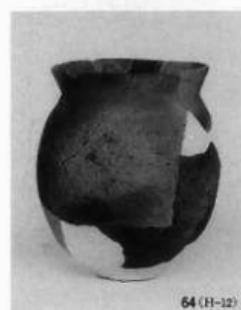
61 (H-12)



62 (H-12)



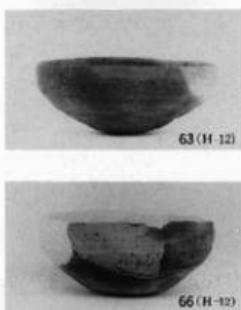
63 (H-12)



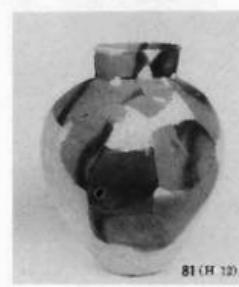
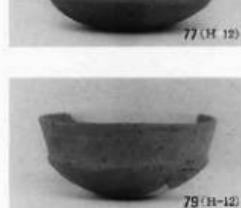
64 (H-12)

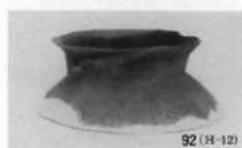


65 (H-12)



66 (H-12)







101(H-12)



102(H-12)



103(H-13)



105(H-13)



106(H-13)



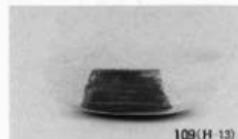
107(H-13)



110(H-13)



108(H-13)



109(H-13)



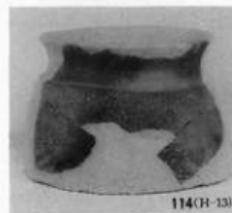
111(H-13)



112(H-13)



113(H-13)



114(H-13)



115(H-13)



116(H-13)

P L . 18



117(H-13)



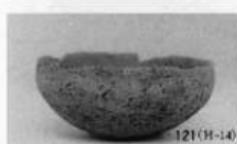
118(H-13)



119(H-13)



120(H-14)



121(H-14)



122(H-14)



123(H-14)



124(H-14)



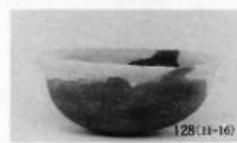
125(H-14)



126(H-14)



127(H-14)



128(H-16)



129(H-16)



130(H-16)



131(H-16)



132(H-16)



133(H-16)



134(H-16)



135(H-16)



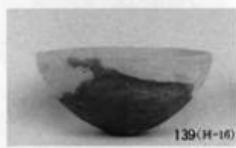
136(H-16)



137(H-16)



138(II-16)



139(H-16)



142(H-16)



143(H-16)



140(H-16)



141(H-16)



144(H-16)



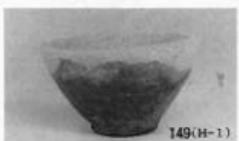
146(II-1)



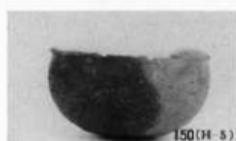
145(素面)



148(H-1)



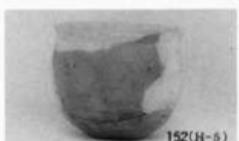
149(H-1)



150(H-5)

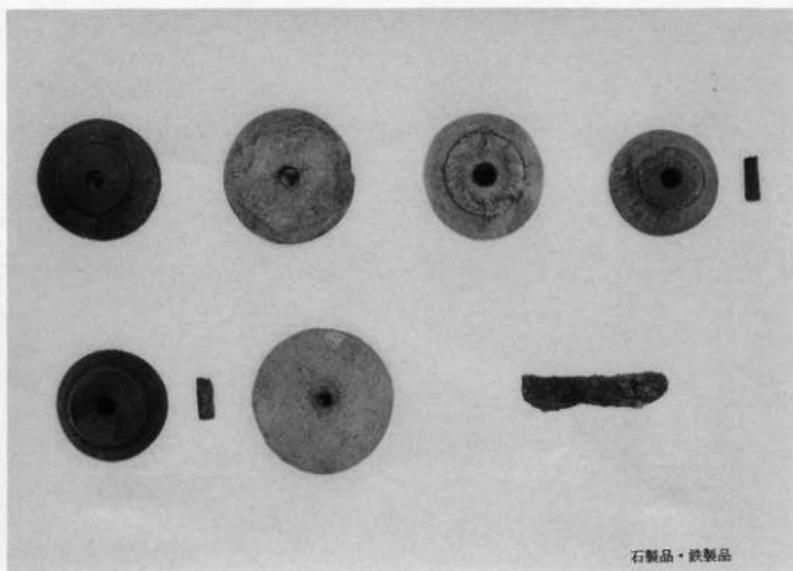


151(H-5)

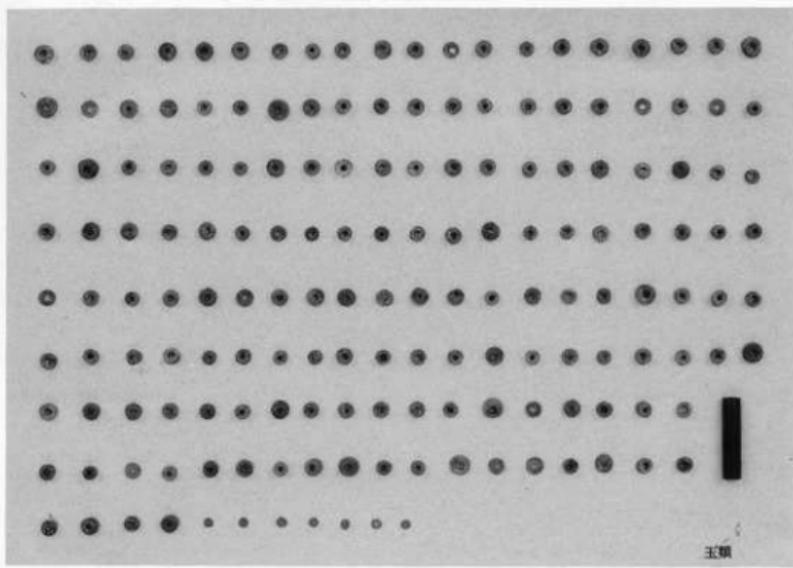


152(H-5)





石製品・鉄製品



玉類



石器

---

## 内堀遺跡群 XI

---

平成11年3月19日 印刷

平成11年3月26日 発行

編集発行 前橋市教育委員会文化財保護課  
〒371-0007 前橋市上泉町664-4  
TEL 027-231-9531  
印刷 上毎印刷工業株式会社

---









